別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画								
事　項	記　入　欄							備　考
計画の区分	学部の設置							
フリガナ 設置者	ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝ　ﾀｲｼｮｳﾀﾞｲｶﾞｸ 学校法人　大正大学							
フリガナ 大学の名称	ﾀｲｼｮｳﾀﾞｲｶﾞｸ 大正大学　(Taisho University)							
大学本部の位置	東京都豊島区西巣鴨3丁目20番1号							
大学の目的	教育基本法及び学校教育法に従い、仏教精神「智慧と慈悲の実践」により人間を総合的に理解し、人類の福祉に貢献する人材を養成すること							
新設学部等の目的	【心理社会学部】 心理学、社会学を中心とする人間科学の知見に基づいて、個人の心理から社会現象に至るまでを幅広く統合的な視野から理解する能力と高いコミュニケーション能力を身につけ、それぞれの職業領域や地域社会で自ら課題を発見・解決して積極的に貢献できる人材を養成する。 【人間科学科】 社会学や心理学を中心とした人間科学の幅広い知見と高い公共性を身につけ、時代の変化に積極的に対応し、自ら課題を発見・解決できる人材を育成する。 【臨床心理学科】 臨床心理学の基礎的知見に基づいて、人間の多様なあり方を探索、理解し、周囲と円滑なコミュニケーションを形成しつつ、幅広い社会領域で貢献することのできる人材を育成する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
		年	人	年次 人	人		年　月 第　年次	
	心理社会学部 [Faculty of Psychology and Sociology]							東京都豊島区西巣鴨3丁目20番1号
	人間科学科 [Department of Human Sciences]	4	120	3年次 3	486	学士（人間科学）	平成28年4月 第1年次 平成30年4月 第3年次	
	臨床心理学科 [Department of Clinical Psychology]	4	110	3年次 5	450	学士（臨床心理学）	平成28年4月 第1年次 平成30年4月 第3年次	
	計							
同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	人間学部 臨床心理学科（廃止）　（△110） （3年次編入学定員）　（△5） 人間科学科（廃止）　（△120） （3年次編入学定員）　（△3） ※平成28年4月学生募集停止 （3年次編入学定員は平成30年4月学生募集停止） 平成27年3月　地域創生学部設置認可申請（平成27年8月認可） 地域創生学部地域創生学科（100）　（平成28年4月） 平成27年12月　収容定員の変更に係る学則変更届出 人間学部 人間環境学科〔定員減〕　（△5）　（平成28年4月） 教育人間学科〔定員減〕　（△5）　（平成28年4月）							

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数	
		講義	演習	実験・実習	計		
	心理社会学部　人間科学科	147　科目	17　科目	1　科目	165　科目	124　単位	
	心理社会学部　臨床心理学科	137　科目	22　科目	4　科目	163　科目	124　単位	

教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等						兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
			人	人	人	人	人	人	人	
	新設分	心理社会学部　人間科学科	8 (8)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	88 (67)	
		臨床心理学科	8 (4)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	12 (8)	0 (0)	84 (70)	
		計	16 (12)	6 (6)	4 (4)	0 (0)	26 (22)	0 (0)	－ (－)	
	既設分	仏教学部　仏教学科	9 (10)	4 (8)	4 (4)	1 (1)	18 (23)	0 (0)	59 (59)	
		人間学部　社会福祉学科	6 (6)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	18 (18)	
		人間環境学科	4 (5)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	8 (9)	0 (0)	18 (18)	
		教育人間学科	5 (5)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	11 (11)	
		文学部　人文学科	5 (7)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	8 (10)	0 (0)	7 (7)	
		日本文学科	3 (3)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	10 (10)	
		歴史学科	10 (12)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	14 (16)	0 (0)	25 (25)	
		表現学部　表現文化学科	9 (10)	2 (3)	1 (1)	3 (3)	15 (17)	0 (0)	50 (50)	
		地域創生学部　地域創生学科	8 (6)	3 (2)	5 (4)	0 (0)	16 (12)	0 (0)	32 (13)	平成27年8月31日認可
		その他	0 (0)	4 (0)	9 (3)	4 (1)	17 (4)	0 (0)	80 (80)	
		計	59 (64)	27 (27)	24 (17)	9 (6)	119 (114)	0 (0)	－ (－)	
	合計		75 (76)	33 (33)	28 (21)	9 (6)	145 (136)	0 (0)	－ (－)	

教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計
		人	人	人
	事務職員	102 (102)	40 (40)	142 (142)
	技術職員	0 (0)	1 (1)	1 (1)
	図書館専門職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	その他の職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	計	102 (102)	41 (41)	143 (143)

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	校舎敷地	36,415.76 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	36,415.76 ㎡	校舎敷地のうち、21,135.55㎡は（学）佛教教育学園から貸与［貸与期間］H28.4.1から20年間
	運動場用地	31,428.50 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	31,428.50 ㎡	
	小計	67,844.26 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	67,844.26 ㎡	
	その他	5,035.94 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	5,035.94 ㎡	
	合計	72,880.20 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	72,880.20 ㎡	

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	46,878㎡ （46,878㎡）	0㎡ （0㎡）	0㎡ （0㎡）	46,878㎡ （46,878㎡）	

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	
	80室	49室	26室	4室 （補助職員　1人）	0室 （補助職員　0人）	大学全体

専任教員研究室	新設学部等の名称	室数	
	心理社会学部　人間科学科	11	室
	心理社会学部　臨床心理学科	12	室

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
	人間科学科	7,874〔1,815〕 (7,211〔1,692〕)	44〔15〕 (44〔15〕)	28〔12〕 (23〔7〕)	20,232 (20,221)	0 (0)	0 (0)	電子ジャーナル、視聴覚資料は大学全体で共有
	臨床心理学科	11,634〔3,270〕 (10,836〔3,105〕)	163〔40〕 (163〔40〕)	28〔12〕 (23〔7〕)	20,232 (20,221)	0 (0)	0 (0)	
	計	19,508〔5,085〕 (18,047〔4,797〕)	207〔55〕 (207〔55〕)	28〔12〕 (23〔7〕)	20,232 (20,221)	0 (0)	0 (0)	

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	
	5,656㎡	426	688,167	大学全体

体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要	
	1,313㎡	野球場・テニスコート等	大学全体

経費の見積及び維持方法の概要	区分		開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
経費の見積り	教員１人当り研究費	人間科学科		400千円	400千円	400千円	400千円	－千円	－千円	共同研究費等は大学全体
		臨床心理学科		400千円	400千円	400千円	400千円	－千円	－千円	
	共同研究費等	人間科学科		11,000千円	11,000千円	11,000千円	11,000千円	－千円	－千円	
		臨床心理学科		11,000千円	11,000千円	11,000千円	11,000千円	－千円	－千円	
	図書購入費	人間科学科	7,295千円	7,300千円	7,300千円	7,300千円	7,300千円	－千円	－千円	
		臨床心理学科	7,027千円	7,100千円	7,100千円	7,100千円	7,100千円	－千円	－千円	
	設備購入費	人間科学科	3,203千円	3,250千円	3,250千円	3,250千円	3,250千円	－千円	－千円	
		臨床心理学科	3,086千円	3,100千円	3,100千円	3,100千円	3,100千円	－千円	－千円	

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
	1165千円	965千円	965千円	965千円	－千円	－千円	※学生納付金は上から，心理社会学部人間科学科，心理社会学部臨床心理学科
	1180千円	980千円	980千円	980千円	－千円	－千円	

学生納付金以外の維持方法の概要	私立大学等経常費補助金、寄付金（設立宗派・同窓会・寺院関係者）、手数料（入学検定料等）、資産運用収入　等

	大学の名称	大正大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次 人	人		倍			
既設大学等の状況	仏教学部						1.14			
	仏教学科	4	100	3年次 25	450	学士（仏教学）	1.14	平成22年度		
	人間学部						1.14			
	仏教学科	4	―	―	―	学士（仏教学）	―	平成5年度		平成22年より学生募集停止
	社会福祉学科	4	80	―	320	学士（社会福祉学）	1.15	平成5年度		
	人間環境学科	4	60	―	240	学士（人間環境学）	1.12	平成23年度		平成28年度入学定員減（△5人）
	臨床心理学科	4	110	3年次 5	450	学士（臨床心理学）	1.13	平成21年度		
	人間科学科	4	120	3年次 3	456	学士（人間科学）	1.15	平成12年度		平成26年度入学定員増（15人）
	教育人間学科	4	65	3年次 3	266	学士（教育人間学）	1.17	平成23年度	東京都豊島区西巣鴨3丁目20番1号	平成28年度入学定員減（△5人）
	文学部						1.17			
	表現文化学科	4	―	―	―	学士（表現文化）	―	平成15年度		平成22年より学生募集停止
	人文学科	4	70	3年次 3	456	学士（人文学）	1.17	平成22年度		平成25年度入学定員増（40人） 平成27年度入学定員減（△70人）
	日本文学科	4	70	-	70	学士（日本文学）	1.18	平成27年度		平成27年度設置70人
	歴史学科	4	160	3年次 3	646	学士（歴史学）	1.16	平成15年度		
	表現学部						1.20			
	表現文化学科	4	200	3年次 3	806	学士（表現文化）	1.20	平成22年度		

	大学の名称	大正大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
既設大学等の状況	仏教学研究科									
	仏教学専攻									
	博士前期課程	2	30	―	60	修士（仏教学）	0.71	平成13年度		
	博士後期課程	3	7	―	21	博士（仏教学）	0.75	平成13年度		
	人間学研究科									
	社会福祉学専攻									
	修士課程	2	5	―	10	修士（社会福祉学）	0.60	平成13年度		
	臨床心理学専攻									
	修士課程	2	18	―	36	修士（臨床心理学）	0.83	平成13年度		
	人間科学専攻									
	修士課程	2	3	―	6	修士（人間科学）	0.16	平成13年度		
	福祉・臨床心理学専攻									
	博士後期課程	3	3	―	9	博士（人間学）	0.66	平成13年度	東京都豊島区西巣鴨3丁目20番1号	
	文学研究科									
	宗教学専攻									
	博士前期課程	2	5	―	10	修士（文学）	1.60	昭和27年度		
	博士後期課程	3	2	―	7	博士（文学）	0.50	昭和32年度		平成26年度入学定員減（△1人）
	史学専攻									
	博士前期課程	2	10	―	20	修士（文学）	0.40	昭和54年度		
	博士後期課程	3	2	―	7	博士（文学）	1.11	昭和54年度		平成26年度入学定員減（△1人）
	国文学専攻									
	博士前期課程	2	3	―	6	修士（文学）	0.66	昭和27年度		
	博士後期課程	3	2	―	7	博士（文学）	0.72	昭和32年度		平成26年度入学定員減（△1人）
	比較文化専攻									
	博士前期課程	2	3	―	6	修士（文学）	0.33	平成9年度		
	博士後期課程	3	2	―	7	博士（文学）	0.11	平成11年度		平成26年度入学定員減（△1人）

附属施設の概要	名　称　：　綜合仏教研究所 目　的　：　本学の設立理念である仏教精神の体現を基盤として、仏教とその文化に関する研究及び有為な研究者の育成 所在地　：　東京都豊島区西巣鴨3丁目20番1号 設置年月：　昭和32年4月 規模等　：　259.26㎡（教室棟の一部）	
	名　称　：　カウンセリング研究所 目　的　：　本学の設立理念である仏教精神の体現を基盤として、カウンセリングの理論・技法及びその実践に関する教育と研究を行う 所在地　：　東京都豊島区西巣鴨3丁目20番1号 設置年月：　昭和38年4月 規模等　：　296.13㎡（教室棟の一部）	
	名　称　：　地域構想研究所 目　的　：　地域課題解決のための基礎研究を行い、地域創生のための新しい価値を「共創」することによって地域や社会に貢献する。 所在地　：　東京都豊島区西巣鴨3丁目20番1号 設置年月：　平成26年10月 規模等　：　755.85㎡（平成28年度より東京都北区滝野川に移設予定）	

（注）
1　共同学科等の認可の申請及び届出の場合，「計画の区分」，「新設学部等の目的」，「新設学部等の概要」，「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
2　「教員組織の概要」の「既設分」については，共同学科等に係る数を除いたものとすること。
3　私立の大学又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
4　大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「校地等」，「校舎」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」，「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
5　「教育課程」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
6　空欄には，「－」又は「該当なし」と記入すること。

学校法人大正大学　設置認可等に関わる組織の移行表

平成27年度		入学定員	編入学定員	収容定員		平成28年度		入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
大正大学						**大正大学**					
仏教学部	仏教学科	100	3年次 25	450	→	仏教学部	仏教学科	100	3年次 25	450	
人間学部	社会福祉学科	80	3年次 －	320		人間学部	社会福祉学科	80	3年次 －	320	
	人間環境学科	60	3年次 －	240			人間環境学科	55	3年次 －	220	定員変更（△5）
							教育人間学科	60	3年次 3	246	定員変更（△5）
	臨床心理学科	110	3年次 5	450				0	－	0	平成28年4月学生募集停止
	人間科学科	120	3年次 3	486				0	－	0	平成28年4月学生募集停止
						心理社会学部	人間科学科	120	3年次 3	486	学部の設置（届出）
	教育人間学科	65	3年次 3	266			臨床心理学科	110	3年次 5	450	学部の設置（届出）
文学部	日本文学科	70	3年次 －	280		文学部	日本文学科	70	3年次 －	280	
	人文学科	70	3年次 3	286			人文学科	70	3年次 3	286	
	歴史学科	160	3年次 3	646			歴史学科	160	3年次 3	646	
表現学部	表現文化学科	200	3年次 3	806		表現学部	表現文化学科	200	3年次 3	806	
						地域創生学部	地域創生学科	100	3年次 －	400	学部の設置（認可申請）
計		1035	45	4230		計		1125	45	4590	
大正大学大学院						**大正大学大学院**					
仏教学研究科	仏教学専攻（M）	30	－	60	→	仏教学研究科	仏教学専攻（M）	30	－	60	
	仏教学専攻（D）	7	－	21			仏教学専攻（D）	7	－	21	
人間学研究科	社会福祉学専攻（M）	5	－	10		人間学研究科	社会福祉学専攻（M）	5	－	10	
	臨床心理学専攻（M）	18	－	36			臨床心理学専攻（M）	18	－	36	
	人間科学専攻（M）	3	－	6			人間科学専攻（M）	3	－	6	
	福祉・臨床心理学専攻（D）	3	－	9			福祉・臨床心理学専攻（D）	3	－	9	
文学研究科	宗教学専攻（M）	5	－	10		文学研究科	宗教学専攻（M）	5	－	10	
	宗教学専攻（D）	2	－	6			宗教学専攻（D）	2	－	6	
	史学専攻（M）	10	－	20			史学専攻（M）	10	－	20	
	史学専攻（D）	2	－	6			史学専攻（D）	2	－	6	
	国文学専攻（M）	3	－	6			国文学専攻（M）	3	－	6	
	国文学専攻（D）	2	－	6			国文学専攻（D）	2	－	6	
	比較文化専攻（M）	3	－	6			比較文化専攻（M）	3	－	6	
	比較文化専攻（D）	2	－	6			比較文化専攻（D）	2	－	6	
計		95	－	208		計		95	－	208	

別記様式第2号（その2の1）

（用紙　日本工業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（心理社会学部人間科学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
第Ⅰ類科目	学びの窓口	文化	文化の探究Ａ	1・2・3前後		2		○								兼2
			文化の探究Ｂ	1・2・3前後		2		○								兼2
			文化の探究Ｃ	1・2・3前		2		○								兼2
			文化の探究Ｄ	1・2・3前後		2		○								兼2
			文化の探究Ｅ	1・2・3前後		2		○								兼2
			文化の探究Ｆ	1・2・3前後		2		○			1					兼1
			文化の探究Ｇ	1・2・3前後		2		○								兼2
			文化の探究Ｈ	1・2・3前		2		○								兼2
			文化の探究Ｉ	1・2・3前		2		○								兼2
			小計（9科目）	－	0	18	0	－			1	0	0	0	0	兼16
		社会	社会の探究Ａ	1・2・3前後		2		○								兼2
			社会の探究Ｂ	1・2・3前後		2		○								兼2
			社会の探究Ｃ	1・2・3前		2		○								兼2
			社会の探究Ｄ	1・2・3後		2		○								兼1
			社会の探究Ｅ	1・2・3前後		2		○								兼2
			社会の探究Ｆ	1・2・3前後		2		○								兼2
			社会の探究Ｇ	1・2・3前後		2		○								兼1
			社会の探究Ｈ	1・2・3前後		2		○								兼1
			社会の探究Ｉ	1・2・3前後		2		○								兼2
			小計（9科目）	－	0	18	0	－			0	0	0	0	0	兼13
		自然	自然の探究Ａ	1・2・3前後		2		○								兼2
			自然の探究Ｂ	1・2・3前後		2		○			1					兼1
			自然の探究Ｃ	1・2・3前後		2		○			1					兼1
			自然の探究Ｄ	1・2・3前後		2		○								兼1
			自然の探究Ｅ	1・2・3前後		2		○								兼1
			自然の探究Ｆ	1・2・3前後		2		○								兼1
			自然の探究Ｇ	1・2・3前後		2		○								兼1
			自然の探究Ｈ	1・2・3後		2		○								兼1
			自然の探究Ｉ	1・2・3前		2		○								兼1
			小計（9科目）	－	0	18	0	－			1	0	0	0	0	兼9
		地域	地域連携貢献論	1前後	2			○								兼2
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼2
	学びの技法	基礎科目	基礎技法Ａ－１	1前	2			○			1	2				
			基礎技法Ａ－２	2後	2			○			2	1				
			基礎技法Ｂ－１	1前	2			○					1			兼4
			基礎技法Ｂ－２	1後	2			○					1			兼4
			基礎技法Ｃ	1前後	2			○								兼2
			英語１	1前	1			○								兼2
			英語２	1後	1			○								兼2
			英語３	2前	1			○								兼2
			英語４	2後	1			○								兼2
			基礎国語Ａ	1・2・3・4前後		2		○								兼1
			基礎国語Ｂ	1・2・3・4前		2		○								兼1

第Ⅰ類科目	学びの技法	基礎科目	基礎数学Ⅰ	1前		2		○				1						
			基礎数学Ⅱ	1後		2		○				1						
			基礎数学Ⅲ	2前		2		○				1						
			基礎数学Ⅳ	2後		2		○				1						
			基礎社会Ⅰ	1前		2		○			1							
			基礎社会Ⅱ	1後		2		○			1							
			基礎社会Ⅲ	2前		2		○			1							
			基礎社会Ⅳ	2後		2		○			1							
			小計（19科目）	－	14	20	0	－			4	4	1	0	0	兼10		
		展開科目	情報処理Ａ－１（ワード）	1・2前後		2		○								兼2		
			情報処理Ａ－２（ワード）	1・2後		2		○								兼2		
			情報処理Ｂ－１（エクセル）	1・2前後		2		○								兼2		
			情報処理Ｂ－２（エクセル）	1・2後		2		○								兼2		
			情報処理Ｃ（プレゼンテーション）	1・2前後		2		○								兼2		
			情報処理Ｄ（データベース）	1・2前後		2		○								兼1		
			応用英語１	2・3前		1		○								兼1		
			応用英語２	2・3後		1		○								兼1		
			世界の言語（中国語）１	1・2前後		1		○								兼2		
			世界の言語（中国語）２	1・2前後		1		○								兼2		
			世界の言語（中国語）３	2・3前		1		○								兼2		
			世界の言語（中国語）４	2・3後		1		○								兼2		
			世界の言語（フランス語）１	1・2前後		1		○								兼1		
			世界の言語（フランス語）２	1・2前後		1		○								兼1		
			世界の言語（フランス語）３	2・3前		1		○								兼1		
			世界の言語（フランス語）４	2・3後		1		○								兼1		
			世界の言語（ドイツ語）１	1・2前後		1		○								兼2		
			世界の言語（ドイツ語）２	1・2前後		1		○								兼2		
			世界の言語（ドイツ語）３	2・3前		1		○								兼1		
			世界の言語（ドイツ語）４	2・3後		1		○								兼1		
			世界の言語（韓国語）１	1・2前		1		○								兼1		
			世界の言語（韓国語）２	1・2後		1		○								兼1		
			世界の言語（韓国語）３	2・3前		1		○								兼1		
			世界の言語（韓国語）４	2・3後		1		○								兼1		
			世界の言語（スペイン語）１	1・2前		1		○								兼1		
			世界の言語（スペイン語）２	1・2後		1		○								兼1		
			世界の言語（スペイン語）３	2・3前		1		○								兼1		
			世界の言語（スペイン語）４	2・3後		1		○								兼1		
			世界の言語（ヒンディ語）１	1・2前		1		○								兼1		
			世界の言語（ヒンディ語）２	1・2後		1		○								兼1		
			世界の言語（ヒンディ語）３	2・3前		1		○								兼1		
			世界の言語（ヒンディ語）４	2・3後		1		○								兼1		
			英会話Ⅰ	1・2前		2		○								兼2		
			英会話Ⅱ	1・2後		2		○								兼2		
			英会話Ⅲ	2・3前		2		○								兼2		
			英会話Ⅳ	2・3後		2		○								兼2		
			中国語会話Ⅰ	1・2・3前後		2		○								兼1		
			中国語会話Ⅱ	1・2・3前後		2		○								兼1		
			ドイツ語会話Ⅰ	1・2・3前		2		○								兼1		
			ドイツ語会話Ⅱ	1・2・3後		2		○								兼1		
			文章技法Ａ	2・3・4前後		2		○								兼2		
			文章技法Ｂ	2・3・4前後		2		○								兼1		
			技法Ａ（論理力）	2・3・4後		2		○								兼1		
			技法Ｂ（自己アピール）	2・3・4後		2		○								兼1		
			小計（44科目）		0	62	0	－			0	0	0	0	0	兼25		

第Ⅰ類科目	留学生科目		日本語研究A	1・2前後		2		○								兼1
			日本語研究B	1・2前後		2		○								兼1
			日本語研究C	1・2前後		2		○								兼1
			日本語研究D	1・2前後		2		○								兼1
			日本語研究E	1・2前後		2		○								兼1
			日本語研究F	1・2前後		2		○								兼1
			日本語研究G	1・2前後		2		○								兼1
			日本語研究H	1・2前後		2		○								兼1
			日本語研究Ⅰ	1・2前後		2		○								兼1
			日本文化研修	1・2前		2		○								兼1
			小計（10科目）	－	0	20	0	－		0	0	0	0	0	兼2	
第Ⅱ類科目	学部共通部門	基礎科目	心理社会研究入門	1前	2			○			1					兼1
			社会学の基礎A	1前		2		○			1					
			社会学の基礎B	1前		2		○			1					
			心理学の基礎A	1前後		2		○			1					兼2
			心理学の基礎B	1前後		2		○			1					兼2
			社会調査法A	1前後	2			○				1				
			心理学研究法A	1前後	2			○					1			兼2
			小計（7科目）	－	6	8	0	－		3	1	1	0	0	兼6	
		現代心理社会科目	パーソナリティ心理学	1・2前		2		○								兼1
			青年期とアイデンティティ	2・3後		2		○		1						
			非行犯罪臨床心理学	2・3前		2		○								兼1
			ライフコース論	2・3前		2			○	1						
			ジェンダー論	2・3後		2		○								兼1
			コミュニティ心理学	2・3後		2		○								兼1
			メディアと社会	3・4前		2		○								兼1
			人生課題と法律	3・4後		2		○								兼1
			小計（8科目）	－	0	16	0	－		2	0	0	0	0	兼5	
	基礎部門		人間科学の基礎	1前	2			○		1						
			基礎ゼミナールⅠ	1前	2				○	3	3	1				
			基礎ゼミナールⅡ	1後	2				○	5	1	1				
			身体科学の基礎	1・2後		2		○		1						
			小計（4科目）	－	6	2	0	－		7	3	1	0	0	兼0	
	研究法部門		心理学研究法B	2・3前		2		○			1					
			社会学の理論と方法	2・3後		2		○		1						
			心理学実験基礎演習Ⅰ	2・3前		2			○	1	2	1				兼3
			心理学実験基礎演習Ⅱ	2・3後		2			○	1	2	1				兼3
			社会学基礎演習Ⅰ	2・3前		2			○	1						
			社会学基礎演習Ⅱ	2・3後		2			○		1					
			身体科学実験基礎演習	2・3後		2			○	1						
			社会調査法B	2・3前後		2		○								兼1
			社会調査法C	2・3前		2		○		1						
			社会統計学Ⅰ	2・3前後		2			○	1						
			社会統計学Ⅱ	3・4前		2			○	1						
			社会調査実習	3・4通		4				○	2	1				
			小計（12科目）	－	0	26	0	－		6	3	1	0	0	兼4	
	専門部門	人間発達科目（A群）	生命科学	2・3前		2		○								兼1
			身体活動の科学	1・2前		2		○		1						
			発育発達と運動	3・4前		2		○		1						
			脳と心	2・3後		2		○								兼1
			基礎心理学	2・3前		2		○			1					
			心の認知科学	2・3前		2		○				1				
			認知社会心理学	3・4後		2		○			1					
			感情心理学	3・4前		2		○			1					
			生涯発達心理学	2・3前		2		○		1						
			親と子の発達心理学	3・4後		2		○		1						
			健康心理学	3・4前		2		○								兼1
			動物と人間の心理学	2・3後		2		○								兼1
			小計（12科目）	－	0	24	0	－		2	1	1	0	0	兼4	

第Ⅱ類科目	専門部門	現代社会生活科目（B群）	社会心理学	2・3前		2		○				1					
			コミュニケーション論	2・3後		2		○								兼1	
			コミュニケーションの心理学	1・2後		2		○				1					
			現代社会論	2・3前		2		○			1						
			家族の社会学	2・3後		2		○			1						
			生活環境の社会学	2・3前		2		○				1					
			都市と地域の社会学	2・3後		2		○				1					
			職場の社会学	2・3前		2		○			1						
			仕事の社会学	3・4後		2		○			1						
			文化の社会学	3・4後		2		○			1						
			人口と社会	2・3前		2		○								兼1	
			情報と社会	2・3前		2		○			1						
			出版文化論	2・3後		2		○			1						
			社会問題論	3・4前		2		○								兼1	
			小計（14科目）	－	0	28	0	－			5	2	0	0	0	兼3	
		特別研究	人間科学特別研究A	2・3前		2			○				1				
			人間科学特別研究B	2・3後		2			○		1						
			小計（2科目）	－	0	4	0	－			1	0	1	0	0	兼0	
		演習科目	人間科学専門演習Ⅰ	3前	2				○		7	3	1				
			人間科学専門演習Ⅱ	3後	2				○		7	3	1				
			人間科学応用演習Ⅰ	3前		2			○		4	2	1				
			人間科学応用演習Ⅱ	3後		2			○		4	2	1				
			小計（4科目）	－	4	4	0	－			7	3	1	0	0	兼0	
			卒業論文	4通	8				○		7	3	1	0	0		
			小計（1科目）	－	8	0	0	－			7	3	1	0	0	兼0	
合計（165科目）				－	40	268	0	－			8	4	2	0	0	兼88	

学位又は称号	学士（人間科学）	学位又は学科の分野	社会学・社会福祉学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
第Ⅰ類科目26単位以上、第Ⅱ類科目88単位以上、合計124単位以上修得すること。ただし、30単位までは、他学科から充当することができる。 （履修科目の登録の上限：春学期・秋学期ともに24単位）	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1授業の授業時間	90分

別記様式第2号（その2の1）

（用紙　日本工業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（心理社会学部臨床心理学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
第Ⅰ類科目	学びの窓口	文化	文化の探究Ａ	1・2・3前後		2		○								兼2
			文化の探究Ｂ	1・2・3前後		2		○								兼2
			文化の探究Ｃ	1・2・3前		2		○								兼2
			文化の探究Ｄ	1・2・3前後		2		○								兼2
			文化の探究Ｅ	1・2・3前後		2		○								兼2
			文化の探究Ｆ	1・2・3前後		2		○								兼2
			文化の探究Ｇ	1・2・3前後		2		○								兼2
			文化の探究Ｈ	1・2・3前		2		○								兼2
			文化の探究Ｉ	1・2・3前		2		○								兼2
			小計（9科目）	－	0	18	0	－			0	0	0	0	0	兼18
		社会	社会の探究Ａ	1・2・3前後		2		○				1				兼1
			社会の探究Ｂ	1・2・3前後		2		○								兼2
			社会の探究Ｃ	1・2・3前		2		○								兼2
			社会の探究Ｄ	1・2・3後		2		○								兼1
			社会の探究Ｅ	1・2・3前後		2		○								兼2
			社会の探究Ｆ	1・2・3前後		2		○								兼2
			社会の探究Ｇ	1・2・3前後		2		○								兼1
			社会の探究Ｈ	1・2・3前後		2		○								兼1
			社会の探究Ｉ	1・2・3前後		2		○								兼2
			小計（9科目）	－	0	18	0	－			0	1	0	0	0	兼12
		自然	自然の探究Ａ	1・2・3前後		2		○								兼2
			自然の探究Ｂ	1・2・3前後		2		○								兼2
			自然の探究Ｃ	1・2・3前後		2		○								兼2
			自然の探究Ｄ	1・2・3前後		2		○								兼1
			自然の探究Ｅ	1・2・3前後		2		○								兼1
			自然の探究Ｆ	1・2・3前後		2		○								兼1
			自然の探究Ｇ	1・2・3前後		2		○								兼1
			自然の探究Ｈ	1・2・3後		2		○								兼1
			自然の探究Ｉ	1・2・3前		2		○								兼1
			小計（9科目）	－	0	18	0	－			0	0	0	0	0	兼10
		地域	地域連携貢献論	1前後	2			○								兼2
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼2
	学びの技法	基礎科目	基礎技法Ａ－１	1前	2			○			1	1	1			
			基礎技法Ａ－２	2後	2			○			1	1	1			
			基礎技法Ｂ－１	1前	2			○								兼5
			基礎技法Ｂ－２	1後	2			○								兼5
			基礎技法Ｃ	1前後	2			○								兼2
			英語１	1前	1			○								兼2
			英語２	1後	1			○								兼2
			英語３	2前	1			○								兼2
			英語４	2後	1			○								兼2
			基礎国語Ａ	1・2・3・4前後		2		○								兼1
			基礎国語Ｂ	1・2・3・4前		2		○								兼1

第Ⅰ類科目	学びの技法	基礎科目	基礎数学Ⅰ	1前		2		○								兼1	
			基礎数学Ⅱ	1後		2		○								兼1	
			基礎数学Ⅲ	2前		2		○								兼1	
			基礎数学Ⅳ	2後		2		○								兼1	
			基礎社会Ⅰ	1前		2		○								兼1	
			基礎社会Ⅱ	1後		2		○								兼1	
			基礎社会Ⅲ	2前		2		○								兼1	
			基礎社会Ⅳ	2後		2		○								兼1	
			小計（19科目）	－	14	20	0	－		2	1	1	0	0	兼13		
		展開科目	情報処理Ａ－１（ワード）	1・2前後		2		○								兼2	
			情報処理Ａ－２（ワード）	1・2後		2		○								兼2	
			情報処理Ｂ－１（エクセル）	1・2前後		2		○								兼2	
			情報処理Ｂ－２（エクセル）	1・2後		2		○								兼2	
			情報処理Ｃ（プレゼンテーション）	1・2前後		2		○								兼2	
			情報処理Ｄ（データベース）	1・2前後		2		○								兼1	
			応用英語１	2・3前		1		○								兼1	
			応用英語２	2・3後		1		○								兼1	
			世界の言語（中国語）１	1・2前後		1		○								兼2	
			世界の言語（中国語）２	1・2前後		1		○								兼2	
			世界の言語（中国語）３	2・3前		1		○								兼2	
			世界の言語（中国語）４	2・3後		1		○								兼2	
			世界の言語（フランス語）１	1・2前後		1		○								兼1	
			世界の言語（フランス語）２	1・2前後		1		○								兼1	
			世界の言語（フランス語）３	2・3前		1		○								兼1	
			世界の言語（フランス語）４	2・3後		1		○								兼1	
			世界の言語（ドイツ語）１	1・2前後		1		○								兼2	
			世界の言語（ドイツ語）２	1・2前後		1		○								兼2	
			世界の言語（ドイツ語）３	2・3前		1		○								兼1	
			世界の言語（ドイツ語）４	2・3後		1		○								兼1	
			世界の言語（韓国語）１	1・2前		1		○								兼1	
			世界の言語（韓国語）２	1・2後		1		○								兼1	
			世界の言語（韓国語）３	2・3前		1		○								兼1	
			世界の言語（韓国語）４	2・3後		1		○								兼1	
			世界の言語（スペイン語）１	1・2前		1		○								兼1	
			世界の言語（スペイン語）２	1・2後		1		○								兼1	
			世界の言語（スペイン語）３	2・3前		1		○								兼1	
			世界の言語（スペイン語）４	2・3後		1		○								兼1	
			世界の言語（ヒンディ語）１	1・2前		1		○								兼1	
			世界の言語（ヒンディ語）２	1・2後		1		○								兼1	
			世界の言語（ヒンディ語）３	2・3前		1		○								兼1	
			世界の言語（ヒンディ語）４	2・3後		1		○								兼1	
			英会話Ⅰ	1・2前		2		○								兼2	
			英会話Ⅱ	1・2後		2		○								兼2	
			英会話Ⅲ	2・3前		2		○								兼2	
			英会話Ⅳ	2・3後		2		○								兼2	
			中国語会話Ⅰ	1・2・3前後		2		○								兼1	
			中国語会話Ⅱ	1・2・3前後		2		○								兼1	
			ドイツ語会話Ⅰ	1・2・3前		2		○								兼1	
			ドイツ語会話Ⅱ	1・2・3後		2		○								兼1	
			文章技法Ａ	2・3・4前後		2		○								兼2	
			文章技法Ｂ	2・3・4前後		2		○								兼1	
			技法Ａ（論理力）	2・3・4後		2		○								兼1	
			技法Ｂ（自己アピール）	2・3・4後		2		○								兼1	
			小計（44科目）	－	0	62	0	－		0	0	0	0	0	兼24		

第Ⅰ類科目	留学生科目		日本語研究Ａ	1・2前後		2		○								兼1	
			日本語研究Ｂ	1・2前後		2		○								兼1	
			日本語研究Ｃ	1・2前後		2		○								兼1	
			日本語研究Ｄ	1・2前後		2		○								兼1	
			日本語研究Ｅ	1・2前後		2		○								兼1	
			日本語研究Ｆ	1・2前後		2		○								兼1	
			日本語研究Ｇ	1・2前後		2		○								兼1	
			日本語研究Ｈ	1・2前後		2		○								兼1	
			日本語研究Ｉ	1・2前後		2		○								兼1	
			日本文化研修	1・2前		2		○								兼1	
			小計（10科目）	－	0	20	0	－		0	0	0	0	0	兼2	
第Ⅱ類科目	学部共通部門	基礎科目	心理社会研究入門	1前	2			○		1					兼1	
			社会学の基礎Ａ	1前		2		○							兼1	
			社会学の基礎Ｂ	1前		2		○							兼1	
			心理学の基礎Ａ	1前後		2		○				1			兼2	
			心理学の基礎Ｂ	1前後		2		○			2				兼1	
			社会調査法Ａ	1前後		2		○							兼1	
			心理学研究法Ａ	1前後	2			○				1			兼2	
			小計（7科目）	－	4	10	0	－		1	2	2	0	0	兼6	
		現代心理社会科目	パーソナリティ心理学	1・2前		2		○				1				
			青年期とアイデンティティ	2・3後		2		○							兼1	
			非行犯罪臨床心理学	2・3前		2		○		1						
			ライフコース論	2・3前		2			○						兼1	
			ジェンダー論	2・3後		2		○							兼1	
			コミュニティ心理学	2・3後		2		○		1						
			メディアと社会	3・4前		2		○							兼1	
			人生課題と法律	3・4後		2		○		1						
			小計（8科目）	－	0	16	0	－		1	2	1	0	0	兼4	
	基礎部門		基礎ゼミナールⅠ	1前	2				○	3	1	2				
			基礎ゼミナールⅡ	1後	2				○	3	1	2				
			心理査定法	2前後	2			○		1		1				
			小計（3科目）	－	6	0	0	－		4	1	2	0	0	兼0	
	方法・研究部門		対人社会心理学	1・2後		2		○							兼1	
			認知心理学	1・2前		2		○							兼1	
			発達心理学	1・2前		2		○							兼1	
			発達臨床心理学	2・3前		4		○			1					
			深層心理学	2・3後		4		○		1						
			精神医学	2・3後		4		○		1						
			人間性心理学	2・3前		4		○		1						
			家族臨床心理学	2・3後		2		○				1				
			教育臨床心理学	2・3後		2		○		1						
			病院臨床心理学	2・3後		2		○		1						
			産業臨床心理学	2・3前		2		○		1						
			臨床神経心理学	2・3後		2		○		1						
			臨床心理学実務特講	2・3前		2		○		1						
			臨床心理学技法特講	2・3後		2		○		1						
			臨床心理学理論特講	2・3後		2		○		1						
			児童福祉学	2・3前		2		○							兼1	
			医学概論	2・3後		2		○							兼1	
			医療福祉論	3・4前		2		○							兼1	
			心理療法論	3・4後		4		○		2						オムニバス
			心理援助論	3・4前		2		○				1				
			発達援助論	3・4前		2		○		1						
			小計（21科目）	－	0	52	0	－		8	1	2	0	0	兼4	

第Ⅱ類科目	実習部門 演習・	心理学基礎演習	2前後	4					○	4	1	1				共同
		臨床心理学基礎実習Ⅰ	2前	1					○	2						共同
		臨床心理学基礎実習Ⅱ	2後	1					○	2						共同
		小計（3科目）	－	6	0	0		－		4	1	1	0	0	兼0	
	専門ゼミナール部門	臨床心理学専門ゼミナールⅠ	3前	2				○		9	2	2	0	0		
		臨床心理学専門ゼミナールⅡ	3後	2				○		9	2	2	0	0		
		臨床心理学専門ゼミナールⅢ	4前	2				○		9	2	2	0	0		
		臨床心理学専門ゼミナールⅣ	4後	2				○		9	2	2	0	0		
		小計（4科目）	－	8	0	0		－		9	2	2	0	0	兼0	
	応用部門	発達心理査定演習	3・4後		4			○		1						
		心理臨床査定演習	3・4前後		4			○		2		1				
		臨床心理学技法演習	3・4前後		4			○		4	2					オムニバス
		社会調査研究法	3・4後		2			○		1					兼1	
		臨床調査研究法	3・4前		2			○		1						
		臨床心理学演習（インターン）	3・4通		4				○	1	1					共同
		臨床心理学特殊研究ゼミナールA	3・4前		2			○		1						
		臨床心理学特殊研究ゼミナールB	3・4後		2			○			1					
		臨床心理学特殊研究ゼミナールC	3・4前		2			○		1						
		臨床心理学特殊研究ゼミナールD	3・4後		2			○		1						
		原書講読A	3・4前		1			○		1						
		原書講読B	3・4後		1			○			1					
		原書講読C	3・4前		1			○		1						
		原書講読D	3・4後		1			○		1						
		小計（14科目）	－	0	32	0		－		9	2	1	0	0	兼1	
		卒業論文	4通		8			○		9	2	2				
		卒業研究	4通		8			○		9	2	2				
		小計（2科目）	－	0	16	0		－		9	2	2	0	0	兼0	
合計（163科目）			－	40	282	0		－		9	2	2	0	0	兼86	

学位又は称号	学士（臨床心理学）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
第Ⅰ類科目26単位以上、第Ⅱ類科目88単位以上、合計124単位以上修得すること。ただし、30単位までは、他学科から充当することができる。 （履修科目の登録の上限：春学期・秋学期ともに24単位）	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1授業の授業時間	90分

別記様式第2号（その2の1）

（用紙　日本工業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人間学部社会福祉学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
第Ⅰ類科目	学びの窓口	文化	文化の探究Ａ	1・2・3前後		2		○								兼2
			文化の探究Ｂ	1・2・3前後		2		○								兼2
			文化の探究Ｃ	1・2・3前		2		○								兼2
			文化の探究Ｄ	1・2・3前後		2		○								兼2
			文化の探究Ｅ	1・2・3前後		2		○								兼2
			文化の探究Ｆ	1・2・3前後		2		○								兼2
			文化の探究Ｇ	1・2・3前後		2		○								兼2
			文化の探究Ｈ	1・2・3前		2		○								兼2
			文化の探究Ｉ	1・2・3前		2		○								兼2
			小計（9科目）	－	0	18	0	－			0	0	0	0	0	兼18
		社会	社会の探究Ａ	1・2・3前後		2		○								兼2
			社会の探究Ｂ	1・2・3前後		2		○			1					兼1
			社会の探究Ｃ	1・2・3前		2		○								兼2
			社会の探究Ｄ	1・2・3後		2		○								兼1
			社会の探究Ｅ	1・2・3前後		2		○								兼2
			社会の探究Ｆ	1・2・3前後		2		○								兼2
			社会の探究Ｇ	1・2・3前後		2		○								兼1
			社会の探究Ｈ	1・2・3前後		2		○								兼1
			社会の探究Ｉ	1・2・3前後		2		○								兼2
			小計（9科目）	－	0	18	0	－			1	0	0	0	0	兼12
		自然	自然の探究Ａ	1・2・3前後		2		○								兼2
			自然の探究Ｂ	1・2・3前後		2		○								兼2
			自然の探究Ｃ	1・2・3前後		2		○								兼2
			自然の探究Ｄ	1・2・3前後		2		○								兼1
			自然の探究Ｅ	1・2・3前後		2		○								兼1
			自然の探究Ｆ	1・2・3前後		2		○								兼1
			自然の探究Ｇ	1・2・3前後		2		○								兼1
			自然の探究Ｈ	1・2・3後		2		○								兼1
			自然の探究Ｉ	1・2・3前		2		○								兼1
			小計（9科目）	－	0	18	0	－			0	0	0	0	0	兼10
		地域	地域連携貢献論	1前後	2			○								兼2
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼2
	学びの技法	基礎科目	基礎技法Ａ－１	1前	2			○			2					
			基礎技法Ａ－２	1後	2			○			1					兼1
			基礎技法Ａ－３	2前	2			○								兼1
			基礎技法Ａ－４	2後	2			○			1	1				
			基礎技法Ｂ－１	1前	2			○								兼5
			基礎技法Ｂ－２	1後	2			○								兼5
			基礎技法Ｂ－３	2前	2			○								兼3
			基礎技法Ｂ－４	2後	2			○								兼3
			基礎技法Ｃ	1前後	2			○								兼2
			英語１	1前	1			○								兼2
			英語２	1後	1			○								兼2
			英語３	2前	1			○								兼2
			英語４	2後	1			○								兼2
			基礎国語Ａ	1・2・3・4前後		2		○								兼1
			基礎国語Ｂ	1・2・3・4前		2		○								兼1

第Ⅰ類科目	学びの技法	基礎科目	基礎数学Ⅰ	1前		2		○								兼1	
			基礎数学Ⅱ	1後		2		○								兼1	
			基礎数学Ⅲ	2前		2		○								兼1	
			基礎数学Ⅳ	2後		2		○								兼1	
			基礎社会Ⅰ	1前		2		○								兼1	
			基礎社会Ⅱ	1後		2		○								兼1	
			基礎社会Ⅲ	2前		2		○								兼1	
			基礎社会Ⅳ	2後		2		○								兼1	
			小計（19科目）	―	22	20	0	―		2	1	0	0	0	兼14		
		展開科目	情報処理Ａ－１（ワード）	1・2前後		2		○								兼2	
			情報処理Ａ－２（ワード）	1・2後		2		○								兼2	
			情報処理Ｂ－１（エクセル）	1・2前後		2		○								兼2	
			情報処理Ｂ－２（エクセル）	1・2後		2		○								兼2	
			情報処理Ｃ（プレゼンテーション）	1・2前後		2		○								兼2	
			情報処理Ｄ（データベース）	1・2前後		2		○								兼1	
			応用英語１	2・3前		1		○								兼1	
			応用英語２	2・3後		1		○								兼1	
			世界の言語（中国語）１	1・2前後		1		○								兼2	
			世界の言語（中国語）２	1・2前後		1		○								兼2	
			世界の言語（中国語）３	2・3前		1		○								兼2	
			世界の言語（中国語）４	2・3後		1		○								兼2	
			世界の言語（フランス語）１	1・2前後		1		○								兼1	
			世界の言語（フランス語）２	1・2前後		1		○								兼1	
			世界の言語（フランス語）３	2・3前		1		○								兼1	
			世界の言語（フランス語）４	2・3後		1		○								兼1	
			世界の言語（ドイツ語）１	1・2前後		1		○								兼2	
			世界の言語（ドイツ語）２	1・2前後		1		○								兼2	
			世界の言語（ドイツ語）３	2・3前		1		○								兼1	
			世界の言語（ドイツ語）４	2・3後		1		○								兼1	
			世界の言語（韓国語）１	1・2前		1		○								兼1	
			世界の言語（韓国語）２	1・2後		1		○								兼1	
			世界の言語（韓国語）３	2・3前		1		○								兼1	
			世界の言語（韓国語）４	2・3後		1		○								兼1	
			世界の言語（スペイン語）１	1・2前		1		○								兼1	
			世界の言語（スペイン語）２	1・2後		1		○								兼1	
			世界の言語（スペイン語）３	2・3前		1		○								兼1	
			世界の言語（スペイン語）４	2・3後		1		○								兼1	
			世界の言語（ヒンディ語）１	1・2前		1		○								兼1	
			世界の言語（ヒンディ語）２	1・2後		1		○								兼1	
			世界の言語（ヒンディ語）３	2・3前		1		○								兼1	
			世界の言語（ヒンディ語）４	2・3後		1		○								兼1	
			英会話Ⅰ	1・2前		2		○								兼2	
			英会話Ⅱ	1・2後		2		○								兼2	
			英会話Ⅲ	2・3前		2		○								兼2	
			英会話Ⅳ	2・3後		2		○								兼2	
			中国語会話Ⅰ	1・2・3前後		2		○								兼1	
			中国語会話Ⅱ	1・2・3前後		2		○								兼1	
			ドイツ語会話Ⅰ	1・2・3前		2		○								兼1	
			ドイツ語会話Ⅱ	1・2・3後		2		○								兼1	
			文章技法Ａ	2・3・4前後		2		○								兼2	
			文章技法Ｂ	2・3・4前後		2		○								兼1	
			技法Ａ（論理力）	2・3・4後		2		○								兼1	
			技法Ｂ（自己アピール）	2・3・4後		2		○								兼1	
			小計（44科目）	―	0	62	0	―		0	0	0	0	0	兼24		

第Ⅰ類科目	留学生科目	日本語研究A	1・2前後		2		○								兼1	
		日本語研究B	1・2前後		2		○								兼1	
		日本語研究C	1・2前後		2		○								兼1	
		日本語研究D	1・2前後		2		○								兼1	
		日本語研究E	1・2前後		2		○								兼1	
		日本語研究F	1・2前後		2		○								兼1	
		日本語研究G	1・2前後		2		○								兼1	
		日本語研究H	1・2前後		2		○								兼1	
		日本語研究Ⅰ	1・2前後		2		○								兼1	
		日本文化研修	1・2前		2		○								兼1	
		小計（10科目）	－	0	20	0	－			0	0	0	0	0	兼2	
第Ⅱ類科目	基礎部門	基礎ゼミナールⅠ	1前	2				○		3					兼2	
		基礎ゼミナールⅡ	1後	2				○		3					兼2	
		基礎ゼミナールⅢ	2前	2				○		3		1				
		基礎ゼミナールⅣ	2後	2				○		3		1				
		社会福祉入門	1前	2			○			1						
		社会福祉原論Ⅰ	1後	2			○			1						
		社会福祉基礎実践	1後	2			○			3		1				
		仏教社会福祉論	1後	2			○								兼1	
		ソーシャルワーク論Ⅰ	1前	2			○			1						
		小計（9科目）	－	18	0	0	－			6	0	1	0	0	兼3	
	専門部門	社会福祉史	3後		2		○								兼1	
		社会福祉原論Ⅱ	2前		2		○			1						
		社会保障論Ⅰ	1後		2		○					1				
		社会保障論Ⅱ	2前		2		○					1				
		公的扶助論	2後		2		○								兼1	
		現代貧困論	3後		2		○					1				
		ソーシャルワーク論Ⅱ	2前		2		○			1						
		ソーシャルワーク論Ⅲ	2後		2		○				1					
		ソーシャルワーク論Ⅳ	3前		2		○			1						
		ソーシャルワーク論Ⅴ	3後		2		○			1						
		ソーシャルワーク論Ⅵ	4前		2		○			1						
		社会福祉調査論	3前		2		○								兼1	
		福祉行財政・福祉計画論	3前		2		○								兼1	
		福祉経営論	3後		2		○								兼1	
		地域福祉論Ⅰ	1前		2		○			1						
		地域福祉論Ⅱ	2後		2		○			1						
		コミュニティソーシャルワーク論	3後		2		○			1						
		ユニバーサルデザイン論	2後		2		○								兼1	
		高齢者福祉論	2前		2		○			1						
		介護福祉論	2前		2		○								兼1	
		障害者福祉論	2前		2		○			1						
		児童福祉論	2前		2		○			1						
		スクールソーシャルワーク論	3後		2		○								兼1	
		就労支援論	2前		2		○								兼1	
		司法福祉論	2前		2		○								兼1	
		福祉法学	2後		2		○								兼1	
		心理学	1前		2		○								兼1	
		社会学	2後		2		○								兼1	
		精神保健福祉論Ⅰ	2前		2		○			1						
		精神保健福祉論Ⅱ	2後		2		○								兼1	
		精神保健福祉論Ⅲ	3前		2		○								兼1	
		精神保健福祉援助技術総論	3前		2		○								兼1	
		精神保健福祉援助技術各論	3後		2		○			1						
		精神科リハビリテーション学	3前		4		○								兼1	
		精神保健学	2後		4		○								兼1	
		精神医学	2後		4		○								兼1	
		医学概論	2後		2		○								兼1	
		医療福祉論	3前		2		○				1					

第Ⅱ類科目	専門部門	医療ソーシャルワーク論	3後		2		○				1				
		ターミナルケア論	2前		2		○								兼1
		社会福祉特講Ⅰ	2通		2		○						1		
		社会福祉特講Ⅱ	3通		2		○						1		
		社会福祉特講Ⅲ	4通		2		○						1		
		小計（43科目）	－	0	92	0	－			6	1	1	1	0	兼17
	実習・演習部門	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2前		2			○		2	1				兼2
		ソーシャルワーク演習Ⅱ	2後		2			○		2	1				兼2
		ソーシャルワーク演習Ⅲ	3前		2			○		2					兼2
		ソーシャルワーク演習Ⅳ	3後		2			○		2					兼2
		ソーシャルワーク演習Ⅴ	4前		2			○		2	1	1			
		ソーシャルワーク演習Ⅵ	4後		2			○		2	1	1			
		ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2前		2				○	4	1	1			
		ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	2後		2				○	4	1	1			
		ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	3通		2				○	2	1	1			
		ソーシャルワーク実習Ⅰ	2通		2				○	1					
		ソーシャルワーク実習Ⅱ	3通		3				○		1				
		ソーシャルワーク実習Ⅲ	4通		2				○	1					
		精神保健福祉援助演習Ⅰ	4前		2			○			1				
		精神保健福祉援助演習Ⅱ	4後		2			○			1				
		精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	3後		2				○	1					
		精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	4前		2				○	1					
		精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	4後		2				○	1					
		精神保健福祉援助実習Ⅰ	4通		2				○	1					
		精神保健福祉援助実習Ⅱ	4通		3				○	1					
		小計（19科目）	－	0	40	0	－			6	1	1	0	0	兼3
	応用部門	プロジェクト研究Ⅰ	3・4前		2			○		6	1	1			
		プロジェクト研究Ⅱ	3・4後		2			○		6	1	1			
		プロジェクト研究Ⅲ	3・4前		2			○		5	1	1			
		プロジェクト研究Ⅳ	3・4後		2			○		5	1	1			
		インターンシップⅠ	2・3・4通		2				○	1					
		インターンシップⅡ	3・4通		2				○	1					
		小計（6科目）	－	0	12	0	－			6	1	1	0	0	兼0
		卒業論文	4通		8			○		6	1	1			
		卒業研究	4通		8			○		6	1	1			
		小計（2科目）	－	0	16	0	－			6	1	1	0	0	兼0
合計（184科目）			－	42	316	0	－			6	1	1	1	0	兼88

学位又は称号	学士（社会福祉学）	学位又は学科の分野	社会学・社会福祉学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
第Ⅰ類科目36単位、第Ⅱ類科目88単位、合計124単位以上修得すること。ただし、30単位までは、他学科から充当することができる。 （履修科目の登録の上限：春学期・秋学期ともに24単位）	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1授業の授業時間	90分

別記様式第2号（その2の1）

（用紙　日本工業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人間学部人間環境学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
第Ⅰ類科目	学びの窓口	文化	文化の探究Ａ	1・2・3前後		2		○								兼2
			文化の探究Ｂ	1・2・3前後		2		○								兼2
			文化の探究Ｃ	1・2・3前		2		○								兼2
			文化の探究Ｄ	1・2・3前後		2		○								兼2
			文化の探究Ｅ	1・2・3前後		2		○								兼2
			文化の探究Ｆ	1・2・3前後		2		○								兼2
			文化の探究Ｇ	1・2・3前後		2		○								兼2
			文化の探究Ｈ	1・2・3前		2		○								兼2
			文化の探究Ｉ	1・2・3前		2		○								兼2
			小計（9科目）	－	0	18	0	－			0	0	0	0	0	兼18
		社会	社会の探究Ａ	1・2・3前後		2		○								兼2
			社会の探究Ｂ	1・2・3前後		2		○								兼2
			社会の探究Ｃ	1・2・3前		2		○								兼2
			社会の探究Ｄ	1・2・3後		2		○								兼1
			社会の探究Ｅ	1・2・3前後		2		○								兼2
			社会の探究Ｆ	1・2・3前後		2		○								兼2
			社会の探究Ｇ	1・2・3前後		2		○								兼1
			社会の探究Ｈ	1・2・3前後		2		○								兼1
			社会の探究Ｉ	1・2・3前後		2		○								兼2
			小計（9科目）	－	0	18	0	－			0	0	0	0	0	兼13
		自然	自然の探究Ａ	1・2・3前後		2		○								兼2
			自然の探究Ｂ	1・2・3前後		2		○								兼2
			自然の探究Ｃ	1・2・3前後		2		○								兼2
			自然の探究Ｄ	1・2・3前後		2		○								兼1
			自然の探究Ｅ	1・2・3前後		2		○								兼1
			自然の探究Ｆ	1・2・3前後		2		○								兼1
			自然の探究Ｇ	1・2・3前後		2		○								兼1
			自然の探究Ｈ	1・2・3後		2		○								兼1
			自然の探究Ｉ	1・2・3前		2		○								兼1
			小計（9科目）	－	0	18	0	－			0	0	0	0	0	兼10
		地域	地域連携貢献論	1前後	2			○				2				
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	2	0	0	0	兼2
	学びの技法	基礎科目	基礎技法Ａ－１	1前	2			○			2	1				
			基礎技法Ａ－２	1後	2			○			2		1			
			基礎技法Ａ－３	2前	2			○				1				
			基礎技法Ａ－４	2後	2			○			2		1			
			基礎技法Ｂ－１	1前	2			○								兼5
			基礎技法Ｂ－２	1後	2			○								兼5
			基礎技法Ｂ－３	2前	2			○								兼3
			基礎技法Ｂ－４	2後	2			○								兼3
			基礎技法Ｃ	1前後	2			○								兼2
			英語１	1前	1			○								兼2
			英語２	1後	1			○								兼2
			英語３	2前	1			○								兼2
			英語４	2後	1			○								兼2
			基礎国語Ａ	1・2・3・4前後		2		○								兼1
			基礎国語Ｂ	1・2・3・4前		2		○								兼1

第Ⅰ類科目	学びの技法	基礎科目	基礎数学Ⅰ	1前		2		○								兼1	
			基礎数学Ⅱ	1後		2		○								兼1	
			基礎数学Ⅲ	2前		2		○								兼1	
			基礎数学Ⅳ	2後		2		○								兼1	
			基礎社会Ⅰ	1前		2		○								兼1	
			基礎社会Ⅱ	1後		2		○								兼1	
			基礎社会Ⅲ	2前		2		○								兼1	
			基礎社会Ⅳ	2後		2		○								兼1	
			小計（19科目）	－	22	20	0	－			3	1	1	0	0	兼12	
		展開科目	情報処理Ａ－１（ワード）	1・2前後		2		○								兼2	
			情報処理Ａ－２（ワード）	1・2後		2		○								兼2	
			情報処理Ｂ－１（エクセル）	1・2前後		2		○								兼2	
			情報処理Ｂ－２（エクセル）	1・2後		2		○								兼2	
			情報処理Ｃ（プレゼンテーション）	1・2前後		2		○								兼2	
			情報処理Ｄ（データベース）	1・2前後		2		○								兼1	
			応用英語１	2・3前		1		○								兼1	
			応用英語２	2・3後		1		○								兼1	
			世界の言語（中国語）１	1・2前後		1		○								兼2	
			世界の言語（中国語）２	1・2前後		1		○								兼2	
			世界の言語（中国語）３	2・3前		1		○								兼2	
			世界の言語（中国語）４	2・3後		1		○								兼2	
			世界の言語（フランス語）１	1・2前後		1		○								兼1	
			世界の言語（フランス語）２	1・2前後		1		○								兼1	
			世界の言語（フランス語）３	2・3前		1		○								兼1	
			世界の言語（フランス語）４	2・3後		1		○								兼1	
			世界の言語（ドイツ語）１	1・2前後		1		○								兼2	
			世界の言語（ドイツ語）２	1・2前後		1		○								兼2	
			世界の言語（ドイツ語）３	2・3前		1		○								兼1	
			世界の言語（ドイツ語）４	2・3後		1		○								兼1	
			世界の言語（韓国語）１	1・2前		1		○								兼1	
			世界の言語（韓国語）２	1・2後		1		○								兼1	
			世界の言語（韓国語）３	2・3前		1		○								兼1	
			世界の言語（韓国語）４	2・3後		1		○								兼1	
			世界の言語（スペイン語）１	1・2前		1		○								兼1	
			世界の言語（スペイン語）２	1・2後		1		○								兼1	
			世界の言語（スペイン語）３	2・3前		1		○								兼1	
			世界の言語（スペイン語）４	2・3後		1		○								兼1	
			世界の言語（ヒンディ語）１	1・2前		1		○								兼1	
			世界の言語（ヒンディ語）２	1・2後		1		○								兼1	
			世界の言語（ヒンディ語）３	2・3前		1		○								兼1	
			世界の言語（ヒンディ語）４	2・3後		1		○								兼1	
			英会話Ⅰ	1・2前		2		○								兼2	
			英会話Ⅱ	1・2後		2		○								兼2	
			英会話Ⅲ	2・3前		2		○								兼2	
			英会話Ⅳ	2・3後		2		○								兼2	
			中国語会話Ⅰ	1・2・3前後		2		○								兼1	
			中国語会話Ⅱ	1・2・3前後		2		○								兼1	
			ドイツ語会話Ⅰ	1・2・3前		2		○								兼1	
			ドイツ語会話Ⅱ	1・2・3後		2		○								兼1	
			文章技法Ａ	2・3・4前後		2		○								兼2	
			文章技法Ｂ	2・3・4前後		2		○								兼1	
			技法Ａ（論理力）	2・3・4後		2		○								兼1	
			技法Ｂ（自己アピール）	2・3・4後		2		○								兼1	
			小計（44科目）	－	0	62	0	－			0	0	0	0	0	兼24	

第Ⅰ類科目	留学生科目		日本語研究A	1・2前後		2		○								兼1	
			日本語研究B	1・2前後		2		○								兼1	
			日本語研究C	1・2前後		2		○								兼1	
			日本語研究D	1・2前後		2		○								兼1	
			日本語研究E	1・2前後		2		○								兼1	
			日本語研究F	1・2前後		2		○								兼1	
			日本語研究G	1・2前後		2		○								兼1	
			日本語研究H	1・2前後		2		○								兼1	
			日本語研究Ⅰ	1・2前後		2		○								兼1	
			日本文化研修	1・2前		2		○								兼1	
			小計（10科目）	－	0	20	0	－		0	0	0	0	0	兼2		
第Ⅱ類科目	基礎部門		人間環境論	1前	2			○			4	4	1				
			人間環境入門A	1前		2		○			1						
			人間環境入門B	1後		2		○			1						
			人間環境入門C	1前		2		○				1					
			人間環境入門D	1後		2		○				1					
			小計（5科目）	－	2	8	0	－		4	4	1	0	0	0		
	専門部門	こどもコミュニティ	こども学基礎論Ⅰ	1後		2		○			1						
			こども学基礎論Ⅱ	2前		2		○								兼1	
			こども学基礎論Ⅲ	2後		2		○								兼1	
			現代こども研究A	2前		2		○								兼1	
			現代こども研究B	2後		2		○								兼1	
			現代こども研究C	2前		2		○			1						
			現代こども研究D	3後		2		○								兼1	
			現代こども研究E	3後		2		○				1					
			現代こども研究F	3後		2		○								兼1	
			現代こども研究G	3後		2		○								兼1	
			現代こども研究H	3後		2		○								兼1	
			小計（11科目）	－		22		－		2	1	0	0	0			
		環境政策	環境の基礎A	1後		2		○					1				
			環境の基礎B	1前		2		○					1				
			環境政策研究A	2前		2		○			1						
			環境政策研究B	2後		2		○					1				
			環境政策研究C	2前		2		○			1						
			環境政策研究D	2後		2		○				1					
			環境応用研究A	3・4前		2		○				1					
			環境応用研究B	3・4後		2		○								兼1	
			環境応用研究C	3・4後		2		○					1				
			環境応用研究D	3・4後		2		○								兼1	
			環境応用研究E	3・4後		2		○			1						
			環境応用研究F	3・4前		2		○				1					
			環境応用研究G	3・4後		2		○				1					
			環境実践研究A	2前		2		○								兼1	
			環境実践研究B	2後		2		○								兼1	
			環境の探究A（森里海連関学Ⅰ）	3前		2		○				1					
			環境の探究B（森里海連関学Ⅱ）	3後		1		○			1		1				
			小計（17科目）	－	0	33	0	－		3	4	1	0	0	兼10		

第Ⅱ類科目	実践部門	こどもコミュニティ	ワークショップⅠ（こども）	1前		6			○		2	1				兼1	
			ワークショップⅡ（こども）	1後		6			○		1						
			ワークショップⅢ（こども）	2前		6			○			1					
			ワークショップⅣ（こども）	2後		6			○		1	1					
			ワークショップⅤ（こども）	3前		4			○		2	1				兼2	
			ワークショップⅥ（こども）	3後		4			○		2	1				兼2	
			ワークショップⅦ（こども）	4前		4			○		1	1				兼1	
			ワークショップⅧ（こども）	4後		4			○		1	1				兼1	
			フィールドワークⅠ（人間環境）	1前		2			○		1	2				兼1	
			フィールドワークⅡ（こども）	2前		2			○		1	1					
			フィールドワークⅢ（こども）	2後		2			○		1	1					
			フィールドワークⅣ（こども）	3前		2			○		1	1					
			小計（12科目）	－	0	48	0	－			2	2	0	0	0	兼4	
		環境政策	ワークショップⅠ（環境）	1前		4			○		1	2					
			ワークショップⅡ（環境）	1後		4			○		1	2					
			ワークショップⅢ（環境）	2前		6			○		1		1				
			ワークショップⅣ（環境）	2後		6			○		1		1				
			ワークショップⅤ（環境）	3前		2			○		3	1	1			兼1	
			ワークショップⅥ（環境）	3後		2			○		2	1	1			兼1	
			ワークショップⅦ（環境）	4前		2			○		2	1	1			兼1	
			ワークショップⅧ（環境）	4後		2			○		2	1	1			兼1	
			フィールドワークⅠ（人間環境）	1前		2			○		2	2	1				
			フィールドワークⅡ（環境）	2後		2			○		1		1				集中
			小計（10科目）	－	0	32	0	－			3	2	1	0	0	兼2	
			卒業論文	4通		8			○		5	4	1				
			卒業研究	4通		8			○		5	4	1				
			小計（2科目）	－	0	16	0	－			5	4	1	0	0	兼0	
合計（162科目）				－	26	315	0	－			5	4	1	0	0	兼81	

学位又は称号	学士（人間環境学）	学位又は学科の分野	社会学・社会福祉学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
第Ⅰ類科目36単位、第Ⅱ類科目88単位、合計124単位以上修得すること。ただし、30単位までは、他学科から充当することができる。 （履修科目の登録の上限：春学期・秋学期ともに24単位）	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1授業の授業時間	90分

別記様式第2号（その2の1）

（用紙　日本工業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人間学部臨床心理学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
第Ⅰ類科目	学びの窓口	文化	文化の探究Ａ	1・2・3前後		2		○								兼2
			文化の探究Ｂ	1・2・3前後		2		○								兼2
			文化の探究Ｃ	1・2・3前		2		○								兼2
			文化の探究Ｄ	1・2・3前後		2		○								兼2
			文化の探究Ｅ	1・2・3前後		2		○								兼2
			文化の探究Ｆ	1・2・3前後		2		○								兼2
			文化の探究Ｇ	1・2・3前後		2		○								兼2
			文化の探究Ｈ	1・2・3前		2		○								兼2
			文化の探究Ｉ	1・2・3前		2		○								兼2
			小計（9科目）	－	0	18	0	－			0	0	0	0	0	兼18
		社会	社会の探究Ａ	1・2・3前後		2		○				1				兼1
			社会の探究Ｂ	1・2・3前後		2		○								兼2
			社会の探究Ｃ	1・2・3前		2		○								兼2
			社会の探究Ｄ	1・2・3後		2		○								兼1
			社会の探究Ｅ	1・2・3前後		2		○								兼2
			社会の探究Ｆ	1・2・3前後		2		○								兼2
			社会の探究Ｇ	1・2・3前後		2		○								兼1
			社会の探究Ｈ	1・2・3前後		2		○								兼1
			社会の探究Ｉ	1・2・3前後		2		○								兼2
			小計（9科目）	－	0	18	0	－			0	1	0	0	0	兼12
		自然	自然の探究Ａ	1・2・3前後		2		○								兼2
			自然の探究Ｂ	1・2・3前後		2		○								兼2
			自然の探究Ｃ	1・2・3前後		2		○								兼2
			自然の探究Ｄ	1・2・3前後		2		○								兼1
			自然の探究Ｅ	1・2・3前後		2		○								兼1
			自然の探究Ｆ	1・2・3前後		2		○								兼1
			自然の探究Ｇ	1・2・3前後		2		○								兼1
			自然の探究Ｈ	1・2・3後		2		○								兼1
			自然の探究Ｉ	1・2・3前		2		○								兼1
			小計（9科目）	－	0	18	0	－			0	0	0	0	0	兼10
		地域	地域連携貢献論	1前後	2			○								兼2
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼2
	学びの技法	基礎科目	基礎技法Ａ－１	1前	2			○			1	1	1			
			基礎技法Ａ－２	1後	2			○			1	1	1			
			基礎技法Ａ－３	2前	2			○								兼1
			基礎技法Ａ－４	2後	2			○			1		1			
			基礎技法Ｂ－１	1前	2			○								兼5
			基礎技法Ｂ－２	1後	2			○								兼5
			基礎技法Ｂ－３	2前	2			○								兼1
			基礎技法Ｂ－４	2後	2			○								兼1
			基礎技法Ｃ	1前後	2			○								兼2
			英語１	1前	1			○								兼2
			英語２	1後	1			○								兼2
			英語３	2前	1			○								兼2
			英語４	2後	1			○								兼2
			基礎国語Ａ	1・2・3・4前後		2		○								兼1
			基礎国語Ｂ	1・2・3・4前		2		○								兼1

第Ⅰ類科目	学びの技法	基礎科目	基礎数学Ⅰ	1前		2		○								兼1	
			基礎数学Ⅱ	1後		2		○								兼1	
			基礎数学Ⅲ	2前		2		○								兼1	
			基礎数学Ⅳ	2後		2		○								兼1	
			基礎社会Ⅰ	1前		2		○								兼1	
			基礎社会Ⅱ	1後		2		○								兼1	
			基礎社会Ⅲ	2前		2		○								兼1	
			基礎社会Ⅳ	2後		2		○								兼1	
			小計（19科目）	―	22	20	0	―		2	1	1	0	0	兼13		
		展開科目	情報処理Ａ－１（ワード）	1・2前後		2		○								兼2	
			情報処理Ａ－２（ワード）	1・2後		2		○								兼2	
			情報処理Ｂ－１（エクセル）	1・2前後		2		○								兼2	
			情報処理Ｂ－２（エクセル）	1・2後		2		○								兼2	
			情報処理Ｃ（プレゼンテーション）	1・2前後		2		○								兼2	
			情報処理Ｄ（データベース）	1・2前後		2		○								兼1	
			応用英語１	2・3前		1		○								兼1	
			応用英語２	2・3後		1		○								兼1	
			世界の言語（中国語）１	1・2前後		1		○								兼2	
			世界の言語（中国語）２	1・2前後		1		○								兼2	
			世界の言語（中国語）３	2・3前		1		○								兼2	
			世界の言語（中国語）４	2・3後		1		○								兼2	
			世界の言語（フランス語）１	1・2前後		1		○								兼1	
			世界の言語（フランス語）２	1・2前後		1		○								兼1	
			世界の言語（フランス語）３	2・3前		1		○								兼1	
			世界の言語（フランス語）４	2・3後		1		○								兼1	
			世界の言語（ドイツ語）１	1・2前後		1		○								兼2	
			世界の言語（ドイツ語）２	1・2前後		1		○								兼2	
			世界の言語（ドイツ語）３	2・3前		1		○								兼1	
			世界の言語（ドイツ語）４	2・3後		1		○								兼1	
			世界の言語（韓国語）１	1・2前		1		○								兼1	
			世界の言語（韓国語）２	1・2後		1		○								兼1	
			世界の言語（韓国語）３	2・3前		1		○								兼1	
			世界の言語（韓国語）４	2・3後		1		○								兼1	
			世界の言語（スペイン語）１	1・2前		1		○								兼1	
			世界の言語（スペイン語）２	1・2後		1		○								兼1	
			世界の言語（スペイン語）３	2・3前		1		○								兼1	
			世界の言語（スペイン語）４	2・3後		1		○								兼1	
			世界の言語（ヒンディ語）１	1・2前		1		○								兼1	
			世界の言語（ヒンディ語）２	1・2後		1		○								兼1	
			世界の言語（ヒンディ語）３	2・3前		1		○								兼1	
			世界の言語（ヒンディ語）４	2・3後		1		○								兼1	
			英会話Ⅰ	1・2前		2		○								兼2	
			英会話Ⅱ	1・2後		2		○								兼2	
			英会話Ⅲ	2・3前		2		○								兼2	
			英会話Ⅳ	2・3後		2		○								兼2	
			中国語会話Ⅰ	1・2・3前後		2		○								兼1	
			中国語会話Ⅱ	1・2・3前後		2		○								兼1	
			ドイツ語会話Ⅰ	1・2・3前		2		○								兼1	
			ドイツ語会話Ⅱ	1・2・3後		2		○								兼1	
			文章技法Ａ	2・3・4前後		2		○								兼2	
			文章技法Ｂ	2・3・4前後		2		○								兼1	
			技法Ａ（論理力）	2・3・4後		2		○								兼1	
			技法Ｂ（自己アピール）	2・3・4後		2		○								兼1	
			小計（44科目）	―	0	62	0	―		0	0	0	0	0	兼24		

第Ⅰ類科目	留学生科目	日本語研究A	1・2前後		2		○								兼1	
		日本語研究B	1・2前後		2		○								兼1	
		日本語研究C	1・2前後		2		○								兼1	
		日本語研究D	1・2前後		2		○								兼1	
		日本語研究E	1・2前後		2		○								兼1	
		日本語研究F	1・2前後		2		○								兼1	
		日本語研究G	1・2前後		2		○								兼1	
		日本語研究H	1・2前後		2		○								兼1	
		日本語研究Ⅰ	1・2前後		2		○								兼1	
		日本文化研修	1・2前		2		○								兼1	
		小計（10科目）	－	0	20	0	－			0	0	0	0	0	兼2	
第Ⅱ類科目	基礎部門	基礎ゼミナールⅠ	1前	2				○		3	1	2				
		基礎ゼミナールⅡ	1後	2				○		3	1	2				
		臨床心理学概論	1前後	2			○				2					
		心理学	1前	2			○					1			兼1	
		心理学研究法	1前後	2			○					1			兼1	
		心理査定法	2前後	2			○			1		1				
		小計（6科目）	－	12	0	0	－			4	2	2	0	0	兼1	
	方法・研究部門	対人社会心理学	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		パーソナリティ心理学	1・2・3・4後		2		○					1				
		認知心理学	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		発達心理学	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		発達臨床心理学	2・3・4前		4		○				1					
		深層心理学	2・3・4後		4		○			1						
		精神医学	2・3・4後		4		○			1						
		人間性心理学	2・3・4前		4		○			1						
		家族臨床心理学	2・3・4後		2		○					1				
		教育臨床心理学	2・3・4後		2		○			1						
		非行犯罪臨床心理学	2・3・4前		2		○			1						
		病院臨床心理学	2・3・4後		2		○			1						
		産業臨床心理学	2・3・4前		2		○			1						
		臨床神経心理学	2・3・4前		2		○			1						
		コミュニティ心理学	2・3・4後		2		○			1						
		臨床心理学実務特講	2・3・4前		2		○					1				
		臨床心理学技法特講	2・3・4後		2		○			1						
		臨床心理学理論特講	2・3・4後		2		○			1						
		児童福祉学	2・3・4前		2		○								兼1	
		医学概論	2・3・4後		2		○								兼1	
		医療福祉論	3・4前		2		○								兼1	
		心理療法論	3・4後		4		○			2						オムニバス
		心理援助論	3・4前		2		○					1				
		発達援助論	3・4前		2		○			1						
		関係法規	3・4後		2		○			1						
		小計（25科目）	－	0	60	0	－			8	1	2	0	0	兼6	
	実習部門 演習・	心理学基礎演習	2前後	4					○	4	1	1				共同
		臨床心理学基礎実習Ⅰ	2前	1					○	2						共同
		臨床心理学基礎実習Ⅱ	2後	1					○	2						共同
		小計（3科目）	－	6	0	0	－			4	1	1	0	0	兼0	
	専門ゼミナール部門	臨床心理学専門ゼミナールⅠ	3前	2				○		7	2	2	0	0		
		臨床心理学専門ゼミナールⅡ	3後	2				○		8	2	2	0	0		
		臨床心理学専門ゼミナールⅢ	4前	2				○		7	2	2	0	0		
		臨床心理学専門ゼミナールⅣ	4後	2				○		8	2	2	0	0		
		小計（4科目）	－	8	0	0	－			8	2	2	0	0	0	

第Ⅱ類科目	応用部門	発達心理査定演習	3・4後		4			○		1						
		心理臨床査定演習	3・4前後		4			○		1		2				
		臨床心理学技法演習	3・4前後		4			○		4	2					オムニバス
		社会調査研究法	3・4後		2			○		1					兼1	
		臨床調査研究法	3・4前		2			○		1						
		臨床心理学演習（インターン）	3・4通		4				○			1				共同
		臨床心理学特殊研究ゼミナールA	3・4前		2			○		1						
		臨床心理学特殊研究ゼミナールB	3・4後		2			○			1					
		臨床心理学特殊研究ゼミナールC	3・4前		2			○		1						
		臨床心理学特殊研究ゼミナールD	3・4後		2			○		1						
		原書講読A	3・4前		1			○		1						
		原書講読B	3・4後		1			○			1					
		原書講読C	3・4前		1			○		1						
		原書講読D	3・4後		1			○		1						
		小計（14科目）	－	0	32	0	－			8	2	1	0	0	兼1	
	教職関連部門	法律学概論（国際法を含む。）	2・3・4後		2		○								兼1	
		政治学概論（国際政治を含む。）	2・3・4前		2		○								兼1	
		社会学入門	2・3・4前		4		○								兼1	
		経済学概論（国際経済を含む。）	2・3・4後		2		○								兼1	
		哲学入門	2・3・4前		2		○								兼1	
		現代倫理学	2・3・4後		2		○								兼1	
		宗教学入門	2・3・4後		2		○								兼1	
		小計（7科目）	－	0	16	0	－			0	0	0	0	0	兼7	
		卒業論文	4通		8			○		8	2	2				
		卒業研究	4通		8			○		8	2	2				
		小計（2科目）	－	0	16	0	－			8	2	2	0	0	0	
合計（166科目）			－	50	280	0	－			8	2	2	0	0	兼81	

学位又は称号	学士（臨床心理学）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
第Ⅰ類科目36単位、第Ⅱ類科目88単位、合計124単位以上修得すること。ただし、30単位までは、他学科から充当することができる。 （履修科目の登録の上限：春学期・秋学期ともに24単位）	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1授業の授業時間	90分

別記様式第2号（その2の1）

（用紙　日本工業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人間学部人間科学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
第Ⅰ類科目	学びの窓口	文化	文化の探究Ａ	1・2・3前後		2		○								兼2
			文化の探究Ｂ	1・2・3前後		2		○								兼2
			文化の探究Ｃ	1・2・3前		2		○								兼2
			文化の探究Ｄ	1・2・3前後		2		○								兼2
			文化の探究Ｅ	1・2・3前後		2		○								兼2
			文化の探究Ｆ	1・2・3前後		2		○			1					兼1
			文化の探究Ｇ	1・2・3前後		2		○								兼2
			文化の探究Ｈ	1・2・3前		2		○								兼2
			文化の探究Ｉ	1・2・3前		2		○								兼2
			小計（9科目）	－	0	18	0	－			1	0	0	0	0	兼16
		社会	社会の探究Ａ	1・2・3前後		2		○								兼2
			社会の探究Ｂ	1・2・3前後		2		○								兼2
			社会の探究Ｃ	1・2・3前		2		○								兼2
			社会の探究Ｄ	1・2・3後		2		○								兼1
			社会の探究Ｅ	1・2・3前後		2		○								兼2
			社会の探究Ｆ	1・2・3前後		2		○								兼2
			社会の探究Ｇ	1・2・3前後		2		○								兼1
			社会の探究Ｈ	1・2・3前後		2		○								兼1
			社会の探究Ｉ	1・2・3前後		2		○								兼2
			小計（9科目）	－	0	18	0	－			0	0	0	0	0	兼13
		自然	自然の探究Ａ	1・2・3前後		2		○								兼2
			自然の探究Ｂ	1・2・3前後		2		○			1					兼1
			自然の探究Ｃ	1・2・3前後		2		○			1					兼1
			自然の探究Ｄ	1・2・3前後		2		○								兼1
			自然の探究Ｅ	1・2・3前後		2		○								兼1
			自然の探究Ｆ	1・2・3前後		2		○								兼1
			自然の探究Ｇ	1・2・3前後		2		○								兼1
			自然の探究Ｈ	1・2・3後		2		○								兼1
			自然の探究Ｉ	1・2・3前		2		○								兼1
			小計（9科目）	－	0	18	0	－			1	0	0	0	0	兼9
		地域	地域連携貢献論	1前後	2			○								兼2
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼2
	学びの技法	基礎科目	基礎技法Ａ－１	1前	2			○			1	2				
			基礎技法Ａ－２	1後	2			○			2	1				
			基礎技法Ａ－３	2前	2			○								兼1
			基礎技法Ａ－４	2後	2			○			2	1				
			基礎技法Ｂ－１	1前	2			○								兼5
			基礎技法Ｂ－２	1後	2			○								兼5
			基礎技法Ｂ－３	2前	2			○								兼1
			基礎技法Ｂ－４	2後	2			○								兼1
			基礎技法Ｃ	1前後	2			○								兼2
			英語１	1前	1			○								兼2
			英語２	1後	1			○								兼2
			英語３	2前	1			○								兼2
			英語４	2後	1			○								兼2
			基礎国語Ａ	1・2・3・4前後		2		○								兼1
			基礎国語Ｂ	1・2・3・4前		2		○								兼1

第Ⅰ類科目	学びの技法	基礎科目	基礎数学Ⅰ	1前		2		○								兼1	
			基礎数学Ⅱ	1後		2		○								兼1	
			基礎数学Ⅲ	2前		2		○								兼1	
			基礎数学Ⅳ	2後		2		○								兼1	
			基礎社会Ⅰ	1前		2		○								兼1	
			基礎社会Ⅱ	1後		2		○								兼1	
			基礎社会Ⅲ	2前		2		○								兼1	
			基礎社会Ⅳ	2後		2		○								兼1	
			小計（19科目）	－	22	20	0	－		3	3	0	0	0	兼13		
		展開科目	情報処理Ａ－１（ワード）	1・2前後		2		○								兼2	
			情報処理Ａ－２（ワード）	1・2後		2		○								兼2	
			情報処理Ｂ－１（エクセル）	1・2前後		2		○								兼2	
			情報処理Ｂ－２（エクセル）	1・2後		2		○								兼2	
			情報処理Ｃ（プレゼンテーション）	1・2前後		2		○								兼2	
			情報処理Ｄ（データベース）	1・2前後		2		○								兼1	
			応用英語１	2・3前		1		○								兼1	
			応用英語２	2・3後		1		○								兼1	
			世界の言語（中国語）１	1・2前後		1		○								兼2	
			世界の言語（中国語）２	1・2前後		1		○								兼2	
			世界の言語（中国語）３	2・3前		1		○								兼2	
			世界の言語（中国語）４	2・3後		1		○								兼2	
			世界の言語（フランス語）１	1・2前後		1		○								兼1	
			世界の言語（フランス語）２	1・2前後		1		○								兼1	
			世界の言語（フランス語）３	2・3前		1		○								兼1	
			世界の言語（フランス語）４	2・3後		1		○								兼1	
			世界の言語（ドイツ語）１	1・2前後		1		○								兼2	
			世界の言語（ドイツ語）２	1・2前後		1		○								兼2	
			世界の言語（ドイツ語）３	2・3前		1		○								兼1	
			世界の言語（ドイツ語）４	2・3後		1		○								兼1	
			世界の言語（韓国語）１	1・2前		1		○								兼1	
			世界の言語（韓国語）２	1・2後		1		○								兼1	
			世界の言語（韓国語）３	2・3前		1		○								兼1	
			世界の言語（韓国語）４	2・3後		1		○								兼1	
			世界の言語（スペイン語）１	1・2前		1		○								兼1	
			世界の言語（スペイン語）２	1・2後		1		○								兼1	
			世界の言語（スペイン語）３	2・3前		1		○								兼1	
			世界の言語（スペイン語）４	2・3後		1		○								兼1	
			世界の言語（ヒンディ語）１	1・2前		1		○								兼1	
			世界の言語（ヒンディ語）２	1・2後		1		○								兼1	
			世界の言語（ヒンディ語）３	2・3前		1		○								兼1	
			世界の言語（ヒンディ語）４	2・3後		1		○								兼1	
			英会話Ⅰ	1・2前		2		○								兼2	
			英会話Ⅱ	1・2後		2		○								兼2	
			英会話Ⅲ	2・3前		2		○								兼2	
			英会話Ⅳ	2・3後		2		○								兼2	
			中国語会話Ⅰ	1・2・3前後		2		○								兼1	
			中国語会話Ⅱ	1・2・3前後		2		○								兼1	
			ドイツ語会話Ⅰ	1・2・3前		2		○								兼1	
			ドイツ語会話Ⅱ	1・2・3後		2		○								兼1	
			文章技法Ａ	2・3・4前後		2		○								兼2	
			文章技法Ｂ	2・3・4前後		2		○								兼1	
			技法Ａ（論理力）	2・3・4後		2		○								兼1	
			技法Ｂ（自己アピール）	2・3・4後		2		○								兼1	
			小計（44科目）	－	0	62	0	－		0	0	0	0	0	兼25		

第Ⅰ類科目	留学生科目		日本語研究Ａ	1・2前後		2		○								兼1
			日本語研究Ｂ	1・2前後		2		○								兼1
			日本語研究Ｃ	1・2前後		2		○								兼1
			日本語研究Ｄ	1・2前後		2		○								兼1
			日本語研究Ｅ	1・2前後		2		○								兼1
			日本語研究Ｆ	1・2前後		2		○								兼1
			日本語研究Ｇ	1・2前後		2		○								兼1
			日本語研究Ｈ	1・2前後		2		○								兼1
			日本語研究Ｉ	1・2前後		2		○								兼1
			日本文化研修	1・2前		2		○								兼1
			小計（10科目）	－	0	20	0	－		0	0	0	0	0	兼2	
第Ⅱ類科目	基礎部門		人間科学の基礎	1前	2			○		1						
			基礎ゼミナールⅠ	1前	2				○	3	2	1				
			基礎ゼミナールⅡ	1後	2				○	5	1					
			身体科学の基礎	1後		2		○		1						
			心理学の基礎	1前		4				1						
			社会学の基礎	1前		4				1						
			小計（6科目）	－	6	10	0	－		8	3	1	0	0	0	
	研究法部門	基礎科目	心理学研究法Ａ	1後		2		○				1				
			心理学研究法Ｂ	2前		2		○			1					
			社会調査法Ａ	1後		2		○			1					
			社会学の理論と方法	2前		2		○		1						
			小計（4科目）	－	0	8	0	－		1	2	1	0	0	0	
		展開科目	心理学実験基礎演習Ⅰ	2前		2			○	1	2	1			兼3	
			心理学実験基礎演習Ⅱ	2後		2			○	1	2	1			兼3	
			身体科学実験基礎演習	2後		2			○	1						
			社会調査法Ｂ	2前後		2		○							兼1	
			社会調査法Ｃ	2前後		2		○		1						
			社会統計学Ⅰ	2前後		2			○	1						
			社会統計学Ⅱ	3前		2			○	1						
			社会調査実習	3通		4				○	2	1				
			小計（8科目）	－	0	18	0	－		5	3	1	0	0	兼4	
	専門部門	人間発達科目（Ａ群）	生命科学	2前		2		○							兼1	
			身体活動の科学	1前		2		○		1						
			発育発達と運動	3前		2		○		1						
			脳と心	2後		2		○							兼1	
			基礎心理学	2前		2		○			1					
			心の認知科学	2前		2		○				1				
			認知社会心理学	3後		2		○			1					
			感情心理学	3前		2		○			1					
			生涯発達心理学	2前		2		○		1						
			親と子の発達心理学	3後		2		○		1						
			ライフコース論	2後		2			○	1						
			青年期とアイデンティティ	2後		2		○		1						
			学びと人生	2前		2										
			健康心理学	3前		2		○							兼1	
			動物と人間の心理学	2後		2		○							兼1	
			小計（15科目）	－	0	30	0	－		5	1	1	0	0	兼4	

第Ⅱ類科目	専門部門	現代社会生活科目（B群）	社会心理学	2前		2		○				1					
			コミュニケーション論	2後		2		○								兼1	
			コミュニケーションの心理学	1後		2		○				1					
			ジェンダー論	2後		2		○								兼1	
			現代社会論	2後		2		○			1						
			家族の社会学	2前		2		○			1						
			生活環境の社会学	2前		2		○				1					
			都市と地域の社会学	2後		2		○				1					
			職場の社会学	2前		2		○			1						
			仕事の社会学	3後		2		○			1						
			文化の社会学	3前		2		○			1						
			人口と社会	2前		2		○								兼1	
			教育と社会	3後		2					1						
			情報と社会	2前		2		○			1						
			メディアと社会	3前		2		○								兼1	
			出版文化論	2後		2		○			1						
			社会問題論	3前		2		○								兼1	
			小計（17科目）	－	0	34	0	－			6	2	0	0	0	兼5	
		特別研究	人間科学特別研究Ａ	2前		2			○				1				
			人間科学特別研究Ｂ	2後		2			○		1						
			小計（2科目）	－	0	4	0	－			0	0	1	0	0	0	
		演習科目	人間科学専門演習Ⅰ	3前	2				○		8	3	1				
			人間科学専門演習Ⅱ	3後	2				○		8	3	1				
			人間科学応用演習Ⅰ	3前		2			○		2	2	1				
			人間科学応用演習Ⅱ	3後		2			○		2	2	1				
			小計（4科目）	－	4	4	0	－			8	3	1	0	0	0	
	教職関連部門		日本史概説Ａ	2・3・4前		2		○								兼1	
			日本史概説Ｂ	2・3・4後		2		○								兼1	
			西洋史概説	2・3・4前後		4		○								兼1	
			東洋史概説	2・3・4前後		4		○								兼1	
			人文地理学Ａ	2・3・4前		2		○								兼1	
			人文地理学Ｂ	2・3・4後		2		○								兼1	
			自然地理学Ａ	2・3・4前		2		○								兼1	
			自然地理学Ｂ	2・3・4後		2		○								兼1	
			地誌学	2・3・4前後		2		○								兼1	
			法律学概論（国際法を含む。）	2・3・4後		2		○								兼1	
			政治学概論（国際政治を含む。）	2・3・4前		2		○								兼1	
			経済学概論（国際経済を含む。）	2・3・4後		2		○								兼1	
			哲学入門	2・3・4前		2		○								兼1	
			現代倫理学	2・3・4後		2		○								兼1	
			宗教学入門	2・3・4後		2		○								兼1	
			小計（15科目）	－	0	34	0	－								兼12	
			卒業論文	4通	8				○		8	3	1	0	0		
			小計（1科目）	－	8	0	0	－			8	3	1	0	0	0	
合計（177科目）				－	42	298	0	－			8	3	1	0	0	兼79	

学位又は称号	学士（人間科学）	学位又は学科の分野	社会学・社会福祉学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
第Ⅰ類科目36単位、第Ⅱ類科目88単位、合計124単位以上修得すること。ただし、22単位までは、他学科から充当することができる。 （履修科目の登録の上限：春学期・秋学期ともに24単位）	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1授業の授業時間	90分

別記様式第2号（その2の1）

（用紙　日本工業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人間学部教育人間学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
第Ⅰ類科目	学びの窓口	文化	文化の探究A	1・2・3前後		2		○								兼2
			文化の探究B	1・2・3前後		2		○								兼2
			文化の探究C	1・2・3前		2		○								兼2
			文化の探究D	1・2・3前後		2		○								兼2
			文化の探究E	1・2・3前後		2		○								兼2
			文化の探究F	1・2・3前後		2		○								兼2
			文化の探究G	1・2・3前後		2		○								兼2
			文化の探究H	1・2・3前		2		○								兼2
			文化の探究Ⅰ	1・2・3前		2		○								兼2
			小計（9科目）	－	0	18	0	－			0	0	0	0	0	兼18
		社会	社会の探究A	1・2・3前後		2		○								兼2
			社会の探究B	1・2・3前後		2		○								兼2
			社会の探究C	1・2・3前		2		○								兼2
			社会の探究D	1・2・3後		2		○								兼1
			社会の探究E	1・2・3前後		2		○								兼2
			社会の探究F	1・2・3前後		2		○								兼2
			社会の探究G	1・2・3前後		2		○								兼1
			社会の探究H	1・2・3前後		2		○								兼1
			社会の探究Ⅰ	1・2・3前後		2		○								兼2
			小計（9科目）	－	0	18	0	－			0	0	0	0	0	兼13
		自然	自然の探究A	1・2・3前後		2		○								兼2
			自然の探究B	1・2・3前後		2		○								兼2
			自然の探究C	1・2・3前後		2		○								兼2
			自然の探究D	1・2・3前後		2		○								兼1
			自然の探究E	1・2・3前後		2		○								兼1
			自然の探究F	1・2・3前後		2		○								兼1
			自然の探究G	1・2・3前後		2		○								兼1
			自然の探究H	1・2・3後		2		○								兼1
			自然の探究Ⅰ	1・2・3前		2		○								兼1
			小計（9科目）	－	0	18	0	－			0	0	0	0	0	兼10
		地域	地域連携貢献論	1前後	2			○								兼2
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼2
	学びの技法	基礎科目	基礎技法A－1	1前	2			○				1	1			
			基礎技法A－2	1後	2			○			2					
			基礎技法A－3	2前	2			○								兼1
			基礎技法A－4	2後	2			○			2					
			基礎技法B－1	1前	2			○								兼5
			基礎技法B－2	1後	2			○								兼5
			基礎技法B－3	2前	2			○								兼1
			基礎技法B－4	2後	2			○								兼1
			基礎技法C	1前後	2			○								兼2
			英語1	1前	1			○								兼2
			英語2	1後	1			○								兼2
			英語3	2前	1			○								兼2
			英語4	2後	1			○								兼2
			基礎国語A	1・2・3・4前後		2		○								兼1
			基礎国語B	1・2・3・4前		2		○								兼1

第Ⅰ類科目	学びの技法	基礎科目	基礎数学Ⅰ	1前		2		○								兼1	
			基礎数学Ⅱ	1後		2		○								兼1	
			基礎数学Ⅲ	2前		2		○								兼1	
			基礎数学Ⅳ	2後		2		○								兼1	
			基礎社会Ⅰ	1前		2		○								兼1	
			基礎社会Ⅱ	1後		2		○								兼1	
			基礎社会Ⅲ	2前		2		○								兼1	
			基礎社会Ⅳ	2後		2		○								兼1	
			小計（19科目）	－	22	20	0	－			2	1	1	0	0	兼13	
		展開科目	情報処理Ａ－１（ワード）	1・2前後		2		○								兼2	
			情報処理Ａ－２（ワード）	1・2後		2		○								兼2	
			情報処理Ｂ－１（エクセル）	1・2前後		2		○								兼2	
			情報処理Ｂ－２（エクセル）	1・2後		2		○								兼2	
			情報処理Ｃ（プレゼンテーション）	1・2前後		2		○								兼2	
			情報処理Ｄ（データベース）	1・2前後		2		○								兼1	
			応用英語１	2・3前		1		○								兼1	
			応用英語２	2・3後		1		○								兼1	
			世界の言語（中国語）１	1・2前後		1		○								兼2	
			世界の言語（中国語）２	1・2前後		1		○								兼2	
			世界の言語（中国語）３	2・3前		1		○								兼2	
			世界の言語（中国語）４	2・3後		1		○								兼2	
			世界の言語（フランス語）１	1・2前後		1		○								兼1	
			世界の言語（フランス語）２	1・2前後		1		○								兼1	
			世界の言語（フランス語）３	2・3前		1		○								兼1	
			世界の言語（フランス語）４	2・3後		1		○								兼1	
			世界の言語（ドイツ語）１	1・2前後		1		○								兼2	
			世界の言語（ドイツ語）２	1・2前後		1		○								兼2	
			世界の言語（ドイツ語）３	2・3前		1		○								兼1	
			世界の言語（ドイツ語）４	2・3後		1		○								兼1	
			世界の言語（韓国語）１	1・2前		1		○								兼1	
			世界の言語（韓国語）２	1・2後		1		○								兼1	
			世界の言語（韓国語）３	2・3前		1		○								兼1	
			世界の言語（韓国語）４	2・3後		1		○								兼1	
			世界の言語（スペイン語）１	1・2前		1		○								兼1	
			世界の言語（スペイン語）２	1・2後		1		○								兼1	
			世界の言語（スペイン語）３	2・3前		1		○								兼1	
			世界の言語（スペイン語）４	2・3後		1		○								兼1	
			世界の言語（ヒンディ語）１	1・2前		1		○								兼1	
			世界の言語（ヒンディ語）２	1・2後		1		○								兼1	
			世界の言語（ヒンディ語）３	2・3前		1		○								兼1	
			世界の言語（ヒンディ語）４	2・3後		1		○								兼1	
			英会話Ⅰ	1・2前		2		○								兼2	
			英会話Ⅱ	1・2後		2		○								兼2	
			英会話Ⅲ	2・3前		2		○								兼2	
			英会話Ⅳ	2・3後		2		○								兼2	
			中国語会話Ⅰ	1・2・3前後		2		○								兼1	
			中国語会話Ⅱ	1・2・3前後		2		○								兼1	
			ドイツ語会話Ⅰ	1・2・3前		2		○								兼1	
			ドイツ語会話Ⅱ	1・2・3後		2		○								兼1	
			文章技法Ａ	2・3・4前後		2		○								兼2	
			文章技法Ｂ	2・3・4前後		2		○								兼1	
			技法Ａ（論理力）	2・3・4後		2		○								兼1	
			技法Ｂ（自己アピール）	2・3・4後		2		○								兼1	
			小計（44科目）	－	0	62	0	－			0	0	0	0	0	兼24	

第Ⅰ類科目	留学生科目		日本語研究A	1・2前後		2		○								兼1	
			日本語研究B	1・2前後		2		○								兼1	
			日本語研究C	1・2前後		2		○								兼1	
			日本語研究D	1・2前後		2		○								兼1	
			日本語研究E	1・2前後		2		○								兼1	
			日本語研究F	1・2前後		2		○								兼1	
			日本語研究G	1・2前後		2		○								兼1	
			日本語研究H	1・2前後		2		○								兼1	
			日本語研究Ⅰ	1・2前後		2		○								兼1	
			日本文化研修	1・2前		2		○								兼1	
			小計（10科目）	―	0	20	0	―			0	0	0	0	0	兼2	
第Ⅱ類科目	導入部門		基礎ゼミナールⅠ	1前	2				○		3	1					
			基礎ゼミナールⅡ	1後	2				○		3	1					
			教育キャリアゼミナールⅠ	2前	2				○		1	1		1			
			教育キャリアゼミナールⅡ	2後	2				○		1	1		1			
			社会学の基礎	1前		4		○								兼1	
			教育心理学の基礎	1前		2		○				1					
			社会心理学の基礎	1後		2		○				1					
			哲学の基礎	1前		2		○			1						
			宗教学の基礎	1後		2		○								兼1	
			教育学の基礎	1前	4			○			1	1					
			現在の教育問題	1後		2		○			1						
			教育の現場を知るⅠ	1前		1				○				1			
			教育の現場を知るⅡ	1後		1				○				1			
			小計（13科目）	―	12	16	0	―			4	2	0	1	0	兼1	
	発展部門	A群	教育者のための哲学	1・2後		2		○			1						
			教育者のための倫理学	2・3前		2		○			1						
			いのちの倫理	1・2後		2		○								兼1	
			人と文化をつくる宗教	2・3前		2		○								兼1	
			生活のなかの宗教	1・2後		2		○								兼1	
			文化からみる日本史	2・3前		2		○			1						
			文化からみる世界史	1・2後		2		○				1					
			科学とオカルトの歴史	1・2後		2		○			1						
			東と西の思想史	1・2後		2		○								兼1	
			美学の歴史	1・2後		2		○								兼1	
			小計（10科目）	―	0	22	0	―			4	2	0	0	0	兼1	
		B群	パーソナリティ心理学	1・2前		2		○								兼1	
			臨床発達心理学	1・2前		2		○						1			
			こころの教育を考える	2・3前		2		○								兼1	
			いのちの教育を考える	2・3前		2		○								兼1	
			マナーと人間関係を考える	2・3前後		2		○								兼1	
			現代社会の倫理を考える	2・3前		2		○								兼1	
			環境への責任を考える	2・3前		2		○								兼1	
			伝統民俗を活かす教育	2・3後		2		○								兼1	
			伝統礼法と教育	2・3前後		2		○								兼1	
			対立と対話	2・3後		2		○								兼1	集中
			宗教と教育の関係	2・3後		2		○								兼1	
			小計（11科目）	―	0	22	0	―			4	2	0	0	0	兼1	
		C群	現代教職論	1・2前後		2		○								兼1	
			教育基礎論	2・3前後		2		○			1					兼1	
			学習・発達論	2・3前後		2		○				1					
			教育制度論	2・3前後		2		○			1						
			教育と社会	2・3後		2		○			1						
			教育課程論	2・3前後		2		○			1						
			社会科教育法Ⅰ	2・3前		2		○								兼1	
			社会科教育法Ⅱ	2・3後		2		○								兼1	
			社会・地歴科教育法Ⅰ	2・3前		2		○								兼1	
			社会・地歴科教育法Ⅱ	2・3後		2		○			2					兼1	
			社会・公民科教育法Ⅰ	2・3前		2		○			1						

第Ⅱ類科目	発展部門	C群	社会・公民科教育法Ⅱ	2・3後		2		○			1						
			宗教科教育法Ⅰ	2・3前		2		○								兼1	
			宗教科教育法Ⅱ	2・3後		2		○								兼1	
			国際理解教育論	2・3前		2		○								兼1	
			道徳教育研究	2・3前後		2		○								兼1	
			特別活動研究	2・3前後		2		○								兼1	
			教育方法論	2・3前後		2		○				1					
			生徒・進路指導論	2・3前後		2		○						1			
			教育相談	2・3前後		2		○								兼1	
			教育・現場体験	2・3後		1				○	1						
			小計（21科目）	－	0	41	0		－		4	2	0	0	0	兼1	
		D群	生涯学習概論	1・2・3・4前後		4		○								兼2	
			比較生涯学習概論Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼1	
			比較生涯学習概論Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼1	
			子育て支援学習	2・3・4前		2		○								兼1	
			青少年と学習	2・3・4後		2		○								兼1	
			成人と学習	2・3・4後		2		○								兼1	
			教育と宗教	2・3・4前		2		○								兼1	
			社会教育計画論	2・3・4前後		4		○								兼2	オムニバス
			教育文化事業論	2・3・4後		2		○			1						
			図書館概論	2・3・4前		2		○								兼1	
			生涯スポーツ論	2・3・4後		2		○			1						
			生涯学習施設実習	2・3・4通		4				○						兼1	
			小計（12科目）	－	0	30	0		－		4	2	0	0	0	兼1	
		E群	高等教育論入門	1後		2		○				1					
			教育法規入門	1後		2		○			1						
			大学・学校職員論Ⅰ	1前		2		○								兼1	
			大学・学校職員論Ⅱ	1後		2		○								兼1	
			大学の組織と戦略Ⅰ	2・3前		2		○								兼1	
			大学の組織と戦略Ⅱ	2・3後		2		○								兼1	
			学生募集戦略	2・3前		2		○								兼1	
			広報戦略	2・3後		2		○								兼1	
			教育と学生支援	2・3前		2		○				1					
			キャリア教育概論	2・3前		2		○								兼1	
			学校会計演習Ⅰ	2・3前		2			○							兼1	
			学校会計演習Ⅱ	2・3後		2			○							兼1	
			実務で使う統計	2・3前		2		○								兼1	
			職員業務の現場演習	3・4後		2			○			1					
			財務分析演習	3・4前		2			○		1						
			財務計画演習	3・4後		2			○		1						
			教育産業論	3・4後		2		○			1						
			教育マネジメントＡ	3・4前		2		○			1						
			教育マネジメントＢ	3・4後		2		○								兼1	
			教育マネジメントＣ	3・4前		2		○				1					
			大学の地域連携	4後		2		○								兼1	
			最新の高等教育事情	4前		2		○						1			
			小計（22科目）	－	0	44	0		－		5	1	2	0	0	兼5	
	応用部門		教育人間学専門ゼミナールⅠ	3前	2				○		4	2		1			
			教育人間学専門ゼミナールⅡ	3後	2				○		4	2		1			
			教育人間学専門ゼミナールⅢ	4前	2				○		1	2					
			教育人間学専門ゼミナールⅣ	4後	2				○		1	2					
			教育人間学特別研究	3・4後		2		○			1						
			小計（5科目）	－	8	2	0		－		4	2	0	0	0	兼1	

第Ⅱ類科目	教職関連部門	日本史概説Ａ	2・3・4前		2		○								兼1	
		日本史概説Ｂ	2・3・4後		2		○								兼1	
		西洋史概説	2・3・4前後		4		○								兼1	
		東洋史概説	2・3・4前後		4		○								兼1	
		人文地理学Ａ	2・3・4前		2		○								兼1	
		人文地理学Ｂ	2・3・4後		2		○								兼1	
		自然地理学Ａ	2・3・4前		2		○								兼1	
		自然地理学Ｂ	2・3・4後		2		○								兼1	
		地誌学	2・3・4前後		2		○								兼1	
		法律学概論（国際法を含む。）	2・3・4後		2		○								兼1	
		政治学概論（国際政治を含む。）	2・3・4前		2		○								兼1	
		経済学概論（国際経済を含む。）	2・3・4後		2		○								兼1	
		哲学入門	2・3・4前		2		○								兼1	
		現代倫理学	2・3・4後		2		○								兼1	
		宗教学入門	2・3・4後		2		○								兼1	
		小計（15科目）	－	0	34	0	－								兼12	
		卒業論文	4通		8			○		5	2					
		卒業研究	4通		8			○		5	2					
		小計（2科目）	－	0	16	0	－			5	2	0	0	0	兼0	
合計（216科目）			－	44	383	0	－			5	2	0	1	0	兼77	

学位又は称号	学士（教育人間学）	学位又は学科の分野	社会学・社会福祉学関係　教育学・保育学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
第Ⅰ類科目36単位、第Ⅱ類科目88単位、合計124単位以上修得すること。ただし、30単位までは、他学科から充当することができる。 （履修科目の登録の上限：春学期・秋学期ともに24単位）	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1授業の授業時間	90分

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理社会学部人間科学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
第Ⅰ類科目	学びの窓口	文化	文化の探究Ａ	講義形式で行う。受講者に事例を考えてもらいながら、その事例を検討する。必要に応じて映像を鑑賞する。「論理的・批判的に考える力を養うことができる。」「「論理学」的思考の初歩を理解できるようになる。」ことを到達目標とする。論理的に考えるとはどういうことであろうか。論理的に考えることは学問をする上で、もっとも基本的なことである。多くの人は、「考えている」つもりでも、実はただ「悩んでいる」だけのことが多い。本授業では、論理的・批判的に考える方法について学ぶ。	
			文化の探究Ｂ	講義形式で行う。「講義で取り上げた生命倫理のテーマについて、その概要と何が争点となっているのかを説明し、自己の視点を述べることができる。」「個人発表において、受講生の興味に応じて発表テーマを選択し、それについて調査し、レジュメを作成して、発表することができる。」「個人発表において、他の人の発表に耳を傾け、適切なコメントを述べることができる。」を到達目標として、生命倫理が扱う諸問題について共に学ぶ。	
			文化の探究Ｃ	講義形式で行う。「ヨーロッパの中でのポーランドの位置を民族的・宗教的に認識できる。」「ポーランドとその周囲の民族との歴史的関係を認識できる。」「近世における身分制社会の特徴を理解できる。」「近代におけるポーランドのロマン主義と亡命社会の特徴を認識できる。」「現代におけるホロコーストがポーランドに及ぼした影響を認識できる。」などを到達目標として、ヨーロッパの東西の要に位置するポーランドの歴史を題材にして、それに関わった幾人かの人物を考察の中心に据える。	
			文化の探究Ｄ	講義形式で行う。「日本の歴史をアジア史の中で位置付けることができる。」「アジアの中における日本の位置が正しく理解できる。」「グループワークにより歴史を説明することができる。」を到達目標として、アジア史、なかでも中国との関係から日本の歴史とその果たしてきた役割について確認する。現代社会におけるアジア（中国・インド）の台頭にあって、わが国が担う立場を考える。	
			文化の探究Ｅ	講義形式で行う。「和歌表現の豊かさ、和歌の表現技巧、和歌作品の社会的背景などを理解することで、和歌文学に親しみと興味を持つことができる。」「奈良・平安・鎌倉期の主要な和歌を学ぶことで、古典の常識や教養を広げる。」「古文の読解に必要な、各種辞典・事典を活用できる。」を到達目標として、現代人でも深く共感できる奈良・平安・鎌倉期の和歌を取り上げ、基本事項をマスターしながら一首一首味読する。	
			文化の探究Ｆ	講義形式で行う。適宜、学生からの意見参加、発表を求める。「日本語・日本文学の幅広い学習から、日本の言語、文化の特徴を理解している。」「豊かな表現、分かりやすい表現を用いて、相手に説明することができる。」「ものの見方・考え方に対し、様々な角度からアプローチできる柔軟な姿勢をもっている。」を到達目標として、日本の文化としての近代文学を学ぶとともに、一部を音読することで、日本語の豊かな表現を味わう。	
			文化の探究Ｇ	講義形式で行う。双方向型授業を重視し、ディスカッションも取り入れる。「現代社会と仏教について小論文を作成し、諸見解が理解できる。」「見解を整理し、論文の形式に沿って文章が書ける。」を到達目標として、現代人の意識・宗教観を検討する。また、現代社会の課題と仏教・宗教の関わりを考え、それらを踏まえたうえで、各自が現代社会と仏教に関する小論文を作成する。	
			文化の探究Ｈ	講義形式で行う。双方向型授業を重視し、ディスカッションも取り入れる。「授業での検討事項を踏まえたうえで、受講生は、プレゼンテーションを行う。」「現代社会と仏教に関わる書籍を一冊選定し、その概要を把握する。」「著者の主張をまとめ、その主張に対する自分の論評を加え、レジュメを作成し発表する。」を到達目標とする。本科目では、葬儀にまつわる多くの課題や多様な見解をとり上げながら、受講生は一つのテーマについて意見をまとめ、発表を行う。	
			文化の探究Ｉ	講義形式で行う。文化の多様性を知り、文化人類学の基礎を学ぶ。「自分（たち）にとって当たり前であることが、他人にとって当たり前ではない」ということを知った経験はあるだろうか。戦前の植民地時代、世界中を支配した西欧諸国の人々は、世界の至る所でこのような経験をした。文化人類学はこの「なぜ違うのか」という問いからスタートしたともいえる学問である。講義ではいくつかのテーマを設定し、実際の例に触れながら、先人たちがそれをどのように考えてきたのかを説明していく。	

第Ⅰ類科目	学びの窓口	社会	社会の探究Ａ	講義形式で行う。毎回テーマに基づく講義を行い、受講者には授業時間内に適宜ミニ・レポートを提出することを求める。「人が生まれることへの自分の考えを深める。」「人として育っていくプロセスを知る。」「発達的な視点で人間を理解することができる。」を到達目標として、「人はどのように人となるのか？」を乳幼児期の発達の視点から人間への理解を深める。	
			社会の探究Ｂ	講義形式で行う。「片親疎外や面会交流について説明できる。」を到達目標として、離婚後の子育ての問題について学ぶ。全15回の授業においては、レポート課題や発表準備、グループ討議を多く経験することによって、片親疎外、面会交流、ステップファミリーなど、現代の家族が抱える離婚後の子育ての問題を理解する。	
			社会の探究Ｃ	講義形式で行う。ケーススタディを織り込みながら理解を深め、実社会で役に立つ指導を行う。新聞、放送、インターネット系など多メディア、クロスメディア時代のエンターテインメントビジネスに関する基礎的表現法を修得する。アカデミックライティングとビジネスライティング、作法の違いなどからエンターテインメントビジネスへの理解を深める。	
			社会の探究Ｄ	講義形式で行う。学生にも順次発表・回答させる。「情報の伝達・利用される仕組みを学び、必要・不必要に応じた取捨選択・目的に応じて使いこなす能力を高める。ひいては、コンピュータと情報のあり方、関わり方について考える。」を到達目標として、身の回りのさまざまな情報がどのように作られ、伝えられるのか。また、それがどのように利用されるのかを学ぶ。	
			社会の探究Ｅ	講義形式で行う。コメントシートや発表など、意見を表明することを求める。「スピリチュアリティとは何かが説明できるようになる。」「スピリチュアリティをめぐる文化の可能性と限界を説明できるようになる。」を到達目標とする。スピリチュアリティに対する関心が高まっているが、こうした「ブーム」をめぐる情報をどう収集・整理するかを学びつつ、なぜこうしたブームが起きるのか、スピリチュアリティという視点を獲得すると、当事者にとって世界はどう見えるのかを確認していく。	
			社会の探究Ｆ	講義形式で行う。コメントシートや発表など、意見を表明することを求める。「スピリチュアリティをめぐる文化にどのような分野があるかを説明できるようになる。」「各文化でのスピリチュアリティの可能性と限界を説明できるようになる。」を到達目標とする。本講義では、スピリチュアリティが宗教を離れて、世俗の分野でも注目を集めていることを確認し、そこから時代的・社会的背景を読み解くことを目指す。具体的には授業計画にある５本の映画を見て、そこに現れた死生観を読み解くことになる。	
			社会の探究Ｇ	講義形式で行う。法の基礎知識および民法の概要を学ぶ。「法令の条文や判例、文献等の精読と理解が的確にできる。」「論理的な文章を正確に読解し、その概要を自分の言葉で表現できる。」「契約や物の所有などに関する現行法のルールを理解できる。」などを到達目標として、現行の法制度のうち、市民生活の基本法である民法を中心に、所有権や契約などの仕組みについて学ぶ。生活に密着した具体的な事例を多く取り上げ、法制度を身近に感じてもらえるようにする。	
			社会の探究Ｈ	講義形式で行う。「日常の生活の中で出会う物事の背後にある法的なルールや考え方を理解する。」「日常の生活の中で出会う事柄について法的な解決を視野に入れた行動ができるようになる。」ことを到達目標とし、社会における法の役割、社会のルールの背後にある法的な考え方等を概観した後、憲法、民法、刑法などの基礎的な法律のエッセンスを学ぶ。その上で、日常生活で直面する労働、消費者、医療・福祉、情報、国際関係等の諸問題に関わる法や問題解決の仕組み等について概観する。	
			社会の探究Ｉ	講義形式で行う。現実の経済問題を理解するのに役立つ経済学のエッセンスについて学ぶ。経済問題は国民一人ひとりの暮らしに直結するものでありながら、それを正しく理解するツールである経済学の方法をきちんと身に付けている人は意外に少ない。まず現実経済の具体的な事例に即し、その正確な理解を主眼として、マクロ・ミクロの経済理論と近年重要性を増しているゲーム理論について、その基本を学ぶ。さらに、財政、金融、企業・産業、労働、国際経済など、経済理論の幅広い応用分野についても概説する。	

第Ⅰ類科目	学びの窓口	自然	自然の探究Ａ	講義形式、双方向型授業を重視する。「数学の知識の実生活における実用性について理解できている。」「単なる実用性にとどまらない、数学の文化としての重要性が理解できている。」「身のまわりの諸事象の中に、数学の知識がどのように生かされているかを知ろうとする態度を身に付ける。」ことを到達目標とする。数学の知識が実際の生活に実用的であるというだけでなく、音楽や文学、その他多くの芸術のように、人間の生活を豊かにする文化としての重要性が理解できることをねらって、数学のもつ魅力をさまざまな側面から考察する。	
			自然の探究Ｂ	講義形式で行う。「数学が実用的な必要性から生まれてきたことが理解できている。」「古代ギリシャにおいて、論証数学（証明つきの数学）が形成された事情について説明することができる。」「数学がいかに広範な文化的背景をもって発展してゆく知的営為であるかが理解できる。」ことを到達目標とする。数学的知恵の足跡をたどることを通して、場所と時代は異なっても、どこか似ていて、しかもそれぞれに違う数学的文化を感じることを目標とする。	
			自然の探究Ｃ	講義形式で行う。「現代社会におけるスポーツの功罪を正しく説明できる。」「健康に関する基礎的、科学的な知識を身に付ける。」ことを到達目標として、スポーツを取り巻く社会的な問題を取り上げ、スポーツの置かれている現状について考えていく。また、健康に関連してしばしば誤った情報が伝えられている。健康的な生活の実践のために正しい知識を獲得することを目指す。その上で、エクササイズやスポーツ実技を実習し、実際の運動でどのように生かすことができるかを学ぶ。	
			自然の探究Ｄ	講義形式で行う。水源確保、土砂災害、水害防止など森林が関わる諸問題に取り組むための基礎として、森林の持つ多様な機能について学習する。本講義における大きな目標は、心理について幅広い知識を持つこと、森林の機能についての導入的な知識を得ることにある。そして、「心理の果たす役割について理解を深め、森林がなぜ重要とされるについての理解を高める。」ことを到達目標とする。授業内容としては、森林科学が持つ各分野に関して、入門的な内容を扱っていく。	
			自然の探究Ｅ	講義形式で行う。この授業では農耕と定住の始まりから都市の形成、近代科学の誕生や産業革命を経て現代に至るまでの歴史に、人類と環境の関係がどのような影響を及ぼしてきたかということ、および人類の環境に対する考え方の変遷について概観する。その過程で「環境問題がどのような原因で生じるのかが分かる。」「現代の環境問題にどのように対処すればよいのかについて考えを深めることができる。」ことを到達目標とする。	
			自然の探究Ｆ	講義形式で行う。「古代から現代に至る科学の歴史的展開について、その概要を説明することができる。」「科学の歴史的発展に「思想」や「宗教」などがいかに関係しているか、いくつかの事例について理解できている。」「科学と技術に関して、今後思索する際の知的道具を身に付けている。」を到達目標として、古代から現代に至る科学の歴史的展開を、「方法」や「思想」、「宗教との関係」にも眼を向けつつ総合的に学ぶ。	
			自然の探究Ｇ	講義形式で行う。地球上には様々な微生物が生息しており、人間の生活に深く関わっているものも多い。それらは発酵食品や環境浄化など人間にとって有益な作用をもたらすものから、感染症を引き起こす病原菌など有害なものまで多種多様である。本講義では、普段生活している中で馴染みのあるものを中心に、微生物の構造や機能、その利用法などを紹介していく。微生物が身近な存在であるということを知ることによって、自然界における微生物の存在と重要性、さらに人間との関わりについて関心をもつことを目標とする。	
			自然の探究Ｈ	講義形式で行う。「地球を取り巻く宇宙環境」をテーマに行う。「宇宙という視点から見た地球の特徴や、オーロラなど周囲の宇宙環境が地球にもたらす様々な現象。」「地球の兄弟である太陽系の惑星たちとの共通点・相違点について理解する。」ことを目標とする。地球や惑星、周囲の宇宙環境に関する基礎知識や、それらの間に起こる自然現象・天体現象について原理から学んでいく。また、講師が参画している惑星探査プロジェクトなどに焦点を当て、宇宙科学に関連するプロジェクトの最前線についても紹介していく。	
			自然の探究Ｉ	講義形式で行う。人間科学、脳科学、生命科学、宇宙開発、環境、福祉教育などの各分野について、ＮＨＫスペシャルの映像などを活用しながら自然科学の幅広い知識を身に付ける。身近にある内容を取り上げ、人間とはどういう生物か、環境問題・エネルギー問題とは何か、テクノロジーで世界をどう変えるかなど各回テーマを変えて、講義を行う。まずは関心を持ってもらうことを中心にしながら、広く自然科学を学ぶための基礎知識を学ぶ。	

第Ⅰ類科目	学びの窓口	地域	地域連携貢献論	講義形式で行う。ディスカッションも取り入れる。地域経済が真に活性化するためには、各地域が新たな視点や発想をもって個性豊かな地域の資源を掘り起こし、多様な知恵と創意工夫により自ら活性化を実現していくことである。しかしながら世の中の地域活性化に対しての知見は少なく、地域にイノベーションを興す人材もいないのが現状である。この講義では山積する地域の課題や活性化の取組事例を研究し、地域活性化の手法を学び、地域活性化をプロデュースするための基礎的な知識を身に付ける。	
	学びの技法	基礎科目	基礎技法Ａ－１	講義形式で行う。グループワークや発表なども取り入れる。「大学生になる～自律と自立～」をテーマとし、グループワークを通して、大学生活を送るうえで前提となる知識やマナーを身に付け、セルフマネジメントによって４年間の大学生活を充実したものとするための基礎を学ぶ。「学びを通して、目標達成のためのプランを立てることができる。」ことを到達目標とする。	
			基礎技法Ａ－２	講義形式で行う。グループワークや発表なども取り入れる。「自らを社会に位置づける」ことをテーマとし、自らを社会に位置づけ、社会（企業）の求めを敏感に察知する能力を養うために、経済(ファイナンス)・金銭関係(税金、奨学金)の知識や政治への関心を育み、映画を通して社会背景を読み解く力を涵養し、それに応じた生活力や労務知識、エンプロイアビリティを構想、意識する。また、グループワークを通してセールススキルも養う。	
			基礎技法Ｂ－１	講義形式で行う。課題の添削を通して、日本語文章能力の向上を計る。「正しい日本語を使うことができる。」「論理的文章について理解する」ことを到達目標とし、日本語表現の基礎知識・基本技能として、①事実の整理　（要約：事実と自分の意見の区別）、②情報収集の諸注意、③小論文作成の段取りについて、文法的に正しい書き言葉で、論理的な構成を備えた文章を作成するため、最低限必要となる技能を学ぶ。	
			基礎技法Ｂ－２	講義形式で行う。課題の添削を通して、日本語文章能力の向上を計る。「新書を読んでまとめることができる。」「論理的文章を書くことができる。」ことを到達目標とし、日本語表現の基礎知識・基本技能を、①文章読解、②発見／調査型小論文について、与えられた文献の中から、自ら小論文のテーマを発見する方法を学ぶ。新書をはじめとする文献の調査、読解、要約、マッピングなど、これまでに学んだことを総合し、小論文を作成する技能を学ぶ。	
			基礎技法Ｃ	講義形式で行う。情報化社会を迎えた現代においては、コンピュータはほとんどの人にとって必要不可欠なものとなっている。そのような中で我々は必然的にコンピュータを使っていなければならないし、有効に利用することができれば非常に便利な道具となり得る。Windowsの基本操作を学び、コンピュータと長く付き合っていく上で必要なことを身に付け、コンピュータの基礎知識と基本操作を学ぶ。	

第Ⅰ類科目	学びの技法	基礎科目	英語１	講義形式で行う。学生に順次発表・回答もさせる。「英語のパラグラフ構成を理解し、英語の論理構成を学ぶ。」「トピックセンテンスを探して、各パラグラフのメインアイディアを捉える力を養う。」「英文の内容を理解し、正確な日本語に訳す力を養う。」ことを到達目標として、時事問題、文化、科学などの身近なトピックの英文を読み、現代社会が直面している問題を知る。また、読むスピードを高め、語彙を増やし、行間を読む力・要約の力をつける。	
			英語２	講義形式で行う。学生に順次発表・回答もさせる。英語１における学習内容を基礎として展開する。「英語のパラグラフ構成を理解し、英語の論理構成を学ぶ」、「トピックセンテンスを探して、各パラグラフのメインアイディアを捉える力を養う。」「英文の内容を理解し、正確な日本語に訳す力を養う。」ことを到達目標として、時事問題、文化、科学などの身近なトピックの英文を読み、現代社会が直面している問題を知る。また、読むスピードを高め、語彙を増やし、行間を読む力・要約の力をつける。	
			英語３	講義形式で行う。学生に順次発表・回答もさせる。「スキャニング力（本文にすばやく目を通しながら全体を把握する力）を養う。」「スキミング力（文章の概要を押さえながら読む力）を養う。」「翻訳力（読んだ内容を正確な日本語に訳す力）を養う。」ことを到達目標として、芸術、環境問題等、世界的な視野で捉えた英文を読み、理解し、翻訳する。豊富な確認問題で確認を深め、読みのテクニックを身に付ける。	
			英語４	講義形式で行う。学生に順次発表・回答もさせる。「スキャニング力（本文にすばやく目を通しながら全体を把握する力）を養う。」「スキミング力（文章の概要を押さえながら読む力）を養う。」「翻訳力（読んだ内容を正確な日本語に訳す力）を養う。」ことを到達目標として、芸術、環境問題等、世界的な視野で捉えた英文を読み、理解し、翻訳する。豊富な確認問題で確認を深め、読みのテクニックを身に付ける。	
			基礎国語Ａ	講義形式で行う。学生に順次発表・回答させる双方向型授業とする。大学で日本古典文学や古文で書かれた史料を読んでいく際に必要となる基礎知識を学ぶ。テキストには、名作・名場面・秀歌等を使用し、基礎的知識（語彙・語法・古典常識）を無理なく段階的に学んでいく。古文が苦手であっても、基礎力を高めるために、練習問題を繰り返し行うので実力がつく。また、古語辞典をはじめとして、各種辞典・事典の基本的な活用法も学ぶ。	
			基礎国語Ｂ	講義形式で行う。学生に順次発表・回答させる双方向型授業とする。現代日本語の文章の読解法を学び、文章表現方法を身に付けるために、①文章を能動的に読む、②語彙力を増やすために積極的に辞書を活用し文章を書く、③漢字や語彙の問題演習などを通じて文章表現力を高める。以上の三点を重視して行う。	
			基礎数学Ⅰ	講義形式で行う。算数・数学における各領域「数と計算・量と測定・図形・数量関係・資料の活用・データの分析」を総合的に確認し、基礎的・基本的な知識・技能の習得および思考力・判断力・表現力等の基礎力の土台を強固なものにするとともに実践で役に立つ知識を習得する。基礎数学Ⅰでは、初歩的な計算の工夫を通して、計算力を養い状況判断力や判断力を身に付けていく。また、日常生活で使われている比率や割合の計算をイメージできるようにし、さらには身近な金銭問題を取り上げ、金銭感覚を養う。	
			基礎数学Ⅱ	講義形式で行う。算数・数学における各領域「数と計算・量と測定・図形・数量関係・資料の活用・データの分析」を総合的に確認し、基礎的・基本的な知識・技能の習得および思考力・判断力・表現力等の基礎力の土台を強固なものにするとともに実践で役に立つ知識を習得する。基礎的な数的推理・判断推理や命題・論証などを通して論理的な思考力を再構築していく。社会のあらゆる場面で出てくる図や表の読み取りなどができるようにする。さらに集合や場合の数・確率などの演習を通して、予知・予測などを考えるきっかけとする。	
			基礎数学Ⅲ	講義形式で行う。算数・数学における各領域「数と計算・量と測定・図形・数量関係・資料の活用・データの分析」を総合的に確認し、基礎的・基本的な知識・技能の習得および思考力・判断力・表現力等の基礎力の土台を強固なものにするとともに実践で役に立つ知識を習得する。基礎数学Ⅲでは、Ⅰで身に付けてきた基本的な事項を土台として、同じ項目内容でより応用的・実践的問題に取り組んでいく。	

第Ⅰ類科目	学びの技法	基礎科目	基礎数学Ⅳ	講義形式で行う。算数・数学における各領域「数と計算・量と測定・図形・数量関係・資料の活用・データの分析」を総合的に確認し、基礎的・基本的な知識・技能の習得および思考力・判断力・表現力等の基礎力の土台を強固なものにするとともに実践で役に立つ知識を習得する。基礎数学Ⅳでは、Ⅱで身に付けてきた基本的な事項を土台として、同じ項目内容でより応用的・実践的問題に取り組んでいく。	
			基礎社会Ⅰ	講義形式で行う。日本政治や国際政治に関する基本的な知識を身に付け、政治に関する社会事象を認識できる力を養う。授業は、大きく三つの柱から構成される。第一は、講師による問題提示と解説である。受講生は、ここで基本的な知識を身に付ける。第二は、関連する新聞記事や文献を読み、学習内容を深めることである。第三は、学習に関わる主要な論点を取り上げ、受講生の意見交換を行うことである。これらの学習プロセスを通して、政治に関する基本的な理解と考察を深めていく。	
			基礎社会Ⅱ	講義形式で行う。日本経済や国際経済に関する基本的な知識を身に付け、経済に関する社会事象を認識できる力を養う。授業は、大きく三つの柱から構成される。第一は、講師による問題提示と解説である。受講生は、ここで基本的な知識を身に付ける。第二は、関連する新聞記事や文献を読み、学習内容を深めることである。第三は、学習に関わる主要な論点を取り上げ、受講生の意見交換を行うことである。これらの学習プロセスを通して、経済に関する基本的な理解と考察を深めていく予定である。	
			基礎社会Ⅲ	講義形式で行う。毎時間、新聞の時事ワークシートをもとに、演習と講師による解説を行う。おもに政治や経済に関する時事ニュースを取り上げる。演習や解説を通してニュースの背景や知識を理解するとともに、社会への関心を広げていく。時間があれば、他紙との比較やニュース記事の分析をするほか、テレビニュースなどを視聴する機会を設ける。受講生には、新聞記事に対して意見を述べ、話し合うなどの学習機会を提供する。	
			基礎社会Ⅳ	講義形式で行う。毎時間、新聞の時事ワークシートをもとに、演習と講師による解説を行う。政治・経済だけでなく、さまざまなジャンルのニュースを取り上げ、社会事象について広く理解できるように取り組んでみたい。演習や解説を通してニュースの背景や知識を理解するとともに、社会への関心を広げていく。多読や精読など、多様な学習の機会を設けるとともに、時事用語に関わる語彙力のチェックなどにも積極的に取り組む。	

第Ⅰ類科目	学びの技法	展開科目	情報処理Ａ－１（ワード）	講義形式で行う。演習形式で、学生が実際に操作する。テーマはＰＣによる文書作成の基礎で、「ワープロソフトの基本機能と操作方法を身に付ける。」ことを到達目標として、パソコンを使って、レポート・論文等を作成するために必要な知識、技術を学ぶ。授業では、文書の作成、表の作成、図形の活用、長文作成時の便利な機能等を学び、演習問題や習熟度チェックを通じてスキルの向上を目指す。	
			情報処理Ａ－２（ワード）	講義形式で行う。「Microsoft Wordの上級クラスとして、様々な書式や図形を有効に使った応用的な文書の作成ができる。」ことを到達目標とする。アウトラインやスタイルなどの長文作成支援、コメントの挿入や変更履歴などの校閲機能、差し込み印刷などの実務的な機能を身に付ける。図形や図表を使った文書の作成、写真を使った文書の作成、差し込み印刷、長文の作成、文書の校閲と配布準備等を学び、習熟度チェックを通じてスキルの向上を目指す。	
			情報処理Ｂ－１（エクセル）	講義形式で行う。演習形式で学生が実際に操作する。「表計算ソフトの基本機能と操作方法を身に付ける。」ことを到達目標とする。表計算ソフト(Microsoft Excel）の基本的な仕組みと特徴（計算・グラフ・データベース等）を紹介しながら、情報の整理・加工方法などの基本的な操作方法を学ぶ。データの入力、表の作成、数式の入力、表の印刷、複数シートの操作、グラフの作成、関数の利用等を学び、習熟度チェックを通じてスキルの向上を目指す。	
			情報処理Ｂ－２（エクセル）	講義形式で行う。演習形式で学生が実際に操作する。「実践的な表計算ソフトの使用方法を身に付ける。「自分が使うだけでなく、人に使ってもらう意識を持つ。」ことを到達目標として、表計算ソフト（Microsoft Excel）を用いて、さまざまなデータ処理方法等を学ぶ。データの入力、さまざまな関数の利用、テンプレートの作成、グラフィックの活用、ピボットテーブル、複数ブックの操作等を学び、習熟度チェックを通じてスキルの向上を目指す。	
			情報処理Ｃ（プレゼンテーション）	講義形式で行う。学生にも順次発表・回答させる。「プレゼンテーションのための有効な資料作成方法を身に付ける。」ことを到達目標とする。第三者に対して何かを説明し理解を深めてもらうという場合、口頭だけの説明ではなかなか理解は得られないものである。この授業では Microsoft PowerPoint を使って、説得力のある視覚に訴えるプレゼンテーションの作成方法を学ぶ。	
			情報処理Ｄ（データベース）	講義形式で行う。「リレーショナルデータベースの基本的な考え方を理解し、データの抽出、加工、集計法を身に付ける。」ことを到達目標とする。私たちは膨大な情報量の中で生活している。多種多様な情報の中から自分に必要な情報を選んでいるが、頭の中で処理するのは限界がある。この授業ではリレーショナルデータベースを用いて、データの入れ物の作り方から、効率的なデータ抽出、加工、集計等を行う。	

第Ⅰ類科目	学びの技法	展開科目	応用英語１	講義形式で行う。学生にも順次発表・回答させる。テーマは「TOEICで英語運用能力を高める」。「語彙力やリスニング力、文法力、読解力を伸ばしTOEICのスコアアップをはかる。」「テーマごとに頻出の関連語彙、イディオムを問題練習などを通して確実に習得する。」ことを到達目標とする。２回の授業で１ユニットを学習する。リスニングとリーディングの全パートを学ぶ。学生に対しては、授業への積極的参加、発言を望む。	
			応用英語２	講義形式で行う。学生にも順次発表・回答させる。テーマは「TOEICで英語運用能力を高める」。「語彙力やリスニング力、文法力、読解力を伸ばしTOEICのスコアアップをはかる。」「テーマごとに頻出の関連語彙、イディオムを問題練習などを通して確実に習得できる。」を到達目標とする。２回の授業で１ユニットを学習する。リスニングとリーディングの全パートを学ぶ。学生に対しては、授業への積極的参加、発言を望む。	
			世界の言語（中国語）１	講義形式で行う。学生にも順次発表・回答させる。「中国語で日常の簡単な会話ができる。」を到達目標として、中国語の初学者を対象に、「読む、聞く、話す、書く」という語学の四技能をバランスよく学ぶ。発音の習得を第一の目標に掲げ、繰り返しの発音練習や聞き取りなどにより、正確な発音を学び、それを定着させる。また、現在中国で使用されている漢字（簡体字）やその発音を表記するローマ字（ピンイン）も重要な学習項目である。	
			世界の言語（中国語）２	講義形式で行う。学生にも順次発表・回答させる。「中国語の様々な言い回しを学ぶことによって異文化を知ることができる。」を到達目標として、中国語の初学者を対象に、「読む、聞く、話す、書く」という語学の四技能をバランスよく学ぶ。春学期に習得した発音を定着させるため、繰り返しの発音練習や聞き取りなどを行う。基礎的な文型を理解することが重要な学習項目となるが、そのためには日本語と中国語の発想の違いなどに気づくことが大切である。それはまた翻って日本の文化を見直すことにもなる。	
			世界の言語（中国語）３	講義形式で行う。学生にも順次発表・回答させる。「中国語の基礎的な知識と能力をバランスよく養うことができる。」を到達目標として、中国語の基礎を学んだ者を対象に、「読む、聞く、話す、書く」という語学の四技能をバランスよく学ぶ。正確な発音の定着のためには、繰り返しの発音練習や聞き取りなどが必要である。これまでに学んだ基礎的な知識をより確かなものにしていくことが重要である。そのためには引き続き日本語と中国語の発想の違いなどに留意していくことが大切である。	
			世界の言語（中国語）４	講義形式で行う。学生にも順次発表・回答させる。「中国語の基礎的知識に基づき、簡単な会話ができ、簡単な文章が読めるようになる。」を到達目標として、中国語の基礎を学んだ者を対象に、「読む、聞く、話す、書く」という語学の四技能をバランスよく学ぶ。正確な発音の定着のためには、繰り返しの発音練習や聞き取りなどが必要である。これまでに学んだ基礎的な知識をより確かなものにしていくと同時に、更に実践的な運用を目指す準備期間でもある。日本語と中国語の発想の違いなどに留意して学習していく。	
			世界の言語（フランス語）１	講義形式で行う。できるだけテキストの文章を見ないで、音と耳を頼りにしてフランス語会話を勉強していく。学生同士、又は、教師と学生との相互の会話が授業の中心となる。「身の周りの日常の会話が、スラスラとできるようになることを目指す。」を到達目標として、フランス語の簡単な日常会話ができるように、会話を中心に勉強する。会話を修得するに際し最も大切なのは、耳を信頼すること。このクラスでは、テキストの文字を見ないで、耳だけに頼って、会話を覚えることを目指す。	
			世界の言語（フランス語）２	講義形式で行う。テキストに頼らずに、フランス語を音と耳を頼りにして勉強していく。学生同士、又は、教師と学生との相互の会話を中心に授業を進める。「身の周りの日常の会話が、スラスラとできるようになることを目指す。」を到達目標として、フランス語の簡単な日常会話ができるように、会話を中心に勉強する。会話を修得するに際し最も大切なのは、耳を信頼すること。このクラスでは、テキストの文字を見ないで、耳だけに頼って、会話を覚えることを目指す。	
			世界の言語（フランス語）３	講義形式で行う。できるだけテキストの文章を見ないで、音と耳を頼りにしてフランス語会話を勉強していく。学生同士、又は、教師と学生との相互の会話が授業の中心となる。「身の周りの日常の会話が、スラスラとできるようになることを目指す。」を到達目標として、フランス語の簡単な日常会話ができるように、会話を中心に勉強する。会話を修得するに際し最も大切なのは、耳を信頼すること。このクラスでは、テキストの文字を見ないで、耳だけに頼って、会話を覚えることを目指す。	

第Ⅰ類科目	学びの技法	展開科目	世界の言語（フランス語）4	講義形式で行う。テキストの文章に頼らずに、フランス語を音と耳を頼りにして勉強していく。学生同士、又は、教師と学生との相互の会話を中心に授業を進める。「さまざまな日常会話が、それほど困難なくできるようになることを目指す。」を到達目標として、フランス語の簡単な日常会話ができるように、会話を中心に勉強する。いろいろなケースに応用できる力を養うようにする。	
			世界の言語（ドイツ語）1	講義形式で行う。「ドイツ語の文法の基礎レベル（人称代名詞・疑問代名詞まで）を理解できる。」を到達目標とする。初心者向けの授業ではあるが、知識人としてドイツ語の文献（主として文学と哲学）を読める学生を育てる。先ずはドイツ語を読解できるようになるため、基礎文法をアルファベットと発音から、古来のラテン語の学習に基づくオーソドックスなやり方でしっかり学ぶ。それを通してドイツ語の世界観とドイツ語圏の人の思考を知る。	
			世界の言語（ドイツ語）2	講義形式で行う。「ドイツ語の文法の基礎レベル（接続法まで）を理解できる。」「ドイツでの語学研修ができる。」を到達目標とする。知識人としてドイツ語の文献（主として文学と哲学）を読める学生を育てる。先ずは春学期の授業の復習をし、続いて基礎文法を古来のラテン語の学習に基づくオーソドックスなやり方でしっかり学ぶ。それを通してドイツ語の世界観とドイツ語圏の人の思考を知る。	
			世界の言語（ドイツ語）3	講義形式で行う。「独文和訳の基礎が理解できる。」を到達目標として、ドイツの絵本を和訳する。知識人としてドイツ語の文献（主として文学と哲学）を読める学生を育てる。一年で学んだドイツ語を復習しながら、グループでドイツ絵本の日本語訳を試みて、学生一人ひとりの読解力を高める。名作絵本に接することを通して地方と時代によって異なるドイツ語圏の国々の文化も知る。	
			世界の言語（ドイツ語）4	講義形式で行う。「独文和訳のコツを覚えている。」「ドイツでの語学研修ができる。」を到達目標として、ドイツの絵本を和訳する。知識人としてドイツ語の文献（主として文学と哲学）を読める学生を育てる。一年で学んだドイツ語を復習しながら、グループでドイツ絵本の日本語訳を試みて、学生一人ひとりの読解力を高める。名作絵本を通して地方と時代によって異なるドイツ語圏の国々の文化も知る。	
			世界の言語（韓国語）1	講義形式で行う。受講生には講義内容に沿った練習を、主に口頭でたくさん行ってもらう形で進める。「韓国語の文字の読み書きができるようにし、主な「てにをは」類を始め、＜～です（か）＞とその尊敬形＜～でいらっしゃいます（か）＞、＜あります・います（ありません・いません）＞とその尊敬形について学び、使い方に習熟することができる。」を到達目標として、韓国語についての概略的な知識を得た後、文字と発音、語彙と文法の基礎を学ぶ。	
			世界の言語（韓国語）2	講義形式で行う。「ある・ない」、「いる・いない」の尊敬表現を始め、ものや場所を表す一連の＜こそあど言葉＞とそれらに「てにをは」類が組み合わさった形や、さまざまな疑問詞なども一通り習得する。また、「～ではありません」、「～ではなくて～」といった否定の表現や、「～ですが～」といった逆接の表現についても学ぶ。」を到達目標として、韓国語の語彙と文法をさらに広げて習得し、読解のための基礎を確かなものにする。	
			世界の言語（韓国語）3	講義形式で行う。「用言の活用の基本を学ぶ。進んで、母音語幹、子音語幹、ㄹ（リウル）語幹、하다（ハダ）用言などの、＜尊敬形＞と＜非尊敬形＞を、２通りの丁寧な言い方、つまり「합니다（ハムニダ）体」と「해요（ヘヨ）体」で習得、習熟することができる。さらに、用言の否定形や不可能形をも学習できる。」を到達目標として、韓国語の語彙と文法をさらに広げて習得し、読解のための基礎を一層深めつつ確かなものにする。	
			世界の言語（韓国語）4	講義形式で行う。「変格活用も含めて、用言の活用の型を一通り習得することができる。また、さまざまな過去形を学び、過去形を容易に作ることができるようになる。さらに、形容詞や指定詞を中心に、用言の連体形の一部まで学ぶことができる。」を到達目標として、韓国語の読解の基礎をより充実させ、実際に短い文章の読解を試みる。韓国語の語彙と文法をさらに広げて習得し、読解のための基礎を一層深めつつ確かなものにする。	

第Ⅰ類科目	学びの技法	展開科目	世界の言語（スペイン語）1	講義形式で行う。「スペイン語の正しい発音を身に付けながら、スペイン語で書かれた文を正しく読むことを習得する。」を到達目標とする。このクラスを履修する学生は、数人ずつのグループに分かれて発表を行う。グループごとにスペイン語圏のいずれかの国について調べ、パワーポイントを用いた発表をする。発表に対しては成績評価の20%を割り当てる。テキストを読んで基本的事項を学ぶのに加えて、カードを使ったゲーム等を通してより実践的な形でスペイン語を学んでいく。	
			世界の言語（スペイン語）2	講義形式で行う。「前段階で学習した基本文法を活用して、さらに一歩進んだコミュニケーションができるようにする。」を到達目標とする。テキストを読んで基本的事項を学ぶのに加えて、ゲーム等を用いてより実践的な形でスペイン語を学んでいく。また、ミニテストを通じて各人の習得の度合いを確認しながら授業を進めていく。	
			世界の言語（スペイン語）3	講義形式で行う。「基本文法を活用して、さらに一歩進んだコミュニケーションができるようにゲーム等でスペイン語でのやりとりを実践していく。文法面では不規則動詞の活用を中心にしながら、動詞句の用法等を学んでいく。また、ビデオや話を通じて、スペイン語圏の国々の文化についてもさらに知識を広げる。」を到達目標とする。テキストを読んで基本的事項を学ぶのに加えて、ゲーム等を用いてより実践的な形でスペイン語を学んでいく。	
			世界の言語（スペイン語）4	講義形式で行う。「一歩進んだコミュニケーションができるようにゲーム等でスペイン語でのやりとりを実践していく。文法面では不規則動詞の活用を中心にしながら、動詞句の用法等を学んでいく。また、ビデオや話を通じて、スペイン語圏の国々の文化についてもさらに知識を広げる。」を到達目標とする。基本文法を用いながら、実践的にスペイン語を使う練習を重ねてゆく。また文法面のレベルアップもはかり、中級の文法をとりあげていく。	
			世界の言語（ヒンディ語）1	講義形式で行う。また、影像記録を使って、インド文化の生きた姿に触れて、それについて討論を行いインド文化理解の知識を身に付けてもらう第一歩とする。テーマは「インド文化への招待と現代ヒンディー語入門」。「現代インドの文化的多様性と言語のあり方を理解できる。」「ヒンディー語の枠組みを理解できる。」を到達目標として、現代インドの文化的諸相と現代ヒンディー語の入門として学ぶ。	
			世界の言語（ヒンディ語）2	講義形式で行う。また、影像記録を使って、インド文化の生きた姿に触れて、それについて討論を行いインド文化理解を深めてもらう。テーマは「現代ヒンディー語初級文法の学習の継続」。初習の語学は、教員の説明を聞いて継続と反復練習しか修得の道はない。したがって特別の事情がない限り授業に毎回出席し積極的に参加するのは当然である。「ヒンディー語の平易な単文を作文できる。」「インド文化理解を深められる。」を到達目標として、インド文化理解へのステップとする。	
			世界の言語（ヒンディ語）3	講義形式で行う。影像記録を使って、ヒンドゥー教の生きた姿に触れて、それについて討論を行いインド文化理解を深めてもらう。 テーマは「現代ヒンディー語中級文法の学習」。初習の語学は、教員の説明を聞いて継続と反復練習しか修得の道はない。そこで、「平易な単文で会話・作文ができる。」「ヒンディー語のより自然な表現方法に慣れるようにする。」「ヒンドゥー教の概要を理解できる。」を到達目標として、インド文化の理解を行う。	
			世界の言語（ヒンディ語）4	講義形式で行う。影像記録を使って、ヒンドゥー教の生きた姿に触れて、それについて討論を行いインド文化理解を深めてもらう。 テーマは「現代ヒンディー語上級文法の学習」。初習の語学は、教員の説明を聞いて継続と反復練習しか修得の道はない。そこで「平易な単文で会話・作文ができる。」「ヒンディー語のより自然な表現方法に慣れるようにする。」「ヒンドゥー教の思想の概要を理解できる。」を到達目標として、インド文化を理解する。	

第Ⅰ類科目	学びの技法	展開科目	英会話Ⅰ	講義形式で行う。学生にも順次発表・回答させる。テーマは「英語運用能力（主にリスニングとスピーキング）の習得と異文化を理解する力の養成」。「英語による、自己表現力を養成する。」「TOEIC 345点、TOEIC Bridge 130点を目指す。」を到達目標として、コミュニケーションのための、四技能運用語としての英語力の習得を目指す。また、段階別に、リスニング力とスピーキング力を養成する。	
			英会話Ⅱ	講義形式で行う。学生にも順次発表・回答させる。テーマは「英語運用能力（主にリスニングとスピーキング）の習得と異文化を理解する力の養成」。「英語による、自己表現力を養成する。」「TOEIC 370点、TOEIC Bridge 135点を目指す。」を到達目標として、コミュニケーションのための、四技能運用語としての英語力の習得を目指す。また、段階別に、リスニング力とスピーキング力を養成する。	
			英会話Ⅲ	講義形式で行う。学生にも順次発表・回答させる。テーマは「英語運用能力（主にリスニングとスピーキング）の習得と異文化を理解する力の養成」。「英語による、自己表現力を養成する。」「TOEIC 520点、TOEIC Bridge 155点を目指す。」を到達目標として、コミュニケーションのための、四技能運用語としての英語力の習得を目指す。また、段階別に、リスニング力とスピーキング力を養成する。	
			英会話Ⅳ	講義形式で行う。学生にも順次発表・回答させる。テーマは「英語運用能力（主にリスニングとスピーキング）の習得と異文化を理解する力の養成」。「英語による、自己表現力を養成する。」「TOEIC 570点、TOEIC Bridge 160点を目指す。」を到達目標として、コミュニケーションのための、四技能運用語としての英語力の習得を目指す。また、段階別に、リスニング力とスピーキング力を養成する。	
			中国語会話Ⅰ	講義形式で行う。学生にも順次発表・回答させる。「中国語を即戦力として使うことのできる能力の基礎を作ることができる。」「中国語検定準四級合格程度の力を養うことができる。」を到達目標として、語学の「読む・聞く・話す・書く」の四技能のうち、特に「聞く・話す」に重点を置いて訓練する。簡単な日常会話を学びながら、文法方面の知識も増やしていく。また、会話をスムーズに行うために必要な中国の習慣や風習などについても知識を深めていく。	
			中国語会話Ⅱ	講義形式で行う。学生にも順次発表・回答させる。「中国語を即戦力として使うことのできる能力を養うことができる。」「簡単な中国語で自分の意志を相手に伝えることができる。」を到達目標として、語学の「読む・聞く・話す・書く」の四技能のうち、特に「聞く・話す」に重点を置いて訓練する。会話をスムーズに行うために必要な中国の習慣や風習などについても知識を深め、中国語によって良好なコミュニケーションが取れるように訓練していく。	
			ドイツ語会話Ⅰ	講義形式で行う。テーマは「ドイツ語によるコミュニケーションのための基礎力を養う」。「ドイツ語で挨拶や自己紹介をし、相手の職業や家族について聞けるようになる。」「部屋の中や街中にあるもの、時刻や行き先について会話できるようになる。」を到達目標として、ドイツ語の基礎文法を学びながら、ドイツ語によるコミュニケーションの基礎力を身に付ける。	
			ドイツ語会話Ⅱ	講義形式で行う。テーマは「ドイツ語の応用的・実践的な会話力を身に付ける」。「ドイツでの日常生活（自己紹介、レストランやカフェ、買い物）で用いる会話がドイツ語でできるようになる。」を到達目標とする。文法を確認し、語彙を増やしながら、様々な場面に応じた応用的・実践的なコミュニケーション力を身に付ける。授業を通じて、日常的な会話をドイツ語で話せるようになることを目指していく。	

第Ⅰ類科目	学びの技法	展開科目	文章技法Ａ	講義形式で行う。グループディスカッション・グループワークなども積極的に授業に取り入れていく。「大学生として必要なアカデミック・ライティングスキルを身に付ける。」を到達目標とする。言語教育においては「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能がバランスよく伸びていくことが理想とされている。この科目では、「書く」ことに重点をおきつつ、そのために必要とされる「読む」こと、「聞く」ことの育成も意識していく。	
			文章技法Ｂ	講義形式で行う。学生にも順次発表・回答させる。「日本漢字能力検定に出題される各領域での漢字技能を磨き、検定の合格基準である80％の正答を導く漢字力が養成できる。」を到達目標とする。近年、文字を手書きする機会は減少したものの、漢字力は依然として社会生活を送るうえで不可欠である。現に多くの企業が確かな漢字力を求めており、「漢字検定」の取得は就職の際にも有利となっている。本科目では、常用漢字を幅広く適切に使いこなす漢字力の習得を目的とする。	
			技法Ａ（論理力）	講義形式で行う。双方向型授業を重視して全員が発言するディベートを行う。「資料などから主張を論理的に組み立て、的確な表現で話すことができる。」「相手方の主張に理詰めの反論をすることができる。」「情緒から切り離した論理的思考を身に付ける。」を到達目標とする。テーマを決め、賛成論を用意して発表するグループ、それに対し反論をするグループ、討議結果を判定するグループに分かれ、説得力を競いながら論理力を身に付ける。	
			技法Ｂ（自己アピール）	講義形式で行う。「自己アピールの出発点である「自分自身を正しく認識」することができる。」「自己アピールの際の基本として「数字」や「落差」が現出させる表現技法を知る。」「受講者の任意だが、希望者は個人で申請し、「ビジネス電話検定・知識B級」または「A級」を受け、就職資格の取得ができる。」を到達目標とする。本授業ではやがて直面する場面を想定しつつ、自己アピールに関する基礎知識を学ぶ。授業での学びを活用し、その場にふさわしい自己アピールを実習する。	
	留学生科目		日本語研究Ａ	講義形式で行う。テーマは「総合的な日本語能力の向上」。「初級の文法事項を完全に身に付ける。」「長文をできるだけ短時間で読む。」「中～上級レベルの談話表現を知り、使いこなす。」「自然な会話表現ができるようになる。」「約5,000語の語彙力をつける。」「アカデミックジャパニーズで求められる論理的な文章を書けるようになる。」を到達目標として、使用テキストに基づき、四技能（話す・読む・聞く・書く）の訓練を行う。「日本語研究Ａ～Ｅ」はセットでの履修である。	
			日本語研究Ｂ	講義形式で行う。テーマは「総合的な日本語能力の向上」。「初級の文法事項を完全に身に付ける。」「長文をできるだけ短時間で読む。」「中～上級レベルの談話表現を知り、使いこなす。」「自然な会話表現ができるようになる。」「約5,000語の語彙力をつける。」「アカデミックジャパニーズで求められる論理的な文章を書けるようになる。」を到達目標として、使用テキストに基づき、四技能（話す・読む・聞く・書く）の訓練を行う。「日本語研究Ａ～Ｅ」はセットでの履修である。	
			日本語研究Ｃ	講義形式で行う。テーマは「総合的な日本語能力の向上」。「初級の文法事項を完全に身に付ける。」「長文をできるだけ短時間で読む。」「中～上級レベルの談話表現を知り、使いこなす。」「自然な会話表現ができるようになる。」「約5,000語の語彙力をつける。」「アカデミックジャパニーズで求められる論理的な文章を書けるようになる。」を到達目標として、使用テキストに基づき、四技能（話す・読む・聞く・書く）の訓練を行う。「日本語研究Ａ～Ｅ」はセットでの履修である。	
			日本語研究Ｄ	講義形式で行う。テーマは「総合的な日本語能力の向上」。「初級の文法事項を完全に身に付ける。」「長文をできるだけ短時間で読む。」「中～上級レベルの談話表現を知り、使いこなす。」「自然な会話表現ができるようになる。」「約5,000語の語彙力をつける。」「アカデミックジャパニーズで求められる論理的な文章を書けるようになる。」を到達目標として、使用テキストに基づき、四技能（話す・読む・聞く・書く）の訓練を行う。「日本語研究Ａ～Ｅ」はセットでの履修である。	

第Ⅰ類科目	留学生科目	日本語研究Ｅ	講義形式で行う。テーマは「総合的な日本語能力の向上」。「初級の文法事項を完全に身に付ける。」「長文をできるだけ短時間で読む。」「中～上級レベルの談話表現を知り、使いこなす。」「自然な会話表現ができるようになる。」「約5,000語の語彙力をつける。」「アカデミックジャパニーズで求められる論理的な文章を書けるようになる。」を到達目標として、使用テキストに基づき、四技能（話す・読む・聞く・書く）の訓練を行う。「日本語研究Ａ～Ｅ」はセットでの履修である。	
		日本語研究Ｆ	講義形式で行う。与えられた問題の解決、課題達成を目指す。テーマは「日本語の口頭表現能力養成」。授業開講時の学生個人の能力によって幅があるが、「日本語の中級～超級の会話能力獲得」を到達目標とする。日常の会話表現力向上はもとより、社会人として必要な敬語の知識、異文化理解に基づいた待遇表現の整理、日本語の論理に基づいた話し方等が身に付くように授業を行う。	
		日本語研究Ｇ	講義形式で行う。「その場にふさわしい気持ちや微妙なニュアンスを伝えるための文法事項を自ら選択し、それを使うことができる。」「類似表現の使い分けができる。」を到達目標とする。新聞記事を中心にエッセイ、意見文などの生の文章を教材として、その中にある文法事項を抜き出し、形と意味・用法を確認していく。その後それらを使えるように練習し、運用力をつけていく。また、微妙な表現を使い分けられるように、類似表現の習得を目指す。	
		日本語研究Ｈ	講義形式で行う。テーマは「時事日本語」。「時事的な文章表現に慣れる。」「現代社会一般に関する理解が深まる。」を到達目標として、現代の日本社会が抱えている種々の問題を取り上げた短い文章を読む。聴解・読解を中心に、学部・大学院レベルの日本語を総合的に身に付けることを目標とする。担当者作成教材をテキストとして使用して、政治、経済・経営、社会問題、文化を学習する。	
		日本語研究Ｉ	講義形式で行う。ペアワークやグループワークなども取り入れる。各自で作文実作に取り組む。作文を教師が添削し、フィードバックを全体で行う。「自分の表現したいことを語彙・文型・構成を考慮しながら書き表すことができる。」を到達目標とする。モデル文の読解・分析（構成や文型の確認など）を行い、次に、書くための準備（マッピング・フローチャートなど）を進め、その後作文を書く。書きあがった作文は教師が添削をする。必要があれば書き直しをし、最後に発表を行う。	
		日本文化研修	講義形式で行う。日本語授業、日本文化研修に加え、仏教系大学としての特色を活かした仏教研修道場等を体験する。日本語授業においては、総合日本語、日本語会話に関する講義を集中的に実施するほか、書道体験等も行う。これらの授業や体験を通じて、日本語の語学力向上だけではなく出身国との文化の違いを感じ取り、受講生一人ひとりが日本の文化を広く理解することを到達目標とする。	

第Ⅱ類科目	学部共通部門	基礎科目	心理社会研究入門	講義形式で行う。入門的な科目として心理社会学部の研究への基礎的な理解を得ることを目標とする。いじめ、虐待、不登校、うつ病、失業、貧困、老々介護といった現代社会の身近な問題を取り上げ、個人の心理や家族の力動に焦点をあてながら、事例研究や量的・質的研究のアプローチについて学ぶ。また、エリクソンなどの心理社会的な視点からの事例研究、大学生の社会心理に関する調査の紹介、詩歌・音楽などの文化表象の時代背景などの心理社会的な視点からの分析、ボランティア活動と各国の文化、などの講義を行う。	
			社会学の基礎Ａ	講義形式で行う。「社会学の基本的な考え方である「制度論」を学習することで、自身の身近な出来事をより深く理解することができる。」「「リアリティ」が社会的に構成される側面を学習することで、自身の視野を大きく拡げることができる。」を目標とする。「社会学」の基本的な考え方や発想を理解することを目的に、文化や世界・言語などの分析を手がかりに「制度論」を概観する。社会のメンバーシップを獲得していく過程として「社会化」を理解する。地域社会や学校などの「リアリティ」が社会的に構成されることを理解する。	
			社会学の基礎Ｂ	講義形式で行う。「子供・家族・学校などの「リアリティ」が社会的に構成される側面を学習することで、自身の視野を相対化し、大きく拡げることができる。」「「ジェンダー」という視点を理解することで、身近な出来事を異なった角度から把握することができる。」を目標とし、社会的に構成されたリアリティの多層性あるいは多元性を「多元的なリアリティ論」として把握する。「近代における〈子供の誕生〉」の議論をはじめとした具体的な問題群を、近代家族論、学校＝教育の誕生論、宗教の世俗化論、社会的逸脱行動論、ジェンダー論などとして論じる。	
			心理学の基礎Ａ	講義形式で、主に教員が講義する。「先入観を排除し、根拠を呈示しながら論理的に判断することができる。」「科学としての心理学がどのようなものか説明できる。」「心理学の基礎的な研究が、応用的分野や日常生活の中でどのように貢献しているのか具体的に考えることができる。」等を目標とする。本講義では、現代の心理学（主に基礎的な領域）について学んでいくことを目的とする。知覚・認知・学習の領域が現代社会の日常や病理とどのように関連しているのか考えていく。	
			心理学の基礎Ｂ	講義形式で、主に教員が講義する。「先入観を排除し、根拠を呈示しながら論理的に判断することができる。」「科学としての心理学がどのようなものか説明できる。」「心理学の基礎的な研究が、応用的分野や日常生活の中でどのように貢献しているのか具体的に考えることができる。」等を目標とする。本講義では、心理学の基礎Ａで学んだ心理学の基礎的な領域を踏まえて、発達・社会・臨床という社会的な関係性を中心とした領域について学んでいく。	
			社会調査法Ａ	講義形式で行う。テーマは「社会調査の基礎を学ぶ」。「社会調査の基本的事項を正しく理解し、調査の基礎的な技法を身に付けている。」「多様な情報源に基づくデータを使って、量的・質的両面から、社会調査の基礎的な技法を用いて分析できる。」「統計情報や文章資料を正確に読み解くことで、背後にある問題を発見し、その解決に必要な情報を多角的に分析できる。」を到達目標とする。社会調査に関する基礎的な知識の習得を通じて、社会調査の考え方や心構えなどを身に付けることを目的とする。	
			心理学研究法Ａ	講義形式で行う。テーマは「臨床心理学における基本的な研究方法を概観する」。「心理学研究法の基礎として、統計手法による数量データの処理ができるようになる。」「心理学的測定の基本である統計学的な問題分析の意味が理解できる。」「適切な情報収集の方法を理解できる。」を到達目標とする。心理学における基本的な研究方法のうち、臨床心理学分野に特に重要な心理統計法、調査研究法の基礎的な方法論について学ぶ。	

第Ⅱ類科目	学部共通部門	現代心理社会科目	パーソナリティ心理学	講義形式で行う。学生の理解を促すため、授業内容に関するフィードバックを適宜求める。テーマは「パーソナリティ心理学の諸理論を学び、性格についての理解を深める」。人間のパーソナリティに関する知識を習得し、性格に関する多面的な視点を持つことができるようになる。また、自分自身や周囲の人についても深く理解できるようになることを目指す。この講義では、パーソナリティ心理学の基本的な諸理論を学び、性格に関する多面的な理解を持つことで、自分自身の性格についての気づきを深める。	
			青年期とアイデンティティ	講義形式で行う。テーマは「自分も含めた青年期とアイデンティティ形成について多角的に理解する」。「人間発達に関する専門的知識を習得し、私たちが生活する社会の形成を可能とする心の仕組みについて理解する。」「人間の営みに関心を抱き、深く洞察することで発見した生活に関する諸問題について、人間科学の観点から分析するために必要な、総合的知識を有することができる。」を目標とする。さまざまな時代、そして現在自分が生きている社会における、青年期とアイデンティティについて考えていく。	
			非行犯罪臨床心理学	講義形式で行う。テーマは「非行犯罪心理学を学び、臨床心理学的援助の道を探る」。「自分なりの非行、犯罪観を持ち、的確に述べることができる。」を到達目標とする。非行、犯罪は、もとより心理学だけで捉えられるものではなく、社会、経済、文化的要因や生物学的要因までを含む多面的現象である。こうした視点に立って、わが国の非行の現状を把握するとともに、非行を理解するための理論的枠組みを学習する。その上で、臨床心理学的援助活動の可能性について学ぶ。	
			ライフコース論	講義形式で行う。「ライフコース研究の特徴や主要な概念について説明することができる。」「出来事経験（結婚や出産）にどのような変化が生じつつあるのか、その要因とともに説明することができる。」「社会変動が人々の人生にどのような面でどのような変化をもたらしていったのかを説明することができる。」を目標とする。ライフコース研究の特徴や分析のための概念について概説し、日本における人生の変容の趨勢をとらえ、晩婚化、少子化、女性の働き方の変化など、戦後の日本社会における人生の変容について考えていく。	
			ジェンダー論	講義形式で行う。「現代の日本社会を中心に、自分の力でジェンダーをめぐる諸問題について観察し、分析することができる。」「マスメディア（新聞、雑誌やテレビ）が流布するジェンダーステレオタイプに対して、何が問題なのかを見抜くことができる。」「デートＤＶ、セクシュアルハラスメントなどの当事者として関わる可能性のある問題に対する正確な知識を身につけることができる。」を目標とする。各種の調査データや映像資料などを参照しながら、いかにして〈男らしさ〉／〈女らしさ〉が社会的につくられていくのかを検討していく。	
			コミュニティ心理学	講義形式で行う。テーマは「コミュニティにおける心理的援助の理論と実践」。コミュニティの概念とコミュニティアプローチの理論と実践例について理解することを目標とする。コミュニティとは何か。今、日本で起きているさまざまな問題の背景には、従来の日本にあったコミュニティの崩壊がある。新たなコミュニティを創り出すことも求められている。コミュニティ・アプローチはこうした現実にどのように働きかけることができるだろうか。理論と実践について講義する。	
			メディアと社会	講義形式で行う。テーマは「グローバル化する現代社会における生とメディア」。「グローバル化という変動について理解することができる。」「メディア論と関わるキーワードを理解することができる。」「インターネットや携帯電話などをめぐるキートピックを理解することができる。」「現代社会の人と人とのつながりの根本問題について批判的に考察することができる。」を目標とする。生・犯罪心理・幸福感とメディアの関係を通して、現代社会における人と人とのつながりの現状、新しい可能性などについて考える。	
			人生課題と法律	講義形式で行う。私達が生活していく上では、様々な形で法律問題に出会う。また、心理臨床はじめ様々な対人支援の場では、解決すべき問題の背景に法的問題が隠されていることが多い。家族・親族の紛争、少年非行、子どもの養育をめぐる争い、虐待、遺産相続、消費者問題などについての基礎的法律知識は、諸課題に対して適切な関与を行う上で必須のものと言える。本講では、第一線で実務に当たっている弁護士をゲスト講師に迎え、私達が、自律的に生活し、責任ある職業生活を送るために必要な基礎的な法律知識と法的感受性を身につける。	

第Ⅱ類科目	基礎部門	人間科学の基礎	講義形式で行う。テーマは「人間を科学することを考える」。「人間科学とは何か」について一定の理解をし、説明することができる。」「「人間科学」という自らの営みに対する持続的なまなざしをもつ。」ことを目標とする。人間を科学的に研究する場合「人間」はどのようなものとして捉えられるのか。「科学的」に研究するとは、どのような仕方のことなのか。人間科学は社会で何か役割を果たしているのか。本講義では「人間を科学する」こと自体について考察していく。	
		基礎ゼミナールⅠ	演習形式で行う。テーマは「根拠に基づいた「自分の意見」を持つ」。「自分の抱く問題関心に気づき、それにもとづいて調べた結果を発表しレポートにまとめることができる。」「複数の情報源から根拠となるデータや他者の意見を探すことができる。」「「引用」を正しく行い、文章を作成することができる。」を到達目標とする。この演習では様々な情報源から多角的に（例えば、賛成意見だけではなく反対意見も含めて）情報を集め、集めた情報に基づいて「自分の意見」を形作る訓練を行う。	
		基礎ゼミナールⅡ	演習形式で行う。テーマは「人間科学科で学ぶためのスタディ・スキルを獲得する」。「グループワークを通じて、積極的に意見を交換し協働することができる。」「自分の抱く問題関心に気づき、それに基づいて調べることができる。」「自分で調べた結果をレポートにまとめることができる。」を目標とする。このゼミナールでは、自分自身が何に関心を抱いているかを深く考えたり、それらについて他の学生と議論する経験を重ねて、大学の学びで最も必要とされる「考える」力を高めていく。	
		身体科学の基礎	講義形式で行う。テーマは「人体の構造と機能について」。「人体の構造と機能に関する基礎的知識を獲得し、生命活動を行う身体を理解することができる。」「人体に関する構造や機能を説明することができる。」「代表的な骨および筋の名称を説明することができる。」を到達目標とする。この授業では、解剖生理学を中心に人体の仕組みや働きについて講義する。	
	研究法部門	心理学研究法Ｂ	講義形式で行う。テーマは「推測統計と心理学研究法の理解」。「心理学における実験法の手続きを理解し、実験計画の立案ができる。」「量的なデータを統計的に分析する手法について理解できる。」を到達目標とし、推測統計や心理学実験で必要な研究法についての講義を行う。ＲやSPSSといった統計ソフトを用いたＰＣ演習を行うことで、調査や実験で得られた「こころ」のデータを分析できることを目指す。	
		社会学の理論と方法	講義形式で行う。「１．社会への問い方の変化」「２．リアリティ構成問題」「３．社会への問い方の現在的な基本傾向」という３つのテーマによる３部構成で講義を行い、授業で理解した「社会学の理論と方法」を用いて、現代社会にある身近な諸問題を考察できるようになることを到達目標とする。これまでに主要な社会学者によって展開された「社会学の理論と方法」が多様であることを把握するとともに、現代的な「社会への問い方」がどのようなものであるのかを社会学史的な視点から考察する。	
		心理学実験基礎演習Ⅰ	演習形式で行う。レポートの作成方法等に関しては、講義形式で実施する場合もある。テーマは「心理学の基礎的な実証的技法を体得する」。「心理学の実験的技法や実証的技法を体得し、現象の原因を調べることができる。」「心理学実験で得られたデータを分析し、その結果を科学論文の形式でレポートにまとめることができる。」を目標とする。この講義では、基礎的な心理学実験を経験し、実験研究に必要な基礎的な知識を修得することを目的とする。	
		心理学実験基礎演習Ⅱ	演習形式で行う。レポートの作成方法等に関しては、講義形式で実施する場合もある。テーマは「心理学の基礎的な実証的技法を体得する」。「心理学の実験的技法や実証的技法を体得し、現象の原因を調べることができる。」「心理学実験で得られたデータを分析し、その結果を科学論文の形式でレポートにまとめることができる。」を目標とする。この講義では、基礎的な心理学実験を経験し、実験研究に必要な基礎的な知識を修得することを目的とする。	

第Ⅱ類科目	研究法部門	社会学基礎演習Ⅰ	演習形式で行う。「社会学理論の基本を習得することで、複雑な社会事象を理論的に分析し、かつ、統合的に把握する基礎を形成することができる。」を到達目標とする。さまざまな社会現象を把握するために必要とされる社会学理論の基本的な認識枠組みに関心を焦点化させて、社会学の名著とされる研究書や論文などを精読する。この学習によって、第１に、研究論文が理論的な方向づけにおいて構造化されていることを、第２に、多様な社会事象の把握にとって認識枠組みの有する重要な機能の意味を把握する。	
		社会学基礎演習Ⅱ	演習形式で行う。「社会学研究の基礎技法のひとつである観察法を体得する。」「社会調査の設計段階を踏んだ研究計画を立てることができる。」「観察で得られたデータをもとにした社会学的レポートをまとめることができる。」を目標とする。観察法を用いて、必要なデータを収集し、レポートにまとめる。履修者は事前に明確な調査目的を設定し、仮説を立てたうえで、データ収集のために教室外へ赴く。観察法はより明確な問題意識が要求されるので、自ら問い、自らそれを実証するという社会学の基本的な研究法を体得することにつながる。	
		身体科学実験基礎演習	演習形式で行う。テーマは「身体諸機能の測定と評価」。「身体機能を評価する実験・測定で得られたデータを分析し、その結果を科学的知見に基づいて考察することができる。」「様々な実験・測定方法を習得し、実践できる。」を到達目標とする。この授業では身体機能を評価するための基礎的な実験・測定に用いる機器の正しい使用方法と測定方法、また得られたデータの分析方法やレポートの作成方法について学習する。	
		社会調査法Ｂ	講義形式で行う。テーマは「社会調査の企画・設計・実施方法を学ぶ」。「インチキなデータを見抜くことができるようになる。」「社会調査の種類と方法を理解することができる。」「自分で調査の企画・立案・設計をすることができるようになる。」「資料やデータを収集して分析することができるようになる。」「データを専門の技術を使って整理や処理をすることができるようになる。」を到達目標とし、社会調査の基本用語、考え方など専門的な知識を学ぶ。	
		社会調査法Ｃ	講義形式で行う。授業中に統計や調査結果を読み取る、電卓を使って基本統計量を計算するといった具体的な作業も行う。テーマは「統計資料・調査報告書を読む」。「必要な政府統計・調査報告を収集することができる。」「収集した政府統計・調査報告から何が分かるかを吟味・検討することができる。」「収集した政府統計・調査報告を活用して、自分の知りたいことを調べることができる。」を到達目標とする。本講では、既存の政府統計や簡単な調査報告・フィールドワーク論文を読むための基本的知識の修得を目指す。	
		社会統計学Ⅰ	演習形式で行う。学生がパソコン上でデータを処理しながら進める。テーマは「統計学における推定と検定を学ぶ」。「標本データから母集団の平均や分散を推定することできる。」「基本的な統計的検定法の使い方について説明することができる。」「集計結果に示された結果が統計的に有意な差であるのかどうかが判断できる。」「統計的有意性と標本数の関係について説明することができる。」を到達目標とする。標本調査のデータを集計・分析し、レポートを書くための基礎的な能力を養う。	
		社会統計学Ⅱ	演習形式で行う。学生がＰＣを使用しデータの処理を行う。テーマは「多変量解析によって何ができるのかを理解し、その原理と技法について学ぶ」。「多変量解析のさまざまな分析法を目的やデータに応じて適用することができる。」「社会学・心理学の論文で用いられる基礎的な多変量解析法を用いた分析結果や図表について説明することができる。」「多変量解析ソフトによって得られた出力の結果を理解することができる。」を目標とし、ＰＣを各自が扱いながら統計データの処理に必要なソフトの操作と、多変量解析という中級以上の分析技法の理論と実践について学ぶ。	
		社会調査実習	実習形式で行う。テーマは「都市における社会的贈与の現実と可能性」。「社会調査の一連の過程をグループ研究として行ない、得られたデータを分析して報告書にまとめることができる。」「情報通信技術を用いた多様な情報源からのデータや、自らフィールドに出かけて記録した現場の声などを収集し、社会の分析ができる。」などを到達目標とする。本調査実習では、都市の持続性に関係する社会的贈与の実態を明らかにしたうえで、その将来的な展望について考察していく。	

第Ⅱ類科目	専門部門	人間発達科目（Ａ群）	生命科学	講義形式で行う。テーマは「人間の生命科学」。「人間の脳とからだの仕組みに関する専門的知識を習得し、人間を科学的に見ることができるようになる。」「人間の営みに関心を抱き、深く洞察することで発見した生活に関する諸問題について、人間科学の観点から分析するために必要な、総合的な知識を有する。」を到達目標とする。人間を含むすべての動物のからだと脳は、生きるためと、子孫を残すための機能とそのための構造をもっている。その仕組みを学ぶことにより、自分の体を理解し、日々の生活に役立てていく。	
			身体活動の科学	講義形式で行う。テーマは「運動や身体活動による身体の変化について」。「運動が身体諸機能に及ぼす生理学的影響を説明できる。」「運動と身体諸機能の関連を説明できる。」を到達目標とする。ルー（Roux）は「すべての器官は適度に使うことによって機能的、形態的に高められるが、使い過ぎることによって発達が損なわれ、また使わなければ機能も形態も低下していく」と述べている。この授業では、運動によって生ずる身体の機能的変化の現象やメカニズム、そして健康と身体活動との関連について考えていく。	
			発育発達と運動	講義形式で行う。テーマは「現代社会における子どもおよび中高年者の発育発達の状況と運動の関連について」。「子どもから高齢者までの発育発達段階および運動との関連を理解できる。」「加齢による身体的変化について説明できる。」を到達目標とする。年齢や発育・発達段階を考慮しない間違った運動は、ケガや病気を引き起こすばかりでなく、社会的、心理的に悪い影響を及ぼす可能性も考えられる。授業では子どもから高齢者までの生涯にわたる運動実践が及ぼす様々な影響について講義する。	
			脳と心	講義形式で行う。テーマは「神経心理学の基礎を学ぶ」。「神経心理学の基礎を理解でき、神経心理学がどのように脳と心の関係を探ろうとする学問であるかを自分のことばで説明できる。」「脳と心の関係についての関心を深め、洞察し、学んだことを発展させて自ら分析する態度を身に付けることができる。」を到達目標とする。本講義では、失語（言語の障害）、失行（行ための障害）、記憶の障害を中心に解説し、脳と心の関係について受講生自らが考えるきっかけとなる場としたい。また、関連する認知神経心理学の考え方も紹介する。	
			基礎心理学	講義形式で行う。テーマは「人間の心の働きを、生理過程との対応関係から理解する」。「心の働きの理解に必要な生物学的構造や機能の基礎を理解できる。」「心の働きの検証のための基礎的な生理指標を理解できる。」を到達目標とする。本講義では、感覚知覚を出発点に高次脳機能の事例に至るまで、心的な特性と生理学的背景の対応関係を学ぶ。特に、心の働きの理解に有用な生物学的構造や機能と、行動指標に加え生理指標の計測が心の働きの理解に役に立つケースを実例から学ぶ。	
			心の認知科学	講義形式で行う。テーマは「認知科学（特に認知心理学・認知神経科学）の基礎知識を身に付ける」。「人間の認知（知覚・注意・記憶など）の仕組みについての基礎的な知見を理解し、説明できる。」「認知心理学の方法論について理解し、説明できる。」「日常生活で生じる疑問について、認知心理学の観点から考えることができる。」を目標とする。認知心理学という学問の全体像が受講者の中に自然と立ち現れることを目指す。	
			認知社会心理学	講義形式で行う。テーマは「対人、集団場面での行動の背後にある心の働きを理解する」。「社会行動に関わる認知心理学や神経科学の考え方や基礎概念を理解できる。」「様々な社会的行動を人間の情報処理過程の観点から説明できる。」を到達目標とする。本講義では、心の情報処理や生物学的基盤を問題にする認知心理学や神経科学の観点から、人間の社会的行動を理解するアプローチを学び、この分野に必要な基礎概念を習得する。	
			感情心理学	講義形式で行う。テーマは「感情の働きと人間行動の関係について理解する」。「感情に関する心理学や神経科学の基礎概念を理解できる。」「感情に関する種々のモデルを様々な状況に当てはめて説明できる。」を到達目標とする。本講義では、感情には様々な側面があり、それぞれが人間行動と根深く密接に関わっていることを学ぶとともに、それぞれがどのような役割を果たしているか考えていく。その際、感情の生起過程、生物学的基盤にも重点を置く。	

第Ⅱ類科目	専門部門	人間発達科目（A群）	生涯発達心理学	講義形式で行う。テーマは「受胎から死に至るまでの発達心理学」。「人間の発達について、霊長類と比較してその特徴を説明することができる。」「心理・社会的な視点から考えることができる。」「人間発達に関する専門的知識を習得し、私たちが生活する社会の形成を可能とする心のしくみについて理解する。」を目標とする。本講義では、受胎から死に至るまでの変化のプロセスを、生物学的な視点、心理・社会的な視点の２つの視点から学んでいく。	
			親と子の発達心理学	講義形式で行う。テーマは「現代社会における親と子に関する諸問題・課題について考える」。「現代における親と子の問題・課題として、どのようなことがあるのかデータを呈示しながら具体的に説明できる。」「人間発達に関する専門的知識を習得し、私たちが生活する社会の形成を可能とする心の仕組みについて理解する。」を目標とする。本講義では、現代社会における親と子に関する問題・課題を取りあげ、その現状と社会における対応について考えていく。	
			健康心理学	講義形式で行う。テーマは「ストレスと健康」。「心理学的ストレスプロセスについて適切な用語を用いて説明できる。」「自分のストレス状況を理解し問題点を整理し、適切な対処方法を述べることができる。」「自分自身の心の健康について考えることができる。」「健康心理学の理論と実践について理解できる。」を到達目標とする。本科目では、ストレスの基礎について正しい知識を習得し、その上で、健康との関連を明らかにすることを目的とする。ストレス検査などを実際に体験する機会を設け、参加しながら学べる講義を目指す。	
			動物と人間の心理学	講義形式で行う。テーマは「比較行動学、比較発達心理学」。「動物の行動、学習、知覚などのほか、比較行動学や霊長類学にかかわる概念や考え方を通して、比較研究の基礎概念を理解することが出来る。」「比較行動学を通して、他種・他者への理解を深め、尊重する姿勢を持つことが出来る。」を到達目標とする。講義では、霊長類から身近な動物の行動まで概観していくことで、行動の持つ意味を理解すること、そして心の進化についても考察する。	
		現代社会生活科目（B群）	社会心理学	講義形式で行う。テーマは「社会的環境への適応という観点から私たちのこころの働きを理解する」。「諸個人の間で生じる種々の相互的な対人行動や対人関係を理解し、その知識を応用できる。」を到達目標とする。講義の目的は、社会心理学の諸理論の理解を深めること、対人場面において社会心理学がどのような形で貢献できるのかを説明し、社会心理学を学ぶ意味を紹介し、その後、社会的認知や感情などの心の働きについて、実証研究を用いながら説明する。双方向的な議論も重視するため学生に身近なトピックを取りあげる。	
			コミュニケーション論	講義形式で行う。テーマは「コミュニケーション・メディア・文化・社会学」。「社会や人間を前提とすることなく、コミュニケーションを出発点として社会や人間を捉えることができる。」「コミュニケーションが人間社会を成り立たせるうえで有する意義を説明できる。」「現代社会の様々な生活領域における人間のコミュニケーションをめぐる実態と意味を理解する。」を到達目標とする。コミュニケーションの視座から人間、社会を捉え返すことができる視座を獲得していくのが、本講のねらいのひとつとなる。	
			コミュニケーションの心理学	講義形式で行う。テーマは「対人援助の技法を習得しながら、コミュニケーション能力を向上させる」。「対人コミュニケーションに関する諸理論を学び、特に初歩的なカウンセリングテクニックを理解できる。」「コミュニケーションの理論を学習し、実践することができる。」を目標とする。本講義では、コミュニケーションに関する心理学理論を概説するだけでなく、実際の日々のコミュニケーションに活用できるようにスキル獲得のためのグループ演習を数多く取り入れる。	
			現代社会論	講義形式で行う。テーマは「私たちが生きる「現代社会」とはどのような社会なのか、その基本的な特徴を理解する」。「現代社会論の基本枠組みを学習することで、自分たちの身近な出来事を社会的な構成物として歴史的に把握できる。」などを到達目標とする。本講義では、「現代社会論」の基本的な関心がどのようなものであるのか、また「日本の高度経済成長期」の特徴を「プレ高度経済成長期」と「ポスト経済成長期」という歴史的な対比の中から把握する。	

第Ⅱ類科目	専門部門	現代社会生活科目（B群）	家族の社会学	講義形式で行う。テーマは「家族とは何か、家族という集団の現代的課題の特質について考える」。「家族・親族集団の定義と基本的な概念について説明することができる。」「現代社会において日本の家族が抱えている諸問題についてその概略を説明することができる。」を目標とする。この授業の目的は、家族の普遍性と多様性について理解をすることにある。そのうえで現代日本の家族の抱えるさまざまな課題について、日本の状況を中心に概説していく。	
			生活環境の社会学	講義形式で行う。テーマは「人間の暮らしと環境問題」。「生活環境に関わる諸問題について社会学的方法によって分析的に理解する。」「日本と諸外国における生活環境関わる問題ついての研究動向や実態を知ることを通じて、現代社会において私たちが直面する生活環境上の課題について社会学的に論じることができる。」を目標とする。私たちの暮らしと環境とがどのように関わり、環境問題に対してどのように対応しているのかについて、考えていく。	
			都市と地域の社会学	講義形式で行う。テーマは「日本の都市と地域の今を考える」。「都市をめぐる諸問題について社会学的方法によって分析的に理解する。」「日本や諸外国の都市についての考え方や動向を把握し、現代の都市生活において私たちが直面する課題について理解し、社会学的に論じることができる。」「都市生活に関する諸問題について、社会学的な観点から分析できる。」を目標し、都市の構造的な力と文化とのせめぎあいに着目しながら、私達の暮らしとの関わり方について、社会学的に考える。	
			職場の社会学	講義形式で行う。テーマは「現代日本の会社で働くこと」。「職業・組織・日本的雇用慣行などに関する基礎的な事柄について理解できる。」「働くことをめぐるさまざまな事象について社会学的に考察できる。」を到達目標とする。本講では、「社会的に承認され確立された行動様式」としての制度、および企業で働く人々やそれをとりまく人々の「働くこと」の意味に着目して、労働、特に企業で働くことについて社会学的に考察していく。	
			仕事の社会学	講義形式で行う。テーマは「現代日本の職業労働―若年労働者問題・女性労働・「過労死」―」。「職業・組織・日本的雇用慣行などに関する基礎的な事柄について理解できる。」「働くことをめぐるさまざまな事象について社会学的に考察できる。」を到達目標とする。現代日本社会に生きる私たちにとって、〈仕事〉とはどのようなことなのか。本講では、若年労働者問題、過労死、女性労働を取りあげて、これらをめぐる研究・言説を手がかりに、人々の「〈仕事〉の信憑」に迫ることによって、この問いに答えていく。	
			文化の社会学	講義形式で行う。テーマは「音楽、マンガ、映画、ドラマなどの文化現象を、社会と関わらせながら理解する」。「人間の営みに関心を抱き、深く洞察することで発見した生活に関する諸問題について、人間科学の観点から分析するために必要な、総合的知識を有することができる。」「多様な生活環境を考慮しながら、日々の営みや社会とのつながりを含めて、人々ののこころを理解することができる。」を到達目標とする。さまざまな文化現象と、それに対する社会学的アプローチを紹介していく。	

第Ⅱ類科目	専門部門	現代社会生活科目（B群）	人口と社会	講義形式で行う。「高齢者、高齢化とは何か、理解することができる。」「高齢者の社会的支援ニーズおよびこれを支える施策メニューに関する深い知識を持つことができる。」「今後高齢社会を支える側に立つ者として、社会を支えることへの意識を持つことができる。」「高齢者が一層多くなる社会のありかたを考える力を養うことができる。」を目標とする。人口における課題について取り上げ、特にわが国で進行している高齢化を中心に、その現状や社会の対応（政策）について理解を深めていくことを目的とする。	
			情報と社会	講義形式で行う。テーマは「情報社会とはどんな社会かを考察する」。「情報伝達技術の進展が社会生活に与える効果を理解できる。」「現代社会において我々が直面する課題を「情報」という観点から理解できる。」「「情報」に関してより客観的な理解ができる。」などを到達目標とする。この授業では、消費をはじめ、社会のさまざまな事象と情報との関わりを例示し、「情報社会」とはどのような社会であるのか、社会がどのように情報により影響を受けつつあるのかを考えてみる。	
			出版文化論	講義形式で行う。テーマは「『出版』の社会における意義と現状の理解」。「出版活動の社会的意義と今日的な問題・課題を理解できている。」「出版をキーワードに、人間が営む社会、とりわけ日本社会に目を向け、洞察することで発見した社会における諸問題について、人間科学の観点から分析するために必要な知識を習得できている。」を到達目標とする。この授業では、出版メディアの歴史、種類、特性、そして、現状と将来への展望まで、出版メディアに関して概観する。	
			社会問題論	講義形式で行う。テーマは「社会問題について考えるための２つの理論的パースペクティブについて学ぶ」。「構造機能主義的な社会問題を理解する。」「ラベリングパースペクティブによる逸脱への視点を理解する。」「構築主義的パースペクティブによる社会問題論を理解する。」などを目標とする。構造機能主義的な考え方、レイベリング・パースペクティブに従った考え方、構築主義的な考え方の３つを、具体的な事例も踏まえて紹介し、「社会問題」についての視点を考えていく。	

第Ⅱ類科目	専門部門	特別研究	人間科学特別研究Ａ	演習形式で行う。テーマは「心理学関連の英語記事と英語論文を読む」。「英文で書かれた科学記事を辞書を使いながら読むことができる。」「英語長文を要約することができる。」「卒業論文研究に役立てることのできる情報を、インターネットなどで公開されている英語リソースの中から見つけ出すことができる。」を到達目標とする。また、卒業研究に必要な情報を英語で収集する力を付けることを目指す。英文読解力を養うと同時に、認知心理学の知識と最新の動向についても学ぶことが本演習のねらいである。	
			人間科学特別研究Ｂ	演習形式で行う。テーマは「英語による社会学基礎概念の再確認」。「英文で書かれた社会学の文章を（辞書を使って）読むことができる。」「英語の社会学用語の意味を日本語で説明することができる。」を目標とし、米国の社会学の入門書（英語で書かれた教科書。Download for free）を注意深く読む。それによって、社会学の基礎的な概念・考え方を英語と日本語の両方から再確認する。上記テキストの翻訳・報告に加え、必要に応じて日米の社会・生活の違いなどについても検討する。	
		演習科目	人間科学専門演習Ⅰ	演習形式で行う。テーマは「日常生活に関する心理学的な質問紙調査」。「取り上げるべき現象を挙げ、仮説によって説明することができる。」「仮説を検証するための質問紙調査の項目を作成することができる。」を目標とし、自分たちが構築した説明理論から演繹される仮定を質問紙調査を行うことによって検証し、論文を執筆するというプロセスを通して実証的な研究をおこなって卒業論文を書くために必要な、論理的思考・批判・分析・発言能力を養う。	
			人間科学専門演習Ⅱ	演習形式で行う。テーマは「日常生活に関する心理学的な質問紙調査」。「質問紙調査・SPSSを使用したデータ解析を実施することができる。」「科学的論文の書き方に則った報告書を作成することができる。」「他者と意見を積極的に交換し、建設的な議論を重ねながら協働することができる。」を目標とする。また、論文を執筆するというプロセスを通して実証的な研究をおこない、卒業論文を書くために必要な、論理的思考・批判・分析・発言能力を養う。	
			人間科学応用演習Ⅰ	演習形式で行う。グループ形式での学習成果の発表を必要とする。テーマは「心理学実験プログラミング能力の習得」。「自ら仮説を設定し、 研究計画を立てることができる。」「自ら情報を収集することができる。」を到達目標とする。心理学実験を実施するうえで必要となる、プログラミング能力の習得することを目指します。これらの能力を身に付けて、卒業論文研究で行う実験や調査の基礎力を養成することが目的である。	
			人間科学応用演習Ⅱ	演習形式で行う。グループ形式での学習成果の発表を必要とする。テーマは「生理指標の測定技術の習得」。「研究計画に基づいたデータの収集、分析を行い、科学レポートを作成することができる。」「データを自身で読み解くことができる。」「様々な心理学実験の機材を扱うことができる。」を到達目標とする。眼球運動や筋電位などの生理指標の測定方法を学び、実際にそれらのデータを取りながら測定技術を習得する。卒業論文研究で行う実験や調査の基礎力を養成することが目的である。	
			卒業論文	卒業論文の執筆にむけた研究指導を行う。自ら設定した問題に既存の文献・資料あるいは調査・実験結果に基づいて答え、論文として組み立てることにより、「Life」に関する深い理解を獲得することを到達目標とする。学習の過程で身に付けた複眼的な思考、仮説を立ててデータを集めて実証する考え方、自分で計画を立てて調査・実験できる実践力を駆使して、卒業論文を執筆する。	

（注）

1　開設する授業科目の数に応じ，適宜枠の数を増やして記入すること。

2　私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理社会学部臨床心理学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
第Ⅰ類科目	学びの窓口	文化	文化の探究Ａ	講義形式で行う。受講者に事例を考えてもらいながら、その事例を検討する。必要に応じて映像を鑑賞する。「論理的・批判的に考える力を養うことができる。」「「論理学」的思考の初歩を理解できるようになる。」ことを到達目標とする。論理的に考えるとはどういうことであろうか。論理的に考えることは学問をする上で、もっとも基本的なことである。多くの人は、「考えている」つもりでも、実はただ「悩んでいる」だけのことが多い。本授業では、論理的・批判的に考える方法について学ぶ。	
			文化の探究Ｂ	講義形式で行う。「講義で取り上げた生命倫理のテーマについて、その概要と何が争点となっているのかを説明し、自己の視点を述べることができる。」「個人発表において、受講生の興味に応じて発表テーマを選択し、それについて調査し、レジュメを作成して、発表することができる。」「個人発表において、他の人の発表に耳を傾け、適切なコメントを述べることができる。」を到達目標として、生命倫理が扱う諸問題について共に学ぶ。	
			文化の探究Ｃ	講義形式で行う。「ヨーロッパの中でのポーランドの位置を民族的・宗教的に認識できる。」「ポーランドとその周囲の民族との歴史的関係を認識できる。」「近世における身分制社会の特徴を理解できる。」「近代におけるポーランドのロマン主義と亡命社会の特徴を認識できる。」「現代におけるホロコーストがポーランドに及ぼした影響を認識できる。」などを到達目標として、ヨーロッパの東西の要に位置するポーランドの歴史を題材にして、それに関わった幾人かの人物を考察の中心に据える。	
			文化の探究Ｄ	講義形式で行う。「日本の歴史をアジア史の中で位置付けることができる。」「アジアの中における日本の位置が正しく理解できる。」「グループワークにより歴史を説明することができる。」を到達目標として、アジア史、なかでも中国との関係から日本の歴史とその果たしてきた役割について確認する。現代社会におけるアジア（中国・インド）の台頭にあって、わが国が担う立場を考える。	
			文化の探究Ｅ	講義形式で行う。「和歌表現の豊かさ、和歌の表現技巧、和歌作品の社会的背景などを理解することで、和歌文学に親しみと興味を持つことができる。」「奈良・平安・鎌倉期の主要な和歌を学ぶことで、古典の常識や教養を広げる。」「古文の読解に必要な、各種辞典・事典を活用できる。」を到達目標として、現代人でも深く共感できる奈良・平安・鎌倉期の和歌を取り上げ、基本事項をマスターしながら一首一首味読する。	
			文化の探究Ｆ	講義形式で行う。適宜、学生からの意見参加、発表を求める。「日本語・日本文学の幅広い学習から、日本の言語、文化の特徴を理解している。」「豊かな表現、分かりやすい表現を用いて、相手に説明することができる。」「ものの見方・考え方に対し、様々な角度からアプローチできる柔軟な姿勢をもっている。」を到達目標として、日本の文化としての近代文学を学ぶとともに、一部を音読することで、日本語の豊かな表現を味わう。	
			文化の探究Ｇ	講義形式で行う。双方向型授業を重視し、ディスカッションも取り入れる。「現代社会と仏教について小論文を作成し、諸見解が理解できる。」「見解を整理し、論文の形式に沿って文章が書ける。」を到達目標として、現代人の意識・宗教観を検討する。また、現代社会の課題と仏教・宗教の関わりを考え、それらを踏まえたうえで、各自が現代社会と仏教に関する小論文を作成する。	
			文化の探究Ｈ	講義形式で行う。双方向型授業を重視し、ディスカッションも取り入れる。「授業での検討事項を踏まえたうえで、受講生は、プレゼンテーションを行う。」「現代社会と仏教に関わる書籍を一冊選定し、その概要を把握する。」「著者の主張をまとめ、その主張に対する自分の論評を加え、レジュメを作成し発表する。」を到達目標とする。本科目では、葬儀にまつわる多くの課題や多様な見解をとり上げながら、受講生は一つのテーマについて意見をまとめ、発表を行う。	
			文化の探究Ｉ	講義形式で行う。文化の多様性を知り、文化人類学の基礎を学ぶ。「自分（たち）にとって当たり前であることが、他人にとって当たり前ではない」ということを知った経験はあるだろうか。戦前の植民地時代、世界中を支配した西欧諸国の人々は、世界の至る所でこのような経験をした。文化人類学はこの「なぜ違うのか」という問いからスタートしたともいえる学問である。講義ではいくつかのテーマを設定し、実際の例に触れながら、先人たちがそれをどのように考えてきたのかを説明していく。	

第Ⅰ類科目	学びの窓口	社会	社会の探究Ａ	講義形式で行う。毎回テーマに基づく講義を行い、受講者には授業時間内に適宜ミニ・レポートを提出することを求める。「人が生まれることへの自分の考えを深める。」「人として育っていくプロセスを知る。」「発達的な視点で人間を理解することができる。」を到達目標として、「人はどのように人となるのか？」を乳幼児期の発達の視点から人間への理解を深める。	
			社会の探究Ｂ	講義形式で行う。「片親疎外や面会交流について説明できる。」を到達目標として、離婚後の子育ての問題について学ぶ。全15回の授業においては、レポート課題や発表準備、グループ討議を多く経験することによって、片親疎外、面会交流、ステップファミリーなど、現代の家族が抱える離婚後の子育ての問題を理解する。	
			社会の探究Ｃ	講義形式で行う。ケーススタディを織り込みながら理解を深め、実社会で役に立つ指導を行う。新聞、放送、インターネット系など多メディア、クロスメディア時代のエンターテインメントビジネスに関する基礎的表現法を修得する。アカデミックライティングとビジネスライティング、作法の違いなどからエンターテインメントビジネスへの理解を深める。	
			社会の探究Ｄ	講義形式で行う。学生にも順次発表・回答させる。「情報の伝達・利用される仕組みを学び、必要・不必要に応じた取捨選択・目的に応じて使いこなす能力を高める。ひいては、コンピュータと情報のあり方、関わり方について考える。」を到達目標として、身の回りのさまざまな情報がどのように作られ、伝えられるのか。また、それがどのように利用されるのかを学ぶ。	
			社会の探究Ｅ	講義形式で行う。コメントシートや発表など、意見を表明することを求める。「スピリチュアリティとは何かが説明できるようになる。」「スピリチュアリティをめぐる文化の可能性と限界を説明できるようになる。」を到達目標とする。スピリチュアリティに対する関心が高まっているが、こうした「ブーム」をめぐる情報をどう収集・整理するかを学びつつ、なぜこうしたブームが起きるのか、スピリチュアリティという視点を獲得すると、当事者にとって世界はどう見えるのかを確認していく。	
			社会の探究Ｆ	講義形式で行う。コメントシートや発表など、意見を表明することを求める。「スピリチュアリティをめぐる文化にどのような分野があるかを説明できるようになる。」「各文化でのスピリチュアリティの可能性と限界を説明できるようになる。」を到達目標とする。本講義では、スピリチュアリティが宗教を離れて、世俗の分野でも注目を集めていることを確認し、そこから時代的・社会的背景を読み解くことを目指す。具体的には授業計画にある５本の映画を見て、そこに現れた死生観を読み解くことになる。	
			社会の探究Ｇ	講義形式で行う。法の基礎知識および民法の概要を学ぶ。「法令の条文や判例、文献等の精読と理解が的確にできる。」「論理的な文章を正確に読解し、その概要を自分の言葉で表現できる。」「契約や物の所有などに関する現行法のルールを理解できる。」などを到達目標として、現行の法制度のうち、市民生活の基本法である民法を中心に、所有権や契約などの仕組みについて学ぶ。生活に密着した具体的な事例を多く取り上げ、法制度を身近に感じてもらえるようにする。	
			社会の探究Ｈ	講義形式で行う。「日常の生活の中で出会う物事の背後にある法的なルールや考え方を理解する。」「日常の生活の中で出会う事柄について法的な解決を視野に入れた行動ができるようになる。」ことを到達目標とし、社会における法の役割、社会のルールの背後にある法的な考え方等を概観した後、憲法、民法、刑法などの基礎的な法律のエッセンスを学ぶ。その上で、日常生活で直面する労働、消費者、医療・福祉、情報、国際関係等の諸問題に関わる法や問題解決の仕組み等について概観する。	
			社会の探究Ｉ	講義形式で行う。現実の経済問題を理解するのに役立つ経済学のエッセンスについて学ぶ。経済問題は国民一人ひとりの暮らしに直結するものでありながら、それを正しく理解するツールである経済学の方法をきちんと身に付けている人は意外に少ない。まず現実経済の具体的な事例に即し、その正確な理解を主眼として、マクロ・ミクロの経済理論と近年重要性を増しているゲーム理論について、その基本を学ぶ。さらに、財政、金融、企業・産業、労働、国際経済など、経済理論の幅広い応用分野についても概説する。	

第Ⅰ類科目	学びの窓口	自然	自然の探究Ａ	講義形式、双方向型授業を重視する。「数学の知識の実生活における実用性について理解できている。」「単なる実用性にとどまらない、数学の文化としての重要性が理解できている。」「身のまわりの諸事象の中に、数学の知識がどのように生かされているかを知ろうとする態度を身に付ける。」ことを到達目標とする。数学の知識が実際の生活に実用的であるというだけでなく、音楽や文学、その他多くの芸術のように、人間の生活を豊かにする文化としての重要性が理解できることをねらって、数学のもつ魅力をさまざまな側面から考察する。	
			自然の探究Ｂ	講義形式で行う。「数学が実用的な必要性から生まれてきたことが理解できている。」「古代ギリシャにおいて、論証数学（証明つきの数学）が形成された事情について説明することができる。」「数学がいかに広範な文化的背景をもって発展してゆく知的営為のためであるかが理解できる。」ことを到達目標とする。数学的知恵の足跡をたどることを通して、場所と時代は異なっても、どこか似ていて、しかもそれぞれに違う数学的文化を感じることを目標とする。	
			自然の探究Ｃ	講義形式で行う。「現代社会におけるスポーツの功罪を正しく説明できる。」「健康に関する基礎的、科学的な知識を身に付ける。」ことを到達目標として、スポーツを取り巻く社会的な問題を取り上げ、スポーツの置かれている現状について考えていく。また、健康に関連してしばしば誤った情報が伝えられている。健康的な生活の実践のために正しい知識を獲得することを目指す。その上で、エクササイズやスポーツ実技を実習し、実際の運動でどのように生かすことができるかを学ぶ。	
			自然の探究Ｄ	講義形式で行う。水源確保、土砂災害、水害防止など森林が関わる諸問題に取り組むための基礎として、森林の持つ多様な機能について学習する。本講義における大きな目標は、心理について幅広い知識を持つこと、森林の機能についての導入的な知識を得ることにある。そして、「心理の果たす役割について理解を深め、森林がなぜ重要とされるについての理解を高める。」ことを到達目標とする。授業内容としては、森林科学が持つ各分野に関して、入門的な内容を扱っていく。	
			自然の探究Ｅ	講義形式で行う。環境史を紐解けば、古代の人類も環境問題を引き起こし、それが文明の盛衰を左右してきたことが分かる。この授業では農耕と定住の始まりから都市の形成、近代科学の誕生や産業革命を経て現代に至るまでの歴史に、人類と環境の関係がどのような影響を及ぼしてきたかということ、および人類の環境に対する考え方の変遷について概観する。その過程で「環境問題がどのような原因で生じるのかが分かる。」「現代の環境問題にどのように対処すればよいのかについて考えを深めることができる。」ことを到達目標とする。	
			自然の探究Ｆ	講義形式で行う。「古代から現代に至る科学の歴史的展開について、その概要を説明することができる。」「科学の歴史的発展に「思想」や「宗教」などがいかに関係しているか、いくつかの事例について理解できている。」「科学と技術に関して、今後思索する際の知的道具を身に付けている。」を到達目標として、古代から現代に至る科学の歴史的展開を、「方法」や「思想」、「宗教との関係」にも眼を向けつつ総合的に学ぶ。	
			自然の探究Ｇ	講義形式で行う。地球上には様々な微生物が生息しており、人間の生活に深く関わっているものも多い。それらは発酵食品や環境浄化など人間にとって有益な作用をもたらすものから、感染症を引き起こす病原菌など有害なものまで多種多様である。本講義では、普段生活している中で馴染みのあるものを中心に、微生物の構造や機能、その利用法などを紹介していく。微生物が身近な存在であるということを知ることによって、自然界における微生物の存在と重要性、さらに人間との関わりについて関心をもつことを目標とする。	
			自然の探究Ｈ	講義形式で行う。「地球を取り巻く宇宙環境」をテーマに行う。「宇宙という視点から見た地球の特徴や、オーロラなど周囲の宇宙環境が地球にもたらす様々な現象。」「地球の兄弟である太陽系の惑星たちとの共通点・相違点について理解する。」ことを目標とする。地球や惑星、周囲の宇宙環境に関する基礎知識や、それらの間に起こる自然現象・天体現象について原理から学んでいく。また、講師が参画している惑星探査プロジェクトなどに焦点を当て、宇宙科学に関連するプロジェクトの最前線についても紹介していく。	
			自然の探究Ｉ	講義形式で行う。人間科学、脳科学、生命科学、宇宙開発、環境、福祉教育などの各分野について、ＮＨＫスペシャルの映像などを活用しながら自然科学の幅広い知識を身に付ける。身近にある内容を取り上げ、人間とはどういう生物か、環境問題・エネルギー問題とは何か、テクノロジーで世界をどう変えるかなど各回テーマを変えて、講義を行う。まずは関心を持ってもらうことを中心にしながら、広く自然科学を学ぶための基礎知識を学ぶ。	

第Ⅰ類科目	学びの窓口	地域	地域連携貢献論	講義形式で行う。ディスカッションも取り入れる。地域経済が真に活性化するためには、各地域が新たな視点や発想をもって個性豊かな地域の資源を掘り起こし、多様な知恵と創意工夫により自ら活性化を実現していくことである。しかしながら世の中の地域活性化に対しての知見は少なく、地域にイノベーションを興す人材もいないのが現状である。この講義では山積する地域の課題や活性化の取組事例を研究し、地域活性化の手法を学び、地域活性化をプロデュースするための基礎的な知識を身に付ける。	
第Ⅰ類科目	学びの技法	基礎科目	基礎技法Ａ－１	講義形式で行う。グループワークや発表なども取り入れる。「大学生になる～自律と自立～」をテーマとし、グループワークを通して、大学生活を送るうえで前提となる知識やマナーを身に付け、セルフマネジメントによって４年間の大学生活を充実したものとするための基礎を学ぶ。「学びを通して、目標達成のためのプランを立てることができる。」ことを到達目標とする。	
			基礎技法Ａ－２	講義形式で行う。グループワークや発表なども取り入れる。「自らを社会に位置づける」ことをテーマとし、自らを社会に位置づけ、社会（企業）の求めを敏感に察知する能力を養うために、経済(ファイナンス)・金銭関係(税金、奨学金)の知識や政治への関心を育み、映画を通して社会背景を読み解く力を涵養し、それに応じた生活力や労務知識、エンプロイアビリティを構想、意識する。また、グループワークを通してセールススキルも養う。	
			基礎技法Ｂ－１	講義形式で行う。課題の添削を通して、日本語文章能力の向上を計る。「正しい日本語を使うことができる。」「論理的文章について理解する」ことを到達目標とし、日本語表現の基礎知識・基本技能として、①事実の整理　（要約：事実と自分の意見の区別）、②情報収集の諸注意、③小論文作成の段取りについて、文法的に正しい書き言葉で、論理的な構成を備えた文章を作成するため、最低限必要となる技能を学ぶ。	
			基礎技法Ｂ－２	講義形式で行う。課題の添削を通して、日本語文章能力の向上を計る。「新書を読んでまとめることができる。」「論理的文章を書くことができる。」ことを到達目標とし、日本語表現の基礎知識・基本技能を、①文章読解、②発見／調査型小論文について、与えられた文献の中から、自ら小論文のテーマを発見する方法を学ぶ。新書をはじめとする文献の調査、読解、要約、マッピングなど、これまでに学んだことを総合し、小論文を作成する技能を学ぶ。	
			基礎技法Ｃ	講義形式で行う。情報化社会を迎えた現代においては、コンピュータはほとんどの人にとって必要不可欠なものとなっている。そのような中で我々は必然的にコンピュータを使っていなければならないし、有効に利用することができれば非常に便利な道具となり得る。Windowsの基本操作を学び、コンピュータと長く付き合っていく上で必要なことを身に付け、コンピュータの基礎知識と基本操作を学ぶ。	

第Ⅰ類科目	学びの技法	基礎科目	英語１	講義形式で行う。学生に順次発表・回答もさせる。「英語のパラグラフ構成を理解し、英語の論理構成を学ぶ。」「トピックセンテンスを探して、各パラグラフのメインアイディアを捉える力を養う。」「英文の内容を理解し、正確な日本語に訳す力を養う。」ことを到達目標として、時事問題、文化、科学などの身近なトピックの英文を読み、現代社会が直面している問題を知る。また、読むスピードを高め、語彙を増やし、行間を読む力・要約の力をつける。	
			英語２	講義形式で行う。学生に順次発表・回答もさせる。英語１における学習内容を基礎として展開する。「英語のパラグラフ構成を理解し、英語の論理構成を学ぶ」、「トピックセンテンスを探して、各パラグラフのメインアイディアを捉える力を養う。」「英文の内容を理解し、正確な日本語に訳す力を養う。」ことを到達目標として、時事問題、文化、科学などの身近なトピックの英文を読み、現代社会が直面している問題を知る。また、読むスピードを高め、語彙を増やし、行間を読む力・要約の力をつける。	
			英語３	講義形式で行う。学生に順次発表・回答もさせる。「スキャニング力（本文にすばやく目を通しながら全体を把握する力）を養う。」「スキミング力（文章の概要を押さえながら読む力）を養う。」「翻訳力（読んだ内容を正確な日本語に訳す力）を養う。」ことを到達目標として、芸術、環境問題等、世界的な視野で捉えた英文を読み、理解し、翻訳する。豊富な確認問題で確認を深め、読みのテクニックを身に付ける。	
			英語４	講義形式で行う。学生に順次発表・回答もさせる。「スキャニング力（本文にすばやく目を通しながら全体を把握する力）を養う。」「スキミング力（文章の概要を押さえながら読む力）を養う。」「翻訳力（読んだ内容を正確な日本語に訳す力）を養う。」ことを到達目標として、芸術、環境問題等、世界的な視野で捉えた英文を読み、理解し、翻訳する。豊富な確認問題で確認を深め、読みのテクニックを身に付ける。	
			基礎国語Ａ	講義形式で行う。学生に順次発表・回答させる双方向型授業とする。大学で日本古典文学や古文で書かれた史料を読んでいく際に必要となる基礎知識を学ぶ。テキストには、名作・名場面・秀歌等を使用し、基礎的知識（語彙・語法・古典常識）を無理なく段階的に学んでいく。古文が苦手であっても、基礎力を高めるために、練習問題を繰り返し行うので実力がつく。また、古語辞典をはじめとして、各種辞典・事典の基本的な活用法も学ぶ。	
			基礎国語Ｂ	講義形式で行う。学生に順次発表・回答させる双方向型授業とする。現代日本語の文章の読解法を学び、文章表現方法を身に付けるために、①文章を能動的に読む、②語彙力を増やすために積極的に辞書を活用し文章を書く、③漢字や語彙の問題演習などを通じて文章表現力を高める。以上の三点を重視して行う。	
			基礎数学Ⅰ	講義形式で行う。算数・数学における各領域「数と計算・量と測定・図形・数量関係・資料の活用・データの分析」を総合的に確認し、基礎的・基本的な知識・技能の習得および思考力・判断力・表現力等の基礎力の土台を強固なものにするとともに実践で役に立つ知識を習得する。基礎数学Ⅰでは、初歩的な計算の工夫を通して、計算力を養い状況判断力や判断力を身に付けていく。また、日常生活で使われている比率や割合の計算をイメージできるようにし、さらには身近な金銭問題を取り上げ、金銭感覚を養う。	
			基礎数学Ⅱ	講義形式で行う。算数・数学における各領域「数と計算・量と測定・図形・数量関係・資料の活用・データの分析」を総合的に確認し、基礎的・基本的な知識・技能の習得および思考力・判断力・表現力等の基礎力の土台を強固なものにするとともに実践で役に立つ知識を習得する。基礎的な数的推理・判断推理や命題・論証などを通して論理的な思考力を再構築していく。社会のあらゆる場面で出てくる図や表の読み取りなどができるようにする。さらに集合や場合の数・確率などの演習を通して、予知・予測などを考えるきっかけとする。	
			基礎数学Ⅲ	講義形式で行う。算数・数学における各領域「数と計算・量と測定・図形・数量関係・資料の活用・データの分析」を総合的に確認し、基礎的・基本的な知識・技能の習得および思考力・判断力・表現力等の基礎力の土台を強固なものにするとともに実践で役に立つ知識を習得する。基礎数学Ⅲでは、Ⅰで身に付けてきた基本的な事項を土台として、同じ項目内容でより応用的・実践的問題に取り組んでいく。	

第Ⅰ類科目	学びの技法	基礎科目	基礎数学Ⅳ	講義形式で行う。算数・数学における各領域「数と計算・量と測定・図形・数量関係・資料の活用・データの分析」を総合的に確認し、基礎的・基本的な知識・技能の習得および思考力・判断力・表現力等の基礎力の土台を強固なものにするとともに実践で役に立つ知識を習得する。基礎数学Ⅳでは、Ⅱで身に付けてきた基本的な事項を土台として、同じ項目内容でより応用的・実践的問題に取り組んでいく。	
			基礎社会Ⅰ	講義形式で行う。日本政治や国際政治に関する基本的な知識を身に付け、政治に関する社会事象を認識できる力を養う。授業は、大きく三つの柱から構成される。第一は、講師による問題提示と解説である。受講生は、ここで基本的な知識を身に付ける。第二は、関連する新聞記事や文献を読み、学習内容を深めることである。第三は、学習に関わる主要な論点を取り上げ、受講生の意見交換を行うことである。これらの学習プロセスを通して、政治に関する基本的な理解と考察を深めていく。	
			基礎社会Ⅱ	講義形式で行う。日本経済や国際経済に関する基本的な知識を身に付け、経済に関する社会事象を認識できる力を養う。授業は、大きく三つの柱から構成される。第一は、講師による問題提示と解説である。受講生は、ここで基本的な知識を身に付ける。第二は、関連する新聞記事や文献を読み、学習内容を深めることである。第三は、学習に関わる主要な論点を取り上げ、受講生の意見交換を行うことである。これらの学習プロセスを通して、経済に関する基本的な理解と考察を深めていく予定である。	
			基礎社会Ⅲ	講義形式で行う。毎時間、新聞の時事ワークシートをもとに、演習と講師による解説を行う。おもに政治や経済に関する時事ニュースを取り上げる。演習や解説を通してニュースの背景や知識を理解するとともに、社会への関心を広げていく。時間があれば、他紙との比較やニュース記事の分析をするほか、テレビニュースなどを視聴する機会を設ける。受講生には、新聞記事に対して意見を述べ、話し合うなどの学習機会を提供する。	
			基礎社会Ⅳ	講義形式で行う。毎時間、新聞の時事ワークシートをもとに、演習と講師による解説を行う。政治・経済だけでなく、さまざまなジャンルのニュースを取り上げ、社会事象について広く理解できるように取り組んでみたい。演習や解説を通してニュースの背景や知識を理解するとともに、社会への関心を広げていく。多読や精読など、多様な学習の機会を設けるとともに、時事用語に関わる語彙力のチェックなどにも積極的に取り組む。	

第Ⅰ類科目	学びの技法	展開科目	情報処理Ａ－１（ワード）	講義形式で行う。演習形式で、学生が実際に操作する。テーマはＰＣによる文書作成の基礎で、「ワープロソフトの基本機能と操作方法を身に付ける。」ことを到達目標として、パソコンを使って、レポート・論文等を作成するために必要な知識、技術を学ぶ。授業では、文書の作成、表の作成、図形の活用、長文作成時の便利な機能等を学び、演習問題や習熟度チェックを通じてスキルの向上を目指す。	
			情報処理Ａ－２（ワード）	講義形式で行う。「Microsoft Wordの上級クラスとして、様々な書式や図形を有効に使った応用的な文書の作成ができる。」ことを到達目標とする。アウトラインやスタイルなどの長文作成支援、コメントの挿入や変更履歴などの校閲機能、差し込み印刷などの実務的な機能を身に付ける。図形や図表を使った文書の作成、写真を使った文書の作成、差し込み印刷、長文の作成、文書の校閲と配布準備等を学び、習熟度チェックを通じてスキルの向上を目指す。	
			情報処理Ｂ－１（エクセル）	講義形式で行う。演習形式で学生が実際に操作する。「表計算ソフトの基本機能と操作方法を身に付ける。」ことを到達目標とする。表計算ソフト(Microsoft Excel）の基本的な仕組みと特徴（計算・グラフ・データベース等）を紹介しながら、情報の整理・加工方法などの基本的な操作方法を学ぶ。データの入力、表の作成、数式の入力、表の印刷、複数シートの操作、グラフの作成、関数の利用等を学び、習熟度チェックを通じてスキルの向上を目指す。	
			情報処理Ｂ－２（エクセル）	講義形式で行う。演習形式で学生が実際に操作する。「実践的な表計算ソフトの使用方法を身に付ける。「自分が使うだけでなく、人に使ってもらう意識を持つ。」ことを到達目標として、表計算ソフト（Microsoft Excel）を用いて、さまざまなデータ処理方法等を学ぶ。データの入力、さまざまな関数の利用、テンプレートの作成、グラフィックの活用、ピボットテーブル、複数ブックの操作等を学び、習熟度チェックを通じてスキルの向上を目指す。	
			情報処理Ｃ（プレゼンテーション）	講義形式で行う。学生にも順次発表・回答させる。「プレゼンテーションのための有効な資料作成方法を身に付ける。」ことを到達目標とする。第三者に対して何かを説明し理解を深めてもらうという場合、口頭だけの説明ではなかなか理解は得られないものである。この授業では Microsoft PowerPoint を使って、説得力のある視覚に訴えるプレゼンテーションの作成方法を学ぶ。	
			情報処理Ｄ（データベース）	講義形式で行う。「リレーショナルデータベースの基本的な考え方を理解し、データの抽出、加工、集計法を身に付ける。」ことを到達目標とする。私たちは膨大な情報量の中で生活している。多種多様な情報の中から自分に必要な情報を選んでいるが、頭の中で処理するのは限界がある。この授業ではリレーショナルデータベースを用いて、データの入れ物の作り方から、効率的なデータ抽出、加工、集計等を行う。	

第Ⅰ類科目	学びの技法	展開科目	応用英語１	講義形式で行う。学生にも順次発表・回答させる。テーマは「TOEICで英語運用能力を高める」。「語彙力やリスニング力、文法力、読解力を伸ばしTOEICのスコアアップをはかる。」「テーマごとに頻出の関連語彙、イディオムを問題練習などを通して確実に習得する。」ことを到達目標とする。２回の授業で１ユニットを学習する。リスニングとリーディングの全パートを学ぶ。学生に対しては、授業への積極的参加、発言を望む。	
			応用英語２	講義形式で行う。学生にも順次発表・回答させる。テーマは「TOEICで英語運用能力を高める」。「語彙力やリスニング力、文法力、読解力を伸ばしTOEICのスコアアップをはかる。」「テーマごとに頻出の関連語彙、イディオムを問題練習などを通して確実に習得できる。」を到達目標とする。２回の授業で１ユニットを学習する。リスニングとリーディングの全パートを学ぶ。学生に対しては、授業への積極的参加、発言を望む。	
			世界の言語（中国語）１	講義形式で行う。学生にも順次発表・回答させる。「中国語で日常の簡単な会話ができる。」を到達目標として、中国語の初学者を対象に、「読む、聞く、話す、書く」という語学の四技能をバランスよく学ぶ。発音の習得を第一の目標に掲げ、繰り返しの発音練習や聞き取りなどにより、正確な発音を学び、それを定着させる。また、現在中国で使用されている漢字（簡体字）やその発音を表記するローマ字（ピンイン）も重要な学習項目である。	
			世界の言語（中国語）２	講義形式で行う。学生にも順次発表・回答させる。「中国語の様々な言い回しを学ぶことによって異文化を知ることができる。」を到達目標として、中国語の初学者を対象に、「読む、聞く、話す、書く」という語学の四技能をバランスよく学ぶ。春学期に習得した発音を定着させるため、繰り返しの発音練習や聞き取りなどを行う。基礎的な文型を理解することが重要な学習項目となるが、そのためには日本語と中国語の発想の違いなどに気づくことが大切である。それはまた翻って日本の文化を見直すことにもなる。	
			世界の言語（中国語）３	講義形式で行う。学生にも順次発表・回答させる。「中国語の基礎的な知識と能力をバランスよく養うことができる。」を到達目標として、中国語の基礎を学んだ者を対象に、「読む、聞く、話す、書く」という語学の四技能をバランスよく学ぶ。正確な発音の定着のためには、繰り返しの発音練習や聞き取りなどが必要である。これまでに学んだ基礎的な知識をより確かなものにしていくことが重要である。そのためには引き続き日本語と中国語の発想の違いなどに留意していくことが大切である。	
			世界の言語（中国語）４	講義形式で行う。学生にも順次発表・回答させる。「中国語の基礎的知識に基づき、簡単な会話ができ、簡単な文章が読めるようになる。」を到達目標として、中国語の基礎を学んだ者を対象に、「読む、聞く、話す、書く」という語学の四技能をバランスよく学ぶ。正確な発音の定着のためには、繰り返しの発音練習や聞き取りなどが必要である。これまでに学んだ基礎的な知識をより確かなものにしていくと同時に、更に実践的な運用を目指す準備期間でもある。日本語と中国語の発想の違いなどに留意して学習していく。	
			世界の言語（フランス語）１	講義形式で行う。できるだけテキストの文章を見ないで、音と耳を頼りにしてフランス語会話を勉強していく。学生同士、又は、教師と学生との相互の会話が授業の中心となる。「身の周りの日常の会話が、スラスラとできるようになることを目指す。」を到達目標として、フランス語の簡単な日常会話ができるように、会話を中心に勉強する。会話を修得するに際し最も大切なのは、耳を信頼すること。このクラスでは、テキストの文字を見ないで、耳だけに頼って、会話を覚えることを目指す。	
			世界の言語（フランス語）２	講義形式で行う。テキストに頼らずに、フランス語を音と耳を頼りにして勉強していく。学生同士、又は、教師と学生との相互の会話を中心に授業を進める。「身の周りの日常の会話が、スラスラとできるようになることを目指す。」を到達目標として、フランス語の簡単な日常会話ができるように、会話を中心に勉強する。会話を修得するに際し最も大切なのは、耳を信頼すること。このクラスでは、テキストの文字を見ないで、耳だけに頼って、会話を覚えることを目指す。	
			世界の言語（フランス語）３	講義形式で行う。できるだけテキストの文章を見ないで、音と耳を頼りにしてフランス語会話を勉強していく。学生同士、又は、教師と学生との相互の会話が授業の中心となる。「身の周りの日常の会話が、スラスラとできるようになることを目指す。」を到達目標として、フランス語の簡単な日常会話ができるように、会話を中心に勉強する。会話を修得するに際し最も大切なのは、耳を信頼すること。このクラスでは、テキストの文字を見ないで、耳だけに頼って、会話を覚えることを目指す。	

第Ⅰ類科目	学びの技法	展開科目	世界の言語（フランス語）4	講義形式で行う。テキストの文章に頼らずに、フランス語を音と耳を頼りにして勉強していく。学生同士、又は、教師と学生との相互の会話を中心に授業を進める。「さまざまな日常会話が、それほど困難なくできるようになることを目指す。」を到達目標として、フランス語の簡単な日常会話ができるように、会話を中心に勉強する。いろいろなケースに応用できる力を養うようにする。	
			世界の言語（ドイツ語）1	講義形式で行う。「ドイツ語の文法の基礎レベル（人称代名詞・疑問代名詞まで）を理解できる。」を到達目標とする。初心者向けの授業ではあるが、知識人としてドイツ語の文献（主として文学と哲学）を読める学生を育てる。先ずはドイツ語を読解できるようになるため、基礎文法をアルファベットと発音から、古来のラテン語の学習に基づくオーソドックスなやり方でしっかり学ぶ。それを通してドイツ語の世界観とドイツ語圏の人の思考を知る。	
			世界の言語（ドイツ語）2	講義形式で行う。「ドイツ語の文法の基礎レベル（接続法まで）を理解できる。」「ドイツでの語学研修ができる。」を到達目標とする。知識人としてドイツ語の文献（主として文学と哲学）を読める学生を育てる。先ずは春学期の授業の復習をし、続いて基礎文法を古来のラテン語の学習に基づくオーソドックスなやり方でしっかり学ぶ。それを通してドイツ語の世界観とドイツ語圏の人の思考を知る。	
			世界の言語（ドイツ語）3	講義形式で行う。「独文和訳の基礎が理解できる。」を到達目標として、ドイツの絵本を和訳する。知識人としてドイツ語の文献（主として文学と哲学）を読める学生を育てる。一年で学んだドイツ語を復習しながら、グループでドイツ絵本の日本語訳を試みて、学生一人ひとりの読解力を高める。名作絵本に接することを通して地方と時代によって異なるドイツ語圏の国々の文化も知る。	
			世界の言語（ドイツ語）4	講義形式で行う。「独文和訳のコツを覚えている。」「ドイツでの語学研修ができる。」を到達目標として、ドイツの絵本を和訳する。知識人としてドイツ語の文献（主として文学と哲学）を読める学生を育てる。一年で学んだドイツ語を復習しながら、グループでドイツ絵本の日本語訳を試みて、学生一人ひとりの読解力を高める。名作絵本を通して地方と時代によって異なるドイツ語圏の国々の文化も知る。	
			世界の言語（韓国語）1	講義形式で行う。受講生には講義内容に沿った練習を、主に口頭でたくさん行ってもらう形で進める。「韓国語の文字の読み書きができるようにし、主な「てにをは」類を始め、＜～です（か）＞とその尊敬形＜～でいらっしゃいます（か）＞、＜あります・います（ありません・いません）＞とその尊敬形について学び、使い方に習熟することができる。」を到達目標として、韓国語についての概略的な知識を得た後、文字と発音、語彙と文法の基礎を学ぶ。	
			世界の言語（韓国語）2	講義形式で行う。「ある・ない」、「いる・いない」の尊敬表現を始め、ものや場所を表す一連の＜こそあど言葉＞とそれらに「てにをは」類が組み合わさった形や、さまざまな疑問詞なども一通り習得する。また、「～ではありません」、「～ではなくて～」といった否定の表現や、「～ですが～」といった逆接の表現についても学ぶ。」を到達目標として、韓国語の語彙と文法をさらに広げて習得し、読解のための基礎を確かなものにする。	
			世界の言語（韓国語）3	講義形式で行う。「用言の活用の基本を学ぶ。進んで、母音語幹、子音語幹、ㄹ（リウル）語幹、하다（ハダ）用言などの、＜尊敬形＞と＜非尊敬形＞を、２通りの丁寧な言い方、つまり「합니다（ハムニダ）体」と「해요（ヘヨ）体」で習得、習熟することができる。さらに、用言の否定形や不可能形をも学習できる。」を到達目標として、韓国語の語彙と文法をさらに広げて習得し、読解のための基礎を一層深めつつ確かなものにする。	
			世界の言語（韓国語）4	講義形式で行う。「変格活用も含めて、用言の活用の型を一通り習得することができる。また、さまざまな過去形を学び、過去形を容易に作ることができるようになる。さらに、形容詞や指定詞を中心に、用言の連体形の一部まで学ぶことができる。」を到達目標として、韓国語の読解の基礎をより充実させ、実際に短い文章の読解を試みる。韓国語の語彙と文法をさらに広げて習得し、読解のための基礎を一層深めつつ確かなものにする。	

第Ⅰ類科目	学びの技法	展開科目	世界の言語（スペイン語）1	講義形式で行う。「スペイン語の正しい発音を身に付けながら、スペイン語で書かれた文を正しく読むことを習得する。」を到達目標とする。このクラスを履修する学生は、数人ずつのグループに分かれて発表を行う。グループごとにスペイン語圏のいずれかの国について調べ、パワーポイントを用いた発表をする。発表に対しては成績評価の20%を割り当てる。テキストを読んで基本的事項を学ぶのに加えて、カードを使ったゲーム等を通してより実践的な形でスペイン語を学んでいく。	
			世界の言語（スペイン語）2	講義形式で行う。「前段階で学習した基本文法を活用して、さらに一歩進んだコミュニケーションができるようにする。」を到達目標とする。テキストを読んで基本的事項を学ぶのに加えて、ゲーム等を用いてより実践的な形でスペイン語を学んでいく。また、ミニテストを通じて各人の習得の度合いを確認しながら授業を進めていく。	
			世界の言語（スペイン語）3	講義形式で行う。「基本文法を活用して、さらに一歩進んだコミュニケーションができるようにゲーム等でスペイン語でのやりとりを実践していく。文法面では不規則動詞の活用を中心にしながら、動詞句の用法等を学んでいく。また、ビデオや話を通じて、スペイン語圏の国々の文化についてもさらに知識を広げる。」を到達目標とする。テキストを読んで基本的事項を学ぶのに加えて、ゲーム等を用いてより実践的な形でスペイン語を学んでいく。	
			世界の言語（スペイン語）4	講義形式で行う。「一歩進んだコミュニケーションができるようにゲーム等でスペイン語でのやりとりを実践していく。文法面では不規則動詞の活用を中心にしながら、動詞句の用法等を学んでいく。また、ビデオや話を通じて、スペイン語圏の国々の文化についてもさらに知識を広げる。」を到達目標とする。基本文法を用いながら、実践的にスペイン語を使う練習を重ねてゆく。また文法面のレベルアップもはかり、中級の文法をとりあげていく。	
			世界の言語（ヒンディ語）1	講義形式で行う。また、影像記録を使って、インド文化の生きた姿に触れて、それについて討論を行いインド文化理解の知識を身に付けてもらう第一歩とする。テーマは「インド文化への招待と現代ヒンディー語入門」。「現代インドの文化的多様性と言語のあり方を理解できる。」「ヒンディー語の枠組みを理解できる。」を到達目標として、現代インドの文化的諸相と現代ヒンディー語の入門として学ぶ。	
			世界の言語（ヒンディ語）2	講義形式で行う。また、影像記録を使って、インド文化の生きた姿に触れて、それについて討論を行いインド文化理解を深めてもらう。テーマは「現代ヒンディー語初級文法の学習の継続」。初習の語学は、教員の説明を聞いて継続と反復練習しか修得の道はない。したがって特別の事情がない限り授業に毎回出席し積極的に参加するのは当然である。「ヒンディー語の平易な単文を作文できる。」「インド文化理解を深められる。」を到達目標として、インド文化理解へのステップとする。	
			世界の言語（ヒンディ語）3	講義形式で行う。また、影像記録を使って、ヒンドゥー教の生きた姿に触れて、それについて討論を行いインド文化理解を深めてもらう。テーマは「現代ヒンディー語中級文法の学習」。初習の語学は、教員の説明を聞いて継続と反復練習しか修得の道はない。したがって特別の事情がない限り授業に毎回出席し積極的に参加するのは当然である。「平易な単文で会話・作文ができる。」「ヒンディー語のより自然な表現方法に慣れるようにする。」「ヒンドゥー教の概要を理解できる。」を到達目標として、インド文化の理解を行う。	
			世界の言語（ヒンディ語）4	講義形式で行う。また、影像記録を使って、ヒンドゥー教の生きた姿に触れて、それについて討論を行いインド文化理解を深めてもらう。初習の語学は、教員の説明を聞いて継続と反復練習しか修得の道はない。したがって特別の事情がない限り授業に毎回出席し積極的に参加するのは当然である。「平易な単文で会話・作文ができる。」「ヒンディー語のより自然な表現方法に慣れるようにする。」「ヒンドゥー教の思想の概要を理解できる。」を到達目標として、インド文化を理解する。	

第Ⅰ類科目	学びの技法	展開科目	英会話Ⅰ	講義形式で行う。学生にも順次発表・回答させる。テーマは「英語運用能力（主にリスニングとスピーキング）の習得と異文化を理解する力の養成」。「英語による、自己表現力を養成する。」「TOEIC 345点、TOEIC Bridge 130点を目指す。」を到達目標として、コミュニケーションのための、四技能運用語としての英語力の習得を目指す。また、段階別に、リスニング力とスピーキング力を養成する。	
			英会話Ⅱ	講義形式で行う。学生にも順次発表・回答させる。テーマは「英語運用能力（主にリスニングとスピーキング）の習得と異文化を理解する力の養成」。「英語による、自己表現力を養成する。」「TOEIC 370点、TOEIC Bridge 135点を目指す。」を到達目標として、コミュニケーションのための、四技能運用語としての英語力の習得を目指す。また、段階別に、リスニング力とスピーキング力を養成する。	
			英会話Ⅲ	講義形式で行う。学生にも順次発表・回答させる。テーマは「英語運用能力（主にリスニングとスピーキング）の習得と異文化を理解する力の養成」。「英語による、自己表現力を養成する。」「TOEIC 520点、TOEIC Bridge 155点を目指す。」を到達目標として、コミュニケーションのための、四技能運用語としての英語力の習得を目指す。また、段階別に、リスニング力とスピーキング力を養成する。	
			英会話Ⅳ	講義形式で行う。学生にも順次発表・回答させる。テーマは「英語運用能力（主にリスニングとスピーキング）の習得と異文化を理解する力の養成」。「英語による、自己表現力を養成する。」「TOEIC 570点、TOEIC Bridge 160点を目指す。」を到達目標として、コミュニケーションのための、四技能運用語としての英語力の習得を目指す。また、段階別に、リスニング力とスピーキング力を養成する。	
			中国語会話Ⅰ	講義形式で行う。学生にも順次発表・回答させる。「中国語を即戦力として使うことのできる能力の基礎を作ることができる。」「中国語検定準四級合格程度の力を養うことができる。」を到達目標として、語学の「読む・聞く・話す・書く」の四技能のうち、特に「聞く・話す」に重点を置いて訓練する。そのため、繰り返しの発音指導と聞き取り訓練を行う。簡単な日常会話を学びながら、文法方面の知識も増やしていく。また、会話をスムーズに行うために必要な中国の習慣や風習などについても知識を深めていく。	
			中国語会話Ⅱ	講義形式で行う。学生にも順次発表・回答させる。「中国語を即戦力として使うことのできる能力を養うことができる。」「簡単な中国語で自分の意志を相手に伝えることができる。」を到達目標として、語学の「読む・聞く・話す・書く」の四技能のうち、特に「聞く・話す」に重点を置いて訓練する。正確な発音の上に立ち、自身のことを簡単な中国語で表現できるようにする。会話をスムーズに行うために必要な中国の習慣や風習などについても知識を深め、中国語によって良好なコミュニケーションが取れるように訓練していく。	
			ドイツ語会話Ⅰ	講義形式で行う。テーマは「ドイツ語によるコミュニケーションのための基礎力を養う」。「ドイツ語で挨拶や自己紹介をし、相手の職業や家族について聞けるようになる。」「部屋の中や街中にあるもの、時刻や行き先について会話できるようになる。」を到達目標として、ドイツ語の基礎文法を学びながら、ドイツ語によるコミュニケーションの基礎力を身に付ける。	
			ドイツ語会話Ⅱ	講義形式で行う。テーマは「ドイツ語の応用的・実践的な会話力を身に付ける」。「ドイツでの日常生活（自己紹介、レストランやカフェ、買い物）で用いる会話がドイツ語でできるようになる。」を到達目標とする。文法を確認し、語彙を増やしながら、様々な場面に応じた応用的・実践的なコミュニケーション力を身に付ける。授業を通じて、日常的な会話をドイツ語で話せるようになることを目指していく。	

第Ⅰ類科目	学びの技法	展開科目	文章技法Ａ	講義形式で行う。グループディスカッション・グループワークなども積極的に授業に取り入れていく。「大学生として必要なアカデミック・ライティングスキルを身に付ける。」を到達目標とする。言語教育においては「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能がバランスよく伸びていくことが理想とされている。この科目では、「書く」ことに重点をおきつつ、そのために必要とされる「読む」こと、「聞く」ことの育成も意識していく。	
			文章技法Ｂ	講義形式で行う。学生にも順次発表・回答させる。「日本漢字能力検定に出題される各領域での漢字技能を磨き、検定の合格基準である80％の正答を導く漢字力が養成できる。」を到達目標とする。近年、文字を手書きする機会は減少したものの、漢字力は依然として社会生活を送るうえで不可欠である。現に多くの企業が確かな漢字力を求めており、「漢字検定」の取得は就職の際にも有利となっている。本科目では、常用漢字を幅広く適切に使いこなす漢字力の習得を目的とする。	
			技法Ａ（論理力）	講義形式で行う。双方向型授業を重視して全員が発言するディベートを行う。「資料などから主張を論理的に組み立て、的確な表現で話すことができる。」「相手方の主張に理詰めの反論をすることができる。」「情緒から切り離した論理的思考を身に付ける。」を到達目標とする。テーマを決め、賛成論を用意して発表するグループ、それに対し反論をするグループ、討議結果を判定するグループに分かれ、説得力を競いながら論理力を身に付ける。	
			技法Ｂ（自己アピール）	講義形式で行う。「自己アピールの出発点である「自分自身を正しく認識」することができる。」「自己アピールの際の基本として「数字」や「落差」が現出させる表現技法を知る。」「受講者の任意だが、希望者は個人で申請し、「ビジネス電話検定・知識B級」または「A級」を受け、就職資格の取得ができる。」を到達目標とする。本授業ではやがて直面する場面を想定しつつ、自己アピールに関する基礎知識を学ぶ。授業での学びを活用し、その場にふさわしい自己アピールを実習する。	
	留学生科目		日本語研究Ａ	講義形式で行う。テーマは「総合的な日本語能力の向上」。「初級の文法事項を完全に身に付ける。」「長文をできるだけ短時間で読む。」「中～上級レベルの談話表現を知り、使いこなす。」「自然な会話表現ができるようになる。」「約5,000語の語彙力をつける。」「アカデミックジャパニーズで求められる論理的な文章を書けるようになる。」を到達目標として、使用テキストに基づき、四技能（話す・読む・聞く・書く）の訓練を行う。「日本語研究Ａ～Ｅ」はセットでの履修である。	
			日本語研究Ｂ	講義形式で行う。テーマは「総合的な日本語能力の向上」。「初級の文法事項を完全に身に付ける。」「長文をできるだけ短時間で読む。」「中～上級レベルの談話表現を知り、使いこなす。」「自然な会話表現ができるようになる。」「約5,000語の語彙力をつける。」「アカデミックジャパニーズで求められる論理的な文章を書けるようになる。」を到達目標として、使用テキストに基づき、四技能（話す・読む・聞く・書く）の訓練を行う。「日本語研究Ａ～Ｅ」はセットでの履修である。	
			日本語研究Ｃ	講義形式で行う。テーマは「総合的な日本語能力の向上」。「初級の文法事項を完全に身に付ける。」「長文をできるだけ短時間で読む。」「中～上級レベルの談話表現を知り、使いこなす。」「自然な会話表現ができるようになる。」「約5,000語の語彙力をつける。」「アカデミックジャパニーズで求められる論理的な文章を書けるようになる。」を到達目標として、使用テキストに基づき、四技能（話す・読む・聞く・書く）の訓練を行う。「日本語研究Ａ～Ｅ」はセットでの履修である。	
			日本語研究Ｄ	講義形式で行う。テーマは「総合的な日本語能力の向上」。「初級の文法事項を完全に身に付ける。」「長文をできるだけ短時間で読む。」「中～上級レベルの談話表現を知り、使いこなす。」「自然な会話表現ができるようになる。」「約5,000語の語彙力をつける。」「アカデミックジャパニーズで求められる論理的な文章を書けるようになる。」を到達目標として、使用テキストに基づき、四技能（話す・読む・聞く・書く）の訓練を行う。「日本語研究Ａ～Ｅ」はセットでの履修である。	
			日本語研究Ｅ	講義形式で行う。テーマは「総合的な日本語能力の向上」。「初級の文法事項を完全に身に付ける。」「長文をできるだけ短時間で読む。」「中～上級レベルの談話表現を知り、使いこなす。」「自然な会話表現ができるようになる。」「約5,000語の語彙力をつける。」「アカデミックジャパニーズで求められる論理的な文章を書けるようになる。」を到達目標として、使用テキストに基づき、四技能（話す・読む・聞く・書く）の訓練を行う。「日本語研究Ａ～Ｅ」はセットでの履修である。	

第Ⅰ類科目	留学生科目	日本語研究Ｆ	講義形式で行う。与えられた問題の解決、課題達成を目指す。テーマは「日本語の口頭表現能力養成」。授業開講時の学生個人の能力によって幅があるが、「日本語の中級～超級の会話能力獲得」を到達目標とする。日常の会話表現力向上はもとより、社会人として必要な敬語の知識、異文化理解に基づいた待遇表現の整理、日本語の論理に基づいた話し方等が身に付くように授業を行う。	
		日本語研究Ｇ	講義形式で行う。「その場にふさわしい気持ちや微妙なニュアンスを伝えるための文法事項を自ら選択し、それを使うことができる。」「類似表現の使い分けができる。」を到達目標とする。新聞記事を中心にエッセイ、意見文などの生の文章を教材として、その中にある文法事項を抜き出し、形と意味・用法を確認していく。その後それらを使えるように練習し、運用力をつけていく。また、微妙な表現を使い分けられるように、類似表現の習得を目指す。	
		日本語研究Ｈ	講義形式で行う。テーマは「時事日本語」。「時事的な文章表現に慣れる。」「現代社会一般に関する理解が深まる。」を到達目標として、現代の日本社会が抱えている種々の問題を取り上げた短い文章を読む。聴解・読解を中心に、学部・大学院レベルの日本語を総合的に身に付けることを目標とする。担当者作成教材をテキストとして使用して、政治、経済・経営、社会問題、文化を学習する。	
		日本語研究Ｉ	講義形式で行う。ペアワークやグループワークなども取り入れる。各自で作文実作に取り組む。作文を教師が添削し、フィードバックを全体で行う。「自分の表現したいことを語彙・文型・構成を考慮しながら書き表すことができる。」を到達目標とする。モデル文の読解・分析（構成や文型の確認など）を行い、次に、書くための準備（マッピング・フローチャートなど）を進め、その後作文を書く。書きあがった作文は教師が添削をする。必要があれば書き直しをし、最後に発表を行う。	
		日本文化研修	講義形式で行う。日本語授業、日本文化研修に加え、仏教系大学としての特色を活かした仏教研修道場等を体験する。日本語授業においては、総合日本語、日本語会話に関する講義を集中的に実施するほか、書道体験等も行う。これらの授業や体験を通じて、日本語の語学力向上だけではなく出身国との文化の違いを感じ取り、受講生一人ひとりが日本の文化を広く理解することを到達目標とする。	

第Ⅱ類科目	学部共通部門	基礎科目	心理社会研究入門	講義形式で行う。入門的な科目として心理社会学部の研究への基礎的な理解を得ることを目標とする。いじめ、虐待、不登校、うつ病、失業、貧困、老々介護といった現代社会の身近な問題を取り上げ、個人の心理や家族の力動に焦点をあてながら、事例研究や量的・質的研究のアプローチについて学ぶ。また、エリクソンなどの心理社会的な視点からの事例研究、大学生の社会心理に関する調査の紹介、詩歌・音楽などの文化表象の時代背景などの心理社会的な視点からの分析、ボランティア活動と各国の文化、などの講義を行う。	
			社会学の基礎Ａ	講義形式で行う。「社会学の基本的な考え方である「制度論」を学習することで、自身の身近な出来事をより深く理解することができる。」「「リアリティ」が社会的に構成される側面を学習することで、自身の視野を大きく拡げることができる。」を目標とする。「社会学」の基本的な考え方や発想を理解することを目的に、文化や世界・言語などの分析を手がかりに「制度論」を概観する。社会のメンバーシップを獲得していく過程として「社会化」を理解する。地域社会や学校などの「リアリティ」が社会的に構成されることを理解する。	
			社会学の基礎Ｂ	講義形式で行う。「子供・家族・学校などの「リアリティ」が社会的に構成される側面を学習することで、自身の視野を相対化し、大きく拡げることができる。」「「ジェンダー」という視点を理解することで、身近な出来事を異なった角度から把握することができる。」を目標とし、社会的に構成されたリアリティの多層性あるいは多元性を「多元的なリアリティ論」として把握する。「近代における〈子供の誕生〉」の議論をはじめとした具体的な問題群を、近代家族論、学校＝教育の誕生論、宗教の世俗化論、社会的逸脱行動論、ジェンダー論などとして論じる。	
			心理学の基礎Ａ	講義形式で、主に教員が講義する。「先入観を排除し、根拠を呈示しながら論理的に判断することができる。」「科学としての心理学がどのようなものか説明できる。」「心理学の基礎的な研究が、応用的分野や日常生活の中でどのように貢献しているのか具体的に考えることができる。」等を目標とする。本講義では、現代の心理学（主に基礎的な領域）について学んでいくことを目的とする。知覚・認知・学習の領域が現代社会の日常や病理とどのように関連しているのか考えていく。	
			心理学の基礎Ｂ	講義形式で、主に教員が講義する。「先入観を排除し、根拠を呈示しながら論理的に判断することができる。」「科学としての心理学がどのようなものか説明できる。」「心理学の基礎的な研究が、応用的分野や日常生活の中でどのように貢献しているのか具体的に考えることができる。」等を目標とする。本講義では、心理学の基礎Ａで学んだ心理学の基礎的な領域を踏まえて、発達・社会・臨床という社会的な関係性を中心とした領域について学んでいく。	
			社会調査法Ａ	講義形式で行う。テーマは「社会調査の基礎を学ぶ」。「社会調査の基本的事項を正しく理解し、調査の基礎的な技法を身に付けている。」「多様な情報源に基づくデータを使って、量的・質的両面から、社会調査の基礎的な技法を用いて分析できる。」「統計情報や文章資料を正確に読み解くことで、背後にある問題を発見し、その解決に必要な情報を多角的に分析できる。」を到達目標とする。社会調査に関する基礎的な知識の習得を通じて、社会調査の考え方や心構えなどを身に付けることを目的とする。	
			心理学研究法Ａ	講義形式で行う。テーマは「臨床心理学における基本的な研究方法を概観する」。「心理学研究法の基礎として、統計手法による数量データの処理ができるようになる。」「心理学的測定の基本である統計学的な問題分析の意味が理解できる。」「適切な情報収集の方法を理解できる。」を到達目標とする。心理学における基本的な研究方法のうち、臨床心理学分野に特に重要な心理統計法、調査研究法の基礎的な方法論について学ぶ。	

第Ⅱ類科目	学部共通部門	現代心理社会科目	パーソナリティ心理学	講義形式で行う。学生の理解を促すため、授業内容に関するフィードバックを適宜求める。テーマは「パーソナリティ心理学の諸理論を学び、性格についての理解を深める」。人間のパーソナリティに関する知識を習得し、性格に関する多面的な視点を持つことができるようになる。また、自分自身や周囲の人についても深く理解できるようになることを目指す。この講義では、パーソナリティ心理学の基本的な諸理論を学び、性格に関する多面的な理解を持つことで、自分自身の性格についての気づきを深める。	
			青年期とアイデンティティ	講義形式で行う。テーマは「自分も含めた青年期とアイデンティティ形成について多角的に理解する」。「人間発達に関する専門的知識を習得し、私たちが生活する社会の形成を可能とする心の仕組みについて理解する。」「人間の営みに関心を抱き、深く洞察することで発見した生活に関する諸問題について、人間科学の観点から分析するために必要な、総合的知識を有することができる。」を目標とする。さまざまな時代、そして現在自分が生きている社会における、青年期とアイデンティティについて考えていく。	
			非行犯罪臨床心理学	講義形式で行う。テーマは「非行犯罪心理学を学び、臨床心理学的援助の道を探る」。「自分なりの非行、犯罪観を持ち、的確に述べることができる。」を到達目標とする。非行、犯罪は、もとより心理学だけで捉えられるものではなく、社会、経済、文化的要因や生物学的要因までを含む多面的現象である。こうした視点に立って、わが国の非行の現状を把握するとともに、非行を理解するための理論的枠組みを学習する。その上で、臨床心理学的援助活動の可能性について学ぶ。	
			ライフコース論	講義形式で行う。「ライフコース研究の特徴や主要な概念について説明することができる。」「出来事経験（結婚や出産）にどのような変化が生じつつあるのか、その要因とともに説明することができる。」「社会変動が人々の人生にどのような面でどのような変化をもたらしていったのかを説明することができる。」を目標とする。ライフコース研究の特徴や分析のための概念について概説し、日本における人生の変容の趨勢をとらえ、晩婚化、少子化、女性の働き方の変化など、戦後の日本社会における人生の変容について考えていく。	
			ジェンダー論	講義形式で行う。「現代の日本社会を中心に、自分の力でジェンダーをめぐる諸問題について観察し、分析することができる。」「マスメディア（新聞、雑誌やテレビ）が流布するジェンダーステレオタイプに対して、何が問題なのかを見抜くことができる。」「デートＤＶ、セクシュアルハラスメントなどの当事者として関わる可能性のある問題に対する正確な知識を身につけることができる。」を目標とする。各種の調査データや映像資料などを参照しながら、いかにして〈男らしさ〉／〈女らしさ〉が社会的につくられていくのかを検討していく。	
			コミュニティ心理学	講義形式で行う。テーマは「コミュニティにおける心理的援助の理論と実践」。コミュニティの概念とコミュニティアプローチの理論と実践例について理解することを目標とする。コミュニティとは何か。今、日本で起きているさまざまな問題の背景には、従来の日本にあったコミュニティの崩壊がある。新たなコミュニティを創り出すことも求められている。コミュニティ・アプローチはこうした現実にどのように働きかけることができるだろうか。理論と実践について講義する。	
			メディアと社会	講義形式で行う。テーマは「グローバル化する現代社会における生とメディア」。「グローバル化という変動について理解することができる。」「メディア論と関わるキーワードを理解することができる。」「インターネットや携帯電話などをめぐるキートピックを理解することができる。」「現代社会の人と人とのつながりの根本問題について批判的に考察することができる。」を目標とする。生・犯罪心理・幸福感とメディアの関係を通して、現代社会における人と人とのつながりの現状、新しい可能性などについて考える。	
			人生課題と法律	講義形式で行う。私達が生活していく上では、様々な形で法律問題に出会う。また、心理臨床はじめ様々な対人支援の場では、解決すべき問題の背景に法的問題が隠されていることが多い。家族・親族の紛争、少年非行、子どもの養育をめぐる争い、虐待、遺産相続、消費者問題などについての基礎的法律知識は、諸課題に対して適切な関与を行う上で必須のものと言える。本講では、第一線で実務に当たっている弁護士をゲスト講師に迎え、私達が、自律的に生活し、責任ある職業生活を送るために必要な基礎的な法律知識と法的感受性を身につける。	

第Ⅱ類科目	基礎部門	基礎ゼミナールⅠ	演習形式で行う。発表者は、テキストの内容を簡単にまとめたうえで、その章に関連のある文献をさらに調べ、他の考えや用語・人名などについて資料（レジメ）を作成すること（Ｂ４判で裏表１枚以内）。当日は４５分程度で発表してもらい、残り時間はクラス全体でディスカッションをする。思春期・青年期の心理に焦点をあて、基本的な知識や概念を学ぶ。また、テキストを読み、発表に向けて資料を調べたり、ディスカッションで意見を交換したりするスキルも身につける。	
		基礎ゼミナールⅡ	演習形式で行う。学生に順次発表・回答させ、グループ形式で学習成果を発表させる。双方向型授業を重視し、ディスカッションも取り入れる。「日常なにげなく行っている言語的やりとりや非言語的な交流、あるいは自身の生育歴を意識化し、目的に沿って、適切な態度、ふるまいができるようになる。」などを目標とする。臨床心理学的な援助の基本であるカウンセリングについて理論的な概要を文献から学んだ上で、傾聴訓練を体験的に学習する。	
		心理査定法	講義形式で行う。双方向型授業を重視し、ディスカッションも取り入れる。テーマは「パーソナリティや精神状態のアセスメント（査定）について学ぶ」。心理査定の歴史と理論、心理検査の効用と限界を理解し、代表的な心理査定法を実体験する。「生育歴と背景状況からみた自己理解・他者理解ができる。」ことを到達目標とする。この講義では、基礎的なアセスメントについて学習する。	
	方法・研究部門	対人社会心理学	講義形式で行う。テーマは「社会心理学の基礎知識」。社会心理学の基礎知識を身に付け、その知識を基に、日常の、特に対人場面で起こる現象を理解するための「まなざし」を培うことを到達目標とする。多様な領域にまたがる社会心理学について、特に心理学的社会心理学における対人認知や自己認知、個人と集団等の基礎知識に焦点化し検討していく。講義形式ではあるが、単なる知識の伝達ではなく、出来るだけ各自が個々の考えを表現する機会を持てるようにする。	
		認知心理学	講義形式で行う。テーマは「私たちがどのように知識を得て、そしてその知識を使っているのかを認知心理学の観点から学ぶ」。私たちの日常的な精神活動について、身近な例を通して認知心理学的観点から考察するとともに、人間をより深く理解できるようになることを到達目標とする。人間の知的な精神活動を研究する分野が認知心理学である。認知心理学が「認知」をどのようにとらえているのかについて、具体的な研究例も挙げながら概観する。	
		発達心理学	講義形式で行う。テーマは「発達心理学における諸理論の概観」。発達についての基礎知識を身に付け、その知識を基に、「やりとり」としての発達過程を見つめる「まなざし」を培うことを到達目標とする。発達心理学の諸理論に基づく人間理解とその方法について、基礎的な理論に焦点化し検討していく。その際、「生涯」という時間的枠組みを中心に置き、そこに「社会」という空間的広がりを重ね合わせながら、人間の各発達段階における各時期特有の身体的・心理的特徴を概説していく。	
		発達臨床心理学	講義形式で行う。グループ発表を取り入れて進める。テーマは「子どもと家族の臨床に必要な発達的視点を得る」。「発達の多様性についての視点をもつことができる」「発達の偏りと問題の現れ方について理解し、述べることができる」「子ども（児童期～青年期）と家族の発達支援について、自分の意見を述べることができる。」を到達目標とする。この講義では、子どもの発達の多様性を知り、臨床的視点に立った子どもと家族の支援のあり方について学ぶ。	
		深層心理学	講義形式で行う。テーマは「深層心理学の基本的な考え方を学ぶ・心の深層に焦点を当てる心理療法の視点を学ぶ」。「深層心理学の基本的な考え方を説明できる。」「心の深層に焦点を当てる心理療法の視点を身に付ける。」ことを到達目標とする。深層心理学の基本的な考え方について講義する。	

第Ⅱ類科目	方法・研究部門	精神医学	講義形式で行う。テーマは「精神医学について包括的に学んだうえで、特定のテーマについて興味・関心をもつ」。「精神医学の方法論、対象領域、精神疾患、治療論などの基礎的な知識を全般的に習得する。」「精神科医療、精神保健、精神障害者福祉における心理・福祉専門職の役割について理解することができる。」を到達目標とする。指定したテキストに沿って、主に講義形式で精神医学を網羅的に理解する。	
		人間性心理学	講義形式で行う。映像資料やデモンストレーション、質疑検討・グループディスカッションも取り入れる。フォーカシングの体験学習については、個別・グループでの体験学習も行う。テーマは「人間性心理学の基礎知識の習得とその一領域であるフォーカシングの体験学習」。「フォーカシングが心理的な変容の基礎プロセスであることを体験的に理解できる。」などを到達目標とする。ジェンドリンなど多くの心理学者の理論と実践を紹介する。そして、このような価値観と哲学が、広く心理臨床の実践とつながっていることを学ぶ。	
		家族臨床心理学	講義形式で行う。テーマは「家族に関する心理学的な理論や研究、および臨床的な問題について」。「家族や人間関係をシステムとして捉える見方を習得する。」「家族、それぞれの発達に応じた心理課題を理解する。」「現代の家族が抱える問題について考えを深める。」「自分自身についても家族という視点から理解を深めることができる。」を到達目標とする。この講義では、家族臨床心理学における基礎理論を学び、家族のなかで生じる様々な心理学的な問題について考える。	
		教育臨床心理学	講義形式で行う。テーマは「教育分野での臨床心理学の特徴と基本的枠組みを理解する」。「教育や学校現場の特性を理解し、不登校やいじめ、発達障害などの具体的な問題に対して、心理臨床の基本的な関わり方や留意点を述べることができる。」を到達目標とする。教育分野における臨床心理学の基本的な知識・理論を習得し、その上で教育現場の現状にも目を向ける姿勢を身に付ける。また、臨床心理学が教育分野にどのように導入され、役立ち得るか、現状を見据えたアプローチを考える。	
		病院臨床心理学	講義形式で行う。テーマは「実際の病院における臨床心理士の果たしている役割について学習する」。「病院臨床における心理療法や心理査定などの領域を学習し、心身症や精神疾患についての理解を深めることができる。」「実際の医療現場での臨床心理士の果たしている役割、限界と問題点が理解できるようになる。」を目標とする。臨床心理の果たす役割について、また、現場の特性と患者心理の理解とチーム医療のあり方について学習する。	
		産業臨床心理学	講義形式で行う。テーマは「産業領域における心理臨床」。「産業領域でのメンタルヘルスの現状と対策についての知識を得る。」を到達目標とする。グローバル化、ＩＴ化、コストダウン、リストラ、成果主義など企業を取り巻く環境は激変している。職場のメンタルヘルスの状況も年々悪化している。終身雇用と年功序列に守られていた個人は、この変化の中で生き残り、自らキャリアを切り開くことを迫られている。その現状と対策について組織と個人の視点から考えていく。	
		臨床神経心理学	講義形式で行う。テーマは「精神活動の生物学的基礎である脳の働きを知る」。「脳の機能を理解し、脳と心との関係について理解を深めることができる。」を到達目標とする。精神活動の生物学的基礎である中枢神経系の組織（マクロ、ミクロ）と機能を踏まえて、言語、記憶、認知など、個々の精神機能の理解を深める。脳の局在を学ぶと同時に、他領域との連合による精神活動全体を考える。	

第Ⅱ類科目	方法・研究部門	臨床心理学実務特講	講義形式で行う。双方向型授業を重視し、ディスカッションも取り入れる。自閉スペクトラム症およびその周辺の障害の心理と治療教育法について学ぶ。自閉スペクトラム症、注意欠陥／多動性症、限局性学習症など、中枢神経系の機能障害によって起こる神経発達障害の心理メカニズムや特性についての知識を習得し、認知特性に応じた治療教育の方法について考える。講義では、神経発達障害の理解のために必要な中枢神経系の生理・解剖知識、発達障害における認知機能の偏り、発達障害の診断特性などについて解説する。	
		臨床心理学技法特講	講義形式で行う。双方向型授業を重視し、ディスカッションも取り入れる。精神分析を基盤とする力動精神医学の基礎を学び、心理カウンセリングや心理療法の他、精神保健相談、入所施設、精神科入院治療、医療心理学実践など、さまざまな臨床場面で活用できることを理解することを到達目標とする。講義では、精神力動論（精神分析理論）と力動精神医学の成立、心の構造と力動的葛藤、局所論的見地、発達・退行論的見地、心的現実と現実検討、治療関係論、精神力動的診断、力動精神医学の臨床的応用などについて解説する。	
		臨床心理学理論特講	講義形式で行う。グループワークも行う。テーマは「臨床心理学の様々な理論やその実践について学ぶ」。「臨床心理学の理論や考え方、実践について広く理解し、それについて説明したり、自分の考えを述べることができる。」を到達目標とする。心理療法の専門分野について概説し、臨床心理学の諸理論・実践の現状などについて幅広く調べ学習と講義をする。	
		児童福祉学	講義形式で行う。受講生の発言を軸に授業を展開していく。テーマは「児童家庭福祉について考える」。「子どもの権利・子どもを取り巻く社会環境の変化について、自分なりに説明できる。」「福祉についての基本概念を理解する。」「児童家庭福祉についての法律の概要、また、諸外国との比較から、日本の現状を理解する。」などを到達目標とする。社会の影響を理解した上で、こどもの成長を社会全体でどうサポートしていくべきかを考える。	
		医学概論	講義形式で行う。テーマは「臨床医学の基礎と実際」。「人体の構造と機能、疾病の概要、障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係をふまえて理解できる。」「国際機能分類（ＩＣＦ）の基本的な考え方、健康に必要な知識を身に付けることができる。」「リハビリテーションの概要について理解できる。」を目標とする。人体の構造や機能、様々な疾患、障害などについて社会福祉の専門職にとって不可決な基礎的知識を習得する。	
		医療福祉論	講義形式で行う。テーマは「社会福祉士として必要とされる保健医療に関する法と制度、それらを基盤としたサービスを理解する」。「現在の日本における医療の供給体制について説明できる。」「医療に携わる医療従事者の資格と役割について説明できる。」「社会保障の一部としての保健医療サービスの仕組み（主に診療報酬制度）を説明できる。」「多職種連携の実際について説明できる。」を到達目標とする。社会福祉士国家試験に必要となる知識をテキストに沿って講義する。	

第Ⅱ類科目	方法・研究部門	心理療法論	講義形式で行う。発表、ディスカッションも取り入れる。テーマは「心理療法について、その科学性と曖昧さの両面を理解し、具体的ないくつかの技法について学ぶ」。「心理療法について基本的な理解をした上で、さまざまな療法が“変化”を生み出していく仕組みについて自らの体験に照らして理解することかできる。」などを到達目標とする。心理療法という営みが何を変化させるのか、どのような機制によって変化を生み出すのかなどを中心に学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） （5　日笠摩子／7回） 心理療法の多様なアプローチ概観、クライエント中心療法、認知行動療法、マルチモデル療法、新しい心理療法、エリクソン派療法、プレイセラピー他の非言語的療法、精神分析的プレイセラピーなどを学ぶ。 （4　玉井邦夫／8回） 古典的条件付けとオペラント条件付け、シェイピング技法と強化のタイミング、認知の構成要素、認知行動療法の基本図式、破局的解釈と不安の保存、SUD、ことば・きもち・からだ、強迫性障害の認知行動療法、虐待とPTSD、トラウマへの治療的アプローチ、家族療法などを学ぶ。	オムニバス方式
		心理援助論	講義形式で行う。テーマは「心理援助の基本姿勢と課題を学び、広く日常生活における心理的援助のあり方について学ぶ」。「現代社会における心理援助の意味を自分の言葉で説明できる。」「アセスメントの重要性とその方法について的確に説明できる。」などを目標とする。様々な事例を用いながら必要な支援を見極めること、実際の支援の方法を学ぶこと、支援を受けた際にどのように自分が感じるかということに焦点を当てて広く心理援助のあり方について学んでいく。	
		発達援助論	講義形式で行う。テーマは「発達の躓きをもつ子どもとその家族に対する支援のあり方を学ぶ」。「発達障害の概念を理解し、自身の生育歴や体験を引きながら説明することができる。」「子ども家族の支援についての基本的視点を獲得し、支援の方針を立てることができる。」を到達目標とする。この授業では、発達障害の概念を通して「障害をもつ／支援を必要とする」ということがどういうことなのか理解する。また、その支援においてどのような精度が設計されているのか歴史的背景も含めて理解する。	

第Ⅱ類科目	演習・実習部門	心理学基礎演習	演習形式で行う。テーマは「実験やインタビューなど心理学で用いられる基礎的な研究方法を演習形式で習得する」。「研究者としての態度を身に付け、データの測定・収集やその分析ができ、結果を適切な形でまとめることができる。」を目標とする。自分が実験者となり、科学的な研究方法の基盤を体得することを目指す。さらに、インタビューの方法や質的データの分析方法、観察法や調査研究の流れなども体験し、心理学の研究方法を具体的に身に付ける。	共同
		臨床心理学基礎実習Ⅰ	実習形式で行う。テーマは「関連領域の実務の実際を知る。幼児発達の実際」。「様々な実務領域を知り、自らの進路について、より主体的に考えることができるようになる。」「幼児の発達に関する実際的、基礎的理解でき、幼児と関わることができるようになる。」を目標とし、様々な領域で仕事をされている臨床実務家による特別講義を伺い、各領域の実務の実際を知り、人を援助する仕事の本質について考える。年間３回の保育園見学実習を通して、幼児の発達について、実際的、体験的理解をする。	共同
		臨床心理学基礎実習Ⅱ	実習形式で行う。テーマは「関連領域の実務の実際を知る。幼児発達の実際」。「様々な実務領域を知り、自らの進路について、より主体的に考えることができるようになる。」「幼児の発達に関する実際的、基礎的理解でき、幼児と関わることができるようになる。」を目標とし、様々な領域で仕事をされている臨床実務家による特別講義を伺い、各領域の実務の実際を知り、人を援助する仕事の本質について考える。年間３回の保育園見学実習を通して、幼児の発達について、実際的、体験的理解をする。	共同
	専門ゼミナール部門	臨床心理学専門ゼミナールⅠ	演習形式で行う。テーマは「卒業論文を作成するための前段階として、自らの興味・関心に気づき、それらを研究する方法を選定することができる」。「自らの興味／関心を研究仮説の形で表現することができる。」「自らの研究仮説の生成／検証に必要な文献をおおまかに探索することができる。」「自らの研究仮説の検証に必要な方法論を想定することができる。」を目標とし、論文執筆における先行研究の位置づけや、論理展開の仕方について学ぶ。基本的な統計技法について、実際のデータを使って利用法を体得する。	
		臨床心理学専門ゼミナールⅡ	演習形式で行う。テーマは「卒業論文を作成するための最終準備段階として、自らの研究仮説の構築をする」。「自らの研修主題に関連する先行研究の文献を適切に収集できる。」「先行研究を的確に内容把握し、自らの研究仮説と関連づけることができる。」「自らの研究仮説を構築し、研究計画を立てることができる。」を到達目標とする。各自の研究主題に即して先行研究をレビューし、自らの研究仮説を生成することができる。	
		臨床心理学専門ゼミナールⅢ	演習形式で行う。テーマは「卒業論文の主題と方法論を決定し、具体的な作業を進める」。「これまでに学んできた知識を自らの興味／関心に照らして統合的に活用することができる。」「困難や疑問点について適切な助力を求めることができる。」「計画的な情報収集と分析作業を進めることができる。」を到達目標とする。この授業では、卒業論文の具体的な執筆作業を進める。研究主題および仮説を吟味し、決定する。それに見合う方法論を選定し、調査／実験の計画を立てる。その上で実際の作業を進めていく。	
		臨床心理学専門ゼミナールⅣ	演習形式で行う。テーマは「卒業論文を作成する。専門的文献を正確に理解するとともに、自らの問題意識を学術的に論証していくための方法を身に付け、学習成果や考察を的確に表現し、伝達することができる」。「これまでの学びを卒業論文の形で統合することができる。」「自らの研究内容を適切に他者に伝えることができる。」「自らが獲得した今後の課題意識を表現することができる。」を到達目標とする。卒業論文の作成作業を進め、完成させる。合わせて、結果の発表準備を整える。	

第Ⅱ類科目	応用部門	発達心理査定演習	演習形式で行う。各査定法についての解説を行い、その後演習を行う。テーマは「発達評価のための複数の査定法の施行・採点・解釈について理解する」。「臨床心理学の人間観や心理モデルが発達心理の査定法にどのように反映されているかを理解し説明することができる。」「自らの生育歴とも絡めて査定結果についての解釈ができる。」を到達目標とする。ウェクスラー法、K-ＡＢＣ、ビネー法、ＤＮ-ＣＡＳ、その他の発達評価法について解説と演習を行う。	
		心理臨床査定演習	演習形式で行う。学生に順次発表・回答させる。テーマは「体験学習を通した心理検査に関する知識と技能の習得」。「心理査定の主な検査を実際に体験し結果の考察を行うことができる。」を到達目標とする。実際の心理臨床の場面で使用されている主な質問紙検査・投影法検査について、実習を通して学ぶ。各検査の概要を分担して発表してもらい、全員が実際に検査を体験し、レポートを作成する。	
		臨床心理学技法演習	演習形式で行う。テーマは「人の心に関わるための基礎として自身の生育歴と現在との関連性について自覚して説明できること。」「自らの解決力を超えている場合の支援の仰ぎ方を含めて、心の問題に対する言語的アプローチの基本を獲得して活用できること。」を目標とする。グループ体験をする中で、自分や他者についての気づきを深めていく。１対１の面接における言語的コミュニケーションについて学習する。 （オムニバス方式／全15回） ＜クラス1＞ （2　伊藤直文／7回） オリエンテーションと導入のワーク、グループ討議と課題達成、グループによる合意形成、グループでの協力、他者との関わりによる視野の広がり、グループスキル、グループプロセスの観察について学ぶ。 （4　玉井邦夫／8回） よい聴き手について、フィードバックの技法、使用する感覚への気づきと応答、感情のくみとりと応答、思考を促す応答、目標設定、総合演習と定着確認課題について学ぶ。 ＜クラス2＞ （3　卯月研次／7回） ロジャーズと来談者中心療法、面接事例、正確な理解（くり返しとパラフレーズ）、非言語的コミュニケーション、記録の取り方、聴き手の自己一致、傾聴のまとめについて学び、模擬カウンセリングを行う。 （1　青木聡／8回） 風景構成法、スクイグル、コラージュ、マスク、、ファンタジーグループ、箱庭療法について学ぶ。 ＜クラス3＞ （11　井澗知美／7回） 援助者として人とかかわるということを考え、傾聴の基本練習を通じて心理臨床における面接の技法を学ぶ。 （10　柳田多美／8回） イメージを用いた非言語技法の概説、バウム画、個人コラージュ、相互スクイブル、私の旗印、壺イメージ画について学ぶ。	オムニバス方式
		社会調査研究法	演習形式で行う。テーマは「調査研究法の習得」。「質問紙調査の計画を立て、実際に質問紙を作成して実施することができる。」「統計ソフトを用いてデータ処理の方法を身に付ける。」「統計ソフトの出力結果を読み取り、心理学論文形式のレポートを作成できる。」を目標とする。質問紙法を実際にフィールドで実施し、得られたデータを統計的に処理する方法について学ぶ。統計ソフトに出力された結果が具体的にはどのような意味を持っているのかを考えていく。	
		臨床調査研究法	演習形式で行う。グループで学習成果を発表させる。テーマは「臨床心理学における質的研究法について学ぶ」。「インタビュー調査を実施し、データを分析できる。」を到達目標とする。質的研究の手順を実習する。インタビュー調査を実施し、M-ＧＴＡとＴＥＭを用いてデータを分析する。	

第Ⅱ類科目	応用部門	臨床心理学演習（インターン）	実習形式で行う。テーマは「心理臨床に関連する外部機関での実習を通して心理職の基本的な役割を学ぶ」。「各心理臨床現場について理解を深め、そこで求められる姿勢を身に付ける。」「心理臨床の役割や倫理について具体的に理解できる。」を到達目標とする。心理臨床に関連する外部機関での実習を体験する。事前の指導や、所定の実習時間、さらに毎回の実習記録の提出および最終的な実習報告書の提出などを課す。	共同
		臨床心理学特殊研究ゼミナールA	演習形式で行う。離婚と子どもをめぐる諸問題について、子どもの最善の利益を中心に据えて学ぶ。離婚制度、面会交流、養育費、離婚家庭の貧困、片親疎外、親教育プログラム、里親制度、ステップファミリーなどについての基礎知識を習得し、子どもの最善の利益を考慮して離婚家庭を支援する方法について考える。離婚と子どもをテーマにした小説、漫画、映画などを題材にして、受講者同士で討議することで理解を深める。欧米諸国の先進的な離婚後の子育てに関する取り組みについても紹介する。	
		臨床心理学特殊研究ゼミナールB	演習形式で行う。教員の指定したテーマを発表担当者が発表し、それに基づきグループディスカッションを行う。テーマは「心の傷とは何か、それに対する支援とは何かを考える」。「「心の傷」とは何であるか。」「「心の傷」としての理解が必要な援助領域はどこか。」「臨床心理学的なアプローチとして何ができるか。」　を自分なりの言葉で他者に説明できるようになることを目標とする。トラウマの心理的影響やそれに対する支援に関する資料を読み、受講者同士で討議することで理解を深める。	
		臨床心理学特殊研究ゼミナールC	演習形式で行う。症例研究を読むことを通して心理臨床の実際を学ぶ。学術誌に掲載されている症例研究を題材とする。1回の授業で1事例を取り上げ、全員で討議する。実際の症例に関する討議に参加し、自分なりの理解を説明できるようになることを目指す。課題とする論文は教員が準備し、事前に配布する。発表者が自分の担当した論文（症例研究）の要約と自らの考察を報告し、その後に全員で討議する。毎回、授業後にレポートを作成し、提出してもらう。	
		臨床心理学特殊研究ゼミナールD	演習形式で行う。自閉スペクトラム症、注意欠陥／多動性症、限局性学習症など神経発達障害の当事者や、親などの家族の手記、神経発達障害をテーマにした小説、漫画、ＤＶＤ、映画などを題材にして受講者同士で討議することで理解を深める。主に①神経発達障害の子どもの認知特性をどのように把握するのか、②認知特性に配慮した支援とは何か、③子どものライフステージに沿って支援はどのように変化していくのか、の3点を中心に検討する。特に、臨床心理学的な見方を実際の支援にどのように役立てるかという観点を重視する。	
		原書講読Ａ	演習形式で行う。全員が毎回発表する形態とする。章に書いてある内容について質疑応答を行い、理解を確かめる。疑問点や重要な語句・概念については教員が補足説明を加える。テーマは「英文を通して心理学（発達に関すること）を学ぶ」。「長文の英文を読んで内容を理解できる。」「発達に関する専門用語を英語で理解できる。」を到達目標とする。英語で書かれた心理学の本を読むことで、読解力を高めることを目的としている。中級以上の英語力が要求されるので、基本的な語彙や文法を身につけたうえで履修すること。	
		原書講読Ｂ	演習形式で行う。学生に順次発表・回答させる。グループ形式で学習成果を発表させる。双方向型授業を重視し、ディスカッションも取り入れる。テーマは「英語を通して心理学の入門的トピックとカウンセリング入門を学ぶ」。「英語で心理学の基礎文献を、音読する程度のスピードで理解できるようになる。」「ウェブサイトの啓発的心理学知識を英語で読めるようになる。」「カウンセリング入門書を英語で読んで、カウンセリングの歴史や実践を知る。」を到達目標とする。心理学の語句や概念の習得ならびに英語での読解力を磨くことを目指す。	

第Ⅱ類科目	応用部門	原書講読C	演習形式で行う。英文で臨床心理学概説に関連する資料を読み、その内容を理解することで、英語読解力を高めると同時に、臨床心理学の全体像をつかむことを目的とする。資料理解には中級以上の英語力を要するので、基本的な語彙や文法はあらかじめ身に付けて履修すること。テキストは教員が準備し、事前に配布する。履修者は毎回、配布されたテキストの指定箇所を段落ごとに、概要をノートにまとめてくること。履修人数にもよるが、全員が毎回発表する形態とする。各章に書いてある内容について質疑応答を行い、理解を確かめる。	
		原書講読D	演習形式で行う。英文で喪失と悲嘆に関連する資料を読み、その内容を理解することで、英語読解力を高めると同時に、喪失と悲嘆の心理学に関する専門知識を得ることを目的とする。資料理解には中級以上の英語力を要するので、基本的な語彙や文法はあらかじめ身に付けて履修すること。テキストは教員が準備し、事前に配布する。履修者は毎回、配布されたテキストの指定箇所を段落ごとに、概要をノートにまとめてくること。履修人数にもよるが、全員が毎回発表する形態とする。各章に書いてある内容について質疑応答を行い、理解を確かめる。	
		卒業論文	演習形式で行う。3～4年次を通じた専門演習において、担当教員が指導する。3年次においては、専門的課題に関する資料収集の方法、問題整理のための基礎技法を学びながら、各人のテーマを明確にしていく作業を行う。4年次においては、各人のテーマを深め、資料の読み込み、方法論の検討などを通じて、卒業論文として具体化する作業を行う。	
		卒業研究	演習形式で行う。3～4年次を通じた専門演習において、担当教員が指導する。3年次においては、専門的課題に関する資料収集の方法、問題整理のための基礎技法を学びながら、各人のテーマを明確にしていく作業を行う。4年次においては、各人のテーマを深め、資料の読み込み、方法論の検討などを通じて、卒業研究として具体化する作業を行う。	

（注）

1　開設する授業科目の数に応じ，適宜枠の数を増やして記入すること。

2　私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。